鹿兒島一件書類

（中表紙）

鹿兒島一件表

大山綱良審問綱領

明治九年十二月七日東京発、但陸行、大坂ヨリ上船、

廿五日　長崎着、

廿七日　林少輔ト同船、鹿兒島着、

廿八日　県庁ヘ出頭、林少輔亦同シ、

廿九日ヨリ十年一月三日迄ハ休暇、

一月中林少輔ト同道管下巡回、宮崎旧県下ニ至リ廿一日林少輔ト分手、

廿五日　帰庁（朱）「大山口供第一号第三条、廿六日帰県ストアリ」

廿六日

廿七日　巡査三十名ヲ新募スルヲ許可ス、

卅日（朱）「廿八日或ハ廿九日　三菱船入港」賊盗三十人許草牟田村陸軍火薬庫ヲ襲ヒ、弾薬ヲ劫掠スト報知ス、（朱）「宿直ハ下河部某ナリ」（朱）「夜半新納軍八来告ク十二時頃ナリ」

三十一日　（朱）「武彦告曰、昨日ヨリ船来リ弾薬ヲ竊カニ積込ト探偵者ヨリ聞込」一等警部中島武彦（健）并巡査三名ヲ遣シ、火薬局吏員ト立会前夜ノ景況ヲ調査セシム、

此時別段依頼ナキカ故ニ護衛ノ処分ヲ施サス、

同夜（第一号口供第七条ニ拠レバ一月三十日夜ナリ）十二時比賊盗千人許海軍火薬局ヲ襲ヒ、四ケ所ノ土蔵ヲ壊チ、弾薬掠奪セリト、大尉新納ナルモノ私宅ニ来リ之ヲ報ス、依テ自分直ニ出庁ス、

右出庁途中ニ於テ、人力車及ヒ駄馬ヲ以テ弾薬ヲ運搬スルヲ目撃セリ、登庁シテ宿直中一等属川上親郷・浅江源左衛門ヲ呼ヒ警部招呼ノ手配ヲナセリ、

応招ノ巡査十二三名ノ内、古川善助・宮内俊造・野村十蔵ノ三名ヲ知ルノミ、

（第一号口供第十条ニハ一月卅一日暁天トアリ）暁天（即二月一日朝）一等警部中島武彦出庁告テ曰、両三日前ヨリ中原尚雄其他ノ者共、私学校党ヲ離間シ、西郷ヲ刺殺セントノ企アル由、谷口藤太ヘ密話ニ及ヒタルヨリ事発露シテ、此弾薬掠奪等ノ挙ニ及ヘリ、最早鎮静ノ術ナシ（彼ノ三十人ノ巡査新募モ、中原其他ヲ探捕ノ為ナリ）

右ノ談話等イタシ、中島始メ其他応招ノ巡査モ

中原始ノ調方ヘ立去タリ、依テ自分ニ於テモ致シ方無之、其儘ニシテ止メリ、

二月一日　海軍少佐菅野覺兵衛出庁、大山面接ノ処、菅野ヨリ火薬庫保護ノ事ヲ依頼セリ、精々保護セント答タルノミテ遂ニ着手セス、火薬掠奪ノ事ヲ鎮台（熊本）ニ報セント菅野カ云シヲ止メタリ、（頭注「第一号口供第十七条ニ是夜下河辺行親罷越シ火薬ハ悉ク水ヲ注キタリシコトヲ報ス、」）

同夜賊盗再ヒ海軍火薬局襲フ、尤火薬ハ既ニ水ヲ注キタリ、

右弾薬ヲ掠奪セシハ、私学校党ノ所為ナルコトハ其前即三十日暁中島カ云イシコトアルヲ以テ之ヲ知レリ、菅野ヨリモ卅一日ニ承知セリ、（朱）「武雄」（健彦カ）

二月二日　書面ヲ以テ火薬庫護衛不能段菅野ニ断ル（此回答文自分承知ナリト三月卅一日口供）

（朱）「中山行高・河野半蔵ハ四等警部、古川源助・宮原俊蔵ヲ六等警部」

午後五時四十分賊又海軍造船所ヲ襲ヒ、佐々木定靜ヲ殴打ス、（朱）「是日ノ暁比ヨリ追々中原等ノコトヲ承ル、」

二月三日　催馬樂ノ火薬庫ヲ掠奪ス、但陸軍ノ分ナリ、

夜一時比被害者樋脇就縛、（中原等捕縛ノ手配ハ遠方ヨリ先着手ニ任スヽ）

二月四日

二月五日　造船所横奪、兵器製造ヲ始ム、

西郷隆盛大隅高山ヨリ帰宅（西郷ハ城下外、武村ノ人也）

此日ヨリ諸方ノ暴徒旧城下ニ集ル、菅野ヨリ三ケ条ノ依頼書ヲ大山ニ送ル、固ヨリ危急依頼ノ文ナルニ、大山ヨリハ返書不致トノミ答タリ、

二月六日（或ハ七日比）　西郷ヨリ招カレ私学校ニ至リ面会ス、西郷曰、今般ノ事ハ予一人ノ為メニ斯ノ如シ云々、最早如何トモ為シ難シ、依テ尋問ノ為メ出京ト決シタリ、

右西郷ノ談話ニテ隆盛ノ兵ヲ率テ出発スヘキノ権アルコトヲ知レリ、県庁内ニ於テ兵粮焚出シノコトヲ許可セリ、

二月七日

二月八日（或ハ九日朝トモ云）　太平丸琉球ヨリ薩港ニ入ル、

二月九日　暴徒等カ出兵ノ事ヲ菅野ニ報ス、高雄丸薩港ニ入ル（河村大輔林少輔乗組）、久光ヘ面謁、

二月十日（或ハ九日ノ朝ト云）　迎陽丸薩港ニ入ル、被害者野村綱此艦中ニ在リ、中原尚雄等ノ口陳ヲ各所ニ掲示ス、

（朱）「拇印日表」（「中原始手続書」黒字活版口供）

「二月六日」（朱）「中原　尚雄」「二月八日」（朱）五日「山崎　基明」（朱）

五日「高橋　親章」（朱）

五日「土持　高」(朱)
七日「柏田　盛文」(朱)
五日「園田　長輝」(朱)
五日「菅井　誠美」(朱)
五日「大山　綱介」(朱)
五日「猪鹿倉兼文」(朱)
五日「伊丹　親恒」(朱)
七日「西　彦四郎」(朱)
七日「前田　素志」(朱)
七日「高橋　爲清」(朱)
五日「野間口兼一」(朱)
七日「松下　兼清」(朱)
「野村　綱」(朱)

「二月八日」五日「平田宗質」(朱)
「二月九日」(朱)
五日「安樂兼道」(朱)
五日「樋脇盛苗」(朱)
「二月五日ヨリ両三日経タルト覚」(朱)
五日「田中直哉」(朱)
「二月八九日頃ト覚」(朱)
五日「末弘直方」(朱)
「二月十三日」(朱)
十三日

二月十一日
二月十二日　西郷登京ノ段ヲ管下ニ布達ス、
二月十三日　燈明船テーホル号薩港ニ入ル、賊徒等之ヲ奪ハントスルニ能ハス、
朝廷ヘ御届書ヲ出セリ、西郷ヨリ登京ノ届書ヲ帰庁(ママ)ニ出ス、
二月十四日　沿道ノ鎮台諸県ヘ西郷等上京ノコト并ニ被害巡査ノ口供ヲ通知ス、外ニ添翰アリ、
専使出発、
二月十五日　賊兵二大隊出発、
二月十六日　賊兵二大隊発、
二月十七日　西郷・桐野・篠原発ス、弾薬ヲ迎陽丸ニ載セ阿久根ニ廻漕ス、
士族多勢出庁、家禄下ケ渡ヲ迫ル、依テ海陸軍局ヨリ預ケアル金ヨリ振替渡シタルヤモ難計、
西郷ノ賞典禄并東京永田町住家売却ノ代金共、県庁ニ預ケアル三千円都テ西郷ニ渡シタリ、
私学校生徒等旅費金ハ一人廿五円ツヽナリト聞ク、
二月十八日　賊等海軍造船所ニ於テ制作ヲ始ルニ付、菅野ヨリ県令大山ニ面会、右ノ次第尋問ノ処、大山曰、造船所始末ノ義ハ昨十七日拙者ヘ被托候、就テハ、当今ノ場合トテモ船艦製造ノ義ハ見込無之ニ付帰京スヘシ、過日河村海軍大輔ヨリ依頼ノ次第モ有之付、聊カ懸念スヘカラスト、

二月十九日　大平丸出港、
裁判所官員大平丸ニ乗組帰京、春日艦入港、
二月廿日
二月廿一日
二月廿二日
二月廿三日
二月廿四日
二月廿五日
二月廿六日
二月廿七日　西郷等登京途中熊本ニ於テ不得已戦争ニ及フ段政府ヘ達ス、岩倉公宛
中原尚雄等ヲ四十三人ヲ新築ノ獄ニ囚スル段、政府ヘ上達ス、仝上宛
二月廿八日　千田貞曉ヘ書翰ヲ遣シ、御届其外ヲ依頼セリ、
三月一日
三月二日　被害ノ巡査三十七名ヲ渥美少検事ニ引渡セリ、
三月三日　被害巡査ノ證拠物ヲ差廻カタキ云々ヲ県庁第四課ヨリ才判(裁)所検事局ニ通シタリ、
造船所官金国立銀行ニ預ケ、其抵当トシテ取置タル公債證書ヲ県庁ニ預ケタルニ、県庁ニテ正金ヲ銀行ヨリ取揚タリ、追テ催促セシニ二千五百円丈ケヲ渡タリトノ段、菅野并中主計栗原實ヨリノ届書ニ明カナリ、

(中表紙)

鹿児島一件人名録

玉石混淆

田畑大書記官　原宮崎県大属林少輔ヨリ鹿児島エ見届ニ遣ス
園田信行　陸軍火薬局在勤
新納軍八　一等警部ニテ中原始取調ノ頭取私学校党　四月十三日呼寄上申
中島武(健)彦　海軍火薬局在勤、少佐
菅野覺兵衛　造船所官員掠奪ノ夜当直
下河邊行廉　県官員
青山勇造　西郷母方ノ叔父、河村大輔ノ岳父河村大輔此宅ニテ西郷ニ面会セントス
椎原與右衛門　原鹿島才判所官員、四月十三日呼寄上申　二月二日四等警部ニ任ス
中山行高　前仝断　四月十三日呼寄上申
河野半藏

古川源助	此二人ハ前同月同日六等警部ニ任ス
宮内俊蔵	〃十三日　呼寄上申
樺山久兵衛	此中山始四人ハ私学校党ニ非ス　〃　呼寄上申
今藤宏	〃　呼寄上申
仁禮景道	口供取直シ
永吉小藤次	仝断　〃　呼寄上申
原作蔵	政府御届ニ出ル　〃　呼寄上申
篠崎新平	熊本ヘ専使　滋賀県七族　元彦根藩士　呼寄上申
嶋本義澄	同　〃　呼寄上申
禰寝清	長崎福岡中国筋専使　〃　呼寄上申
伊藤一作	四国ヘ専使〃　呼寄上申
平山重助	同　〃　呼寄上申
福永猶之丞	愛知静岡ヘ専使　〃　呼寄上申
伊藤海軍少将	熊本より立帰開戦ノコト報
春山行道	尚雄等ノ証拠物ヲ熊本ニ取リニ遣ス　〃　呼寄上申
木藤武照	鹿児島県学務課長　〃　呼寄上申
右松資長	鹿児島ヘ出店　尚雄等口供ノ仮名付治板ヲ売出ス
和泉屋	中原ノ引合　〃　呼寄上申
谷口藤太	野村綱ノ関係
野村十郎太	千田ヘ書状ハ林ニ宛テ来ル
林徳左衛門	承恵社長
嘉納加之助	旧生産会社即承恵社員　長崎在勤
平田豐次	戊申分捕ノ金員二万円ヲ預カル
笠野熊吉	大窓代ノ周旋ニテ養蚕ノコトニ雇入ル上野ノ人
畑中源右衛門	勧業寮官員
四谷	同
杉田晉	
三村	
コッフス	洋人
千田貞曉	東京府大書記官　薩人
楢原孝五郎	島津家令
川上親郷	鹿児島県属　三重其外ヘ専使モ勤ム　此両人十年一月卅一日県令ノ命ヲ受、警部招集ノ手配ヲナス
浅江源左衛門	原東京府出仕　迎陽丸ニテ帰薩
種子島忠助	原兵庫県塩職　迎陽丸ニテ帰薩
岩本基	在鹿児島　岩本ノ為ニ上陸ノ印鑑ヲ周旋ス
浅井猶之助	基ノ弟
岩本平八	原宮崎県官員　野村綱ヨリ上陸ノ印鑑ヲ依頼
上村久助	上村ハ宗高ニ因テ印鑑ヲ乞フ　宗高ハ第一課ノ官員
平田宗高	中原尚雄ノ朋友ニテ十年一月十一日尚雄ト面会、四月十三日呼寄上申
大久保規正	

大久保一郎	私学校党ヨリ嫌疑ヲ受クル	
横山勇造	〃 呼寄上申	
吉國孝之助	〃	
道端某	〃	
森吉藏	〃	
宮場雲臺	〃	
野村十藏	警部 火薬庫関係	
上村清之助	活版所頭役	
澁谷國安	出納課長一等属	
中村恕平 兼志	二月二日大山ノ令ヲ受ケ弾薬掠奪ノコトヲ内務省ヘ御届ケニ出京	五十二年九ケ月
山田海三	三等属 渋谷同断	
大野新八郎	出納課 十二等	
高迫彌一	家禄税 島方勘定 十五等 合セ二万円ヲ大蔵省ヘ収メニ出京	
藤島良士	等外	
相川彌九郎	三国丸持主	
吉富猶次郎	右船長	
有村國彦	大久保卿ノ内命ヲ受ケ明治艦ニ乗ル	
折田平内	開拓少書記官	
横山定國	家禄金二十万ヲ大蔵省ヨリ受取、三国丸ニ乗込	
伊集院篤	神戸迄着	
山名直吉	鹿児島県用達 大坂北溝	
三河屋忠兵衛	鹿児島県用達 東京小網町	
相川一平	出納課十二等 弾薬ノコトヲ渋谷ニ語ル	
簑田中属	出納課	
鎌田一兵衛	〃	
園田彦右衛門	承恵社員	
村岡平八	第五銀行	
田尻務	鹿児島県士族霧島大宮司 東京政府ヘ御届ノ専使	
永吉實	〃 同	
相良雄造	〃 同	
平岡八郎太夫	〃 静岡県ヘ専使 十等属	
福永猶之丞	〃 静岡県ヘ専使 十五等出仕 地租改正懸	
上原保助	〃 非役 旧大属 静岡県ヘ専使同行	
山本實明	鹿児島県士族	
長倉訒	同 山口・兵庫・堺三県ヘ専使	
折田常隆	同 山口・兵庫・堺三県ヘ専使	
伊勢汀	同 福岡・長崎二県ヘ専使	
篠崎眞積	同 福岡・長崎二県并長崎海岸砲台	
福島巖	同 広島県并鎮台岡山県ヘ専使	

同　広島県并鎮台　上村行英
同　熊本県并鎮台・小倉分営・大分県・滋賀県　宇宿行徳
同　大坂府・鎮台・西京府専使　吉井叶
大坂府并鎮台・西京府へ専使
長崎県士族　本村門延
同　大坂府并鎮台・京都府へ専使　貴島平八
同　山形県へ専使　上村精之助
同　山形県へ専使　内藤佳一郎
同　厚地兼治
同　山形県下元新庄藩
上村始へ随行　北條巻藏
同　四本幸二
和歌山県士族
和歌山県専使ト同行　小久保直五郎
三重県士族　鈴木敏勝
長崎県士族、小倉分営・大分県
熊本鎮台并県・滋賀県へ専使　高木正榮
鹿児島県出納課
権中属　木藤武章
寺田惣之丞
同　等外　白濱眞之助
長崎県士族
福岡・長崎へ専使　高本(木)義孝
勧業寮出張　兩角寛
佐瀬
星山彌之助

（中表紙）

第一号

鹿兒島一件　口供

大山綱良

十年三月卅一日審問

一日ノ朝覺兵衞より県庁へ依頼、覺兵衞熊本へ引合ト云、大山云、鎮台ハ県より懸合手順ナレバ暫見合、又云、巡査も私学校党ニ候間、致方ナイカ県ニて申合保護ナス可シ、多分私学校連と存候事、弾薬ハ私学校連へ持運たるヲ以也、一等警部中島武雄より承る、三十日曉ナリ、覺兵衞より之書面ハ見申候事、青山といふ属を直ニ菅野へ遣ス、返答書面ハ慥ニ致シタル事と存候、陸軍省弾薬之時より迚も手可及不申候間手ヲ付不申、

十年四月二日審問

昨九年七月上京ノ内命有之、七月五日県地発足、十七日

東京着、内務卿病気、大久保面会ハ日ハ不覚、県改革之事談有之、猶予ヲ乞フ、林へも相談ス、

右四五日過テ大久保より呼ニ参ル、大久保ニ於テ猶予ノ事情ヲ了ス、今藤・三村上京（熊本変動前出立）、両人県ノ属ナリ、田畠（畑）辞表ノ意ノ手紙来ル（十一月初比）、楢原（奈良原）出京暇乞ニ参ル、内務卿より之談ヲ久光へ通ルコト宜シト楢原へ申談、

新任之事不相運ニ付、今藤同道ニて三條公へ伺候（辞表取下ケニナル）、

林薩摩在勤ノ内命ハトクニ受テ居ル、熊本出張ノ序手紙罷越、禄券ノコトニテ長崎カ熊本ニテ出会スヘシト返答セリ、

家禄ノ指令十二月六日、

七日陸行帰県、

林へ委任ノコト、内務卿より達ス、

今藤・三村ヲ熊本ニ遣シ長崎ニ出会ノコトヲ申遣ス、

大久保より出立之節県下不穏旨林より電信有之旨談シタリ、私ハ一向承知セスト答、

十四日頃大坂着、

県下ニハ官員引入、　主上孤立ト風聞有之、出水辺之もの県へ実否ヲ承リニ罷出ル、園田信行熊本ニ帰ル（宮崎県、大属）、

其ものヲ鹿島（児脱カ）へ林より見届ニ遣ハス、大山ハ大坂ニ四五日も船待ヲナス、

廿五日長崎着、

廿七日林ト同船ニテ鹿児島へ着ス、

廿八日林県庁ニ出頭、廿九日より三日迄休暇、

一日より三日迄加志木（治）郷へ塩浜ノ建築達成ヲ検査ス、

四日より林初出勤、今泉郷へ林出張、九日頃ニ帰ル、

林各課ヲ検査シ、課長ヲ改ムルニ及ハスト云、且大山ノ意見ヲ問、私ハ当県ハ御布告ノ達セス、各県ト相異ナル風聞も有之候間、孰レニモ人ヲカエル方ナルベシト答、

併シ林ノ意ノ如クナラハ、当分ハ是レナリニ致置クベシト云フ、於是参事初一統奉職ト決ス、林云、西郷隆盛ニ面会センコト求ム、然ルニ西郷行方不相分、十八日朝押懸面会セントスルニ留守ナリ、大久保より林少輔へ書面ヲ西郷見セ度故ノコトナリ、因テ之ヲ大山ニ托ス、

其書面ハ西郷ノ弟ニ托ス、大隅ノ大山波戸場昨年願立タルニ付、十八日林ト同道見分ニマイル、

林ハ廿一日出立日向へ廻ル、大山ハ此より分手、大山ハ廿二日出立、廿五日帰県、

廿六日出勤不仕、廿七日より出勤、

廿八日

廿九日是晩陸軍ノ弾薬ヲ奪フコト始マル、

三十日夜半、新納軍八参リ告グ（十二時頃ナリ）、三菱ノ船ノ参ル、

廿八日カ廿九日ナリ、武彦（中島健彦）曰、一昨日より船参リ、火薬ヲ竊ニ積込ト探訪方より聞込、三菱船来ルより火薬ヲ奪フコト始マル、

二月三日暁より追々中原始ノコトヲ承ル、中原始へ手ヲ付ルハ遠方より先ニス、中島始十三人ヲ呼テ火薬ノコトヲ聞キタルニ、私学校党ナラテハ斯ク多人数ハアラスト云フ、中原始ヲ捕縛ノコトハ職掌ノコト故之へ手ヲ尽スト云、

三十日宿直下河部（辺）ユキチカ（行廉）、菅野ノ前ニ下河部より報知セリ、一日ノ朝青山勇蔵ヲ造船所へ遣ス、其時菅野へ添書ヲ遣スト相覚、

（頭注）「太平丸外二船ニ私学党より番兵ヲ付ク、洋人四人乗込在国ノ洋人ニ面会セ

九日太平丸入港、佐土原旧知事乗組ノ船モ同日入港、高雄丸モ同日入港、其日十二時過河村大輔より書面来ル、

ントテ上陸ヲ頼ム、木梨ヨリ手紙差越シ上陸ヲ依頼ス、両三日ノ間ト返事十六日八時頃潮辺ヲ遣シ木梨ヲ迎フ、十八日出帆ト決ス、十九日愈出帆、

河村より中原始ノ口供ヲ見度ト云、是時取寄スルコト能

皐陽丸、十一日晩久光より大山ヲ呼、其次第ハ高雄丸モ入港ノコトヲ聞、

ハス、河村上陸セント欲ス、西郷ノ母方叔父椎原與右衛

同夜野村上陸、皐陽丸ハ肥後へ廻ル、出帆何日トモ不分、」

門ニ手紙ヲ遣ス（翁ナリ）、大山再ヒ迎ニ行ク、二時過ナリ、

十日

十年四月四日審問

二月二日朝　中島武彦（健）・野村十郎太　中島ハ昨年才判所ヲヲクヨリノ奉職未タ慣ス、中島ハ私学校党より選挙セリ、

中山行高（三十才）・河野半蔵（四十才位）　聽訟課両人才判所へ、勤ム、後辞職、

中島ノ申立、両人ヲ出仕セシメンコトヲ乞フ、

中山始二人ヲ四等警部ニ任ス、一等警部ハ九等ニ当ル、古川源助（三十才位）・宮内俊蔵　同六等警部ニ任ス、

中山・河野ハ私学校党ニアラス、古川・宮内モ亦同シ、右ノ四人ト中島カ頭取テ調ル、樺山久兵衛　以前司法省ニテ資編、武彦等カ樺山ト相談シテ調、右ハ遙カ後ニ承ト云ハル、

二月七日　西郷ニ面会ス朝、尋問ノ為メ上京ト決セリト

西郷ヨリ承ハル、政府へ表向ノ届ヲ依頼セリ、

八日（朱）（頭注）「十一月廿八日鹿児島着」、渥美検事（朱）「九年十二月廿三日上申ノコト

九日　高雄丸参ル、　ニ付鹿児島出立、十年二月五日迎陽丸ニテ神戸ヲ発シ、二月九日薩港着、十日県令ヘ文通ス、返書ナシ、十四日十二時上陸ヲ許ス旨申来ル

十一日　中原始ノ調ヘ草稿マ、西郷へ差廻セリ、今藤ヲ上陸スレハ薄暮ナリ、十五日才判所ニ出勤、鹿児島ノ者ハ尽ク引、オ

御届ノコトニテ西郷へ遣ル、私学校本局（元知事ノ軍馬局ニ立）西郷　判所県庁内ニ在リ、中原始ノ口供ハ既ニ十二日付ニテ検事局廻リ居ル

ハ此ニ居ル、七日ニ県令へ出京ノ主意ヲ西郷ヨリ届　十六日県庁へ懇合、

ル筈ニ付、今藤ヲ遣シ催促ス、是時今藤カ二十二名　重大事故朝裁ヲ仰カラ中原ノ事件ヲ廻ハサレヌト返書来ル、

ノ口供ヲ添テ西郷ヨリ廻スト覚フ、口供ハ枝葉ノ詞

多シ、（十七日県庁ヨリ大警視ヨリ渥美宛ノ電報ヲ差越、）大体ヲ存シ枝葉ハ刪ル、県庁ニテ取直ス、（二月四日付同月八日ニ着シタナラン）浄書セシメテ拇印ヲトル、今藤・河野・中山・新禮景（ヒ）道（十九日太平丸出帆、是船ニ官員ヲ乗込セ上京サス、）五等警部等ニ命シテ口供ノ不都合ヲ取直サシム、大山ハ取直シタル上ニ看ル、（三月一日県令ヨリ呼ビニ参ル、判事補吉本・渥美、鹿崎ノ県令ノ別荘案内ニテマイル、）改竄ノ口供ヲ今藤ヲ以テ西郷ヘ示ス、

二月十二日　表向上京ノ届ヲ西郷ヨリ差出ス、（三月二日表向県令来ル、中原始ヲ即日請取ル、）私学校党名前不相覚モノ持参セリ、（三日大井検事補上申ノ為ノ晩方出立セシム、）御届ハ改竄セス、本書ハ五等属永吉小藤次ヲ以十四日ニ政府ヘ届ケ出シムル（五日阿久根ヨリ茂木ヘ渡ル、）コトヲ命ス、（八日勅使来ル、）政府ヘ御届其外鎮台諸県ヘノ文書ハ今藤之ヲ撰ス、（九日大塚上陸、）

熊本専使　原　作蔵（シカ）・篠崎新平（真蔵カ）（サツ、十五等）

右十四日発ス、

小倉ヘハ熊本より転スル筈、

長崎・福岡専使　長崎県嶋本義澄（等外一等地租改正）

中国筋へも廻ル筈、

外一人ハ名不相覚、

二月十三日　篠原出庁云、九州道路梗塞スルトキハ、豐後ノ佐ガノ關より四国へ渡ル積故専使ヲ依頼ス、

右専使

（十五等出仕）　禰寝　清
　　伊藤一作

愛知・静岡専使

（五等属　十五等）　平山重助
　　福永猶之丞

二月十四日　専使出発、○専使ハ県より使、故ニ旅費ハ出納課ニテ渡ス、

〃　十五日　西郷ノ兵、両道より発、

二月十七日　未明西郷ヘ面会（軍馬局ニテ）、

十五日十六日ノ評議ニハ中原始ヲ護送スルト云フコトアリ、西郷云ニ、是丈ケノ人数ヲ護送スルニハ多人数も入用且入費モカヽル故、県庁ニ残置クヨロシ、大坂ヘ着シタラハ其時ニ中原始ヲ送ル可シ、

西郷云、中原始ノコトモ川路一人ノ了見ニテハアルマイト存ル、内務卿カ野村綱ヘ談シタルニ、火薬モ取リニ遣シタリト云フ、以テスレハ内務卿モ承知ノコトト考フ、

又云、人数ヲマトメテ居ルハ近年ノ内ニ外難ノ興ルト見請ケル故、此人数ニテ外難ヲ防キ国恩ニ報スル心得ニテ有リタルカ、今度ハ中原始ノコトニ付テ上

京、大久保始ヲ詰問セント欲ス、因テ之ヲ率テ発スルナリ、

又云、大久保親友ナリ、呼ニヨコスカ自分ニ来ル可キ筈ナリ、大山云、小倉より先は如何、

西郷答、見込アリ、篠原ハ船橋ニテ懸ケル愚弄半分ノ口上ヲ申ス、五十余名ノ者拘留アリ、

同日十二時頃　久光より呼ニマイル、西郷出立ノコトヲ委敷尋ニナル、大山一々之ヲ答フ、

久光曰、西郷ハ大坂迄無事通ル積リナレトモ、異変ノコトヲ掛念スル、大山モ云、私モ心配ナリト存ル、大山ハ久光ニ随行上京シテ今度ノコトヲ尽力セント云、久光云、西郷上京ノコトヲ取纏メルコトハ自分等ノ力ニ不及、　御沙汰ニテモアラハ上京ス可シ、夫レキリニテ大山ハ退ク、

西郷出立後ハ平常トナル、

同月二十日二十一日カ、外国船（英国）入ル、

薩摩ニ居ル五人ノ外国人ヲ引取ル為メニ来ル、

迎ニ来ル外国人より在薩ノ外国人ニ、近々海軍ニテ勦攘ナルト申コト故迎ニ来ルト云、三人ハ右英国船ニ乗ル、跡ノ者ハ家財取纏メニ付、跡船ニテカヘルト申ス、

同日　春日丸大坂より来ル（西日滞留）、船将ハ伊藤海軍少将ナリ、河村より石炭ヲ囲場より積込ト命セラル、其外ハ聞カス、伊藤ハ西郷出発ヲ始テ承知ス、

二月廿六日カ廿七日　熊本ニテ開戦ノ報知来ル、

立帰申立　（県庁ノ者）春山行充（等外廉ナリ）

（頭注）「廿八日頃西郷より樺山久兵衛カエリ来ル、有栖川宮ヘ差出ス書面持参、大山宅ヘ持来ル、鳳紙ノ如キモノニ書テアリ、西郷より大山宛ノ手紙ナリ、其ノ書面ニハ格別ノコトナシ、有栖川ヘノ書ハ長崎ノ北島宛ニテ洋人コッフスニ托ス、」

廿一日　熊本より川尻へ繰出炮発ニ逢フ、

外国人ノ話ニテ焼払フト聞込タル故、中原始海岸ニアル故甚懸念故、廿一二日より営繕ニ取懸リ新牢ニ入ル、西郷ノコトモハカ〳〵敷参ラヌ故、中原始ヲ才判所ニ引渡サントスル際、渥美少検事モ帰ル故新牢トモ引渡、警部立合、請取ノ證モ見タリ、

（政府ヘ届ケネハナラヌト存シ、林宛千田ニ転致、大臣公ニ達スル積リ、）

書面ニテ引渡ス、才判所ニテ一度モ調ナシ、渥美検事より証拠物ヲ要求ス、答云、熊本ヘ発スル警部カ持去ル故、熊本ニ取ニツカハス可シ、

三月六日カ七日　熊本ヘ証拠物ヲトリニ遣ス、（五等警部）木藤武照、

（頭注）「軍艦来ル、始三艘、春日艦伊藤少将より県ノ警部ニ面会ヲ申入ル、学務課長右松資長ヲ応接ニ差出ス、イカリ綱ノコト云、勅使ノ来ルコトヲ承ル、」

中島武彦宛ニテ申遣ス、大山ノ立マテ復命ナシ、

三月十三日　乗船出京、其後ノコトハ存不申、

（八日軍艦遂ニ来ル、洋人ノ咄ニテ県下騒擾、自分一人捕縛ニ付人民ニ代ル賞ヲ）

九時比久光より呼来ル、洋人ノ咄ト相違ニテ勅使ト楢原同道ニ来ル、只今鎮撫ノ勅諚御渡ニナルト聞ク、

九日風雨

十日　護送兵隊ノ宿割ヲ県庁ニテ致ス、大書記官英ヘ右松ヲ遣ス、一逆徒追討、一三名官位剝奪、一二十二名引渡、一帯刀ヲ禁ス、一ノコリ洋人ヲ此船ニカヘス、其晩ニ書面ヲ以テ謹慎ヲ申上、田畠(畑)ヘ出勤ノコト報セラル、

十一日　朝九時ニ　勅使、久光ノ邸ニ至ル、　勅使旅館ニ就ク、

十二日　中原始ヲ引渡トナル、兼テ渥美少検事ヘ引渡置タル間、是より御請取ニナルヘシト答フ、翌日引渡ト渥美より承ル、放免引渡ニ付人気動揺、

同日十二時比　勅使ヨリ召ス、廿二人ノモノ、コト(頭注)「四月五日口供、十三日発足イタシ候間、其跡ニテ大書記官ニテ布達シ」ニ付、布告ノ草案ヲ付セラル、

西郷初逆徒征討被仰出ニ就テハ、此ヘ軍艦差向ニ相成ル、中原始ヲ放免無罪ニナルトテ人心不穏趣ナルカ、全ク左様ニテハ無之、夫々御調ニ相成ル旨ナリ、

右ニ付大山ニモ勅使ニ随行上京ヲ命セラレタリ、

十三日　二時出帆上京、

活字版ニ命ス、県庁内ニテ揚ル、県ノ吟味ニテ活字版ニ付ス、別ニ仮名付ノ口供アリ、相撲場ニ売ル、芝ノ和泉屋ノ出店ヨリ揚リ方ヲ托ス後、出兵後行衛不相分、前方々ノ県ノ人カ会社ニ集リ居ル、仮名付一万部、

(頭注)「底務課ヨリ命、大山モ承知ナリ、」

十年四月五日審問

大山綱良口供

一月　三十日ノ早天ニ中島武彦(健)より弾薬窃盗ノ事ニテ出庁、廿九日、庫四ツアリ壱ツヲ破ル、三十日晩、上ノ山より千人余モ来、四ツノ庫ノヲ取ル、三十一日暁天、番人ヲ中島へ遣シ、中島ハ不在、警部十三人ヲ呼寄スル、中島も此時ニハ一同来ル、中島ニ応接間ニテ面会、彼曰、弾薬ノコト不容易ニ立至レリ、廿八九日比より三菱ノ船カ来ル故、此より弾薬掠奪ノコト起ル、先ノ警部奉職之もの帰県、何カ事ヲ起ス申、谷口藤太ハ其もの共と中原ハ同腹故、是ヘ其謀ヲ一五四十申語ル、発京、私学校ヲ離間シ、西郷ヲ刺殺、熊本鎮台諜合、海陸ニテ蠹戦、弾薬ヲ取ニ来ルハ是迄ノ仕振ト相違セルヲ以中原ノ申コト符合セリ、夫故弾薬ヲ取ルコトトナレリ、巡査ハ私学校

党ナリ、古川初メ申スニハ巡査ハ私学校連ナレハ即盗ナリ、故之ヲ制スル能ハス、三十一日晩、海軍造船場火薬ヲ掠、下河部宿直、

（頭注）「三十一日迄ハ谷口ノコト計ヲ聞ノミ、其余ハ捕縛ヨリ追々承ル、」

中原初ノ証拠物ハ武彦よりハ見不申、田中直哉へ往復ノ書面アリ、

（頭注）「二月十六日証拠物風呂敷包ニテ西郷より取ニ来ル、十七日早天西郷より取ニ来ル、」

一月三十一日　朝三十人臨時雇ノ巡査ヲ命、右私学校党之中よりナリ、県庁ノ第一課より銘々宛ニテ呼出、至急呼出、

右三十一日中ニ三十人ハ揃申候、中原始脱走の聞アルニ付口々ヲ固ム、此より県官員トいへとも一切通行ヲ禁ス、

二月　三日四日五日六日七日比迄捕縛ニナル、取調ハ二分署ニ於テナス、

二月二日カ三日朝　中島武彦・野村十郎太大山宅へ来ル、両人曰、是迄一向重立タル調ハセヌ故、作法モ定ラサル故、中山・河野両人ヲ警部ニ任センコトヲ乞フ、三日中山始メノ両人ヲ五等警部ニ申付、右のもの最初より取調タルト存候事、拇印ヲサセルハ十一日午後ト相覚候事、証拠物　第一暗号　大久保　西ノ窪、西郷　坊主、

十年四月六日審問

大山綱良口供

十六日　証拠物トシテ西郷より参ル、其夜一見、

一暗号ハ誰手帳トハ相覚不申、三四冊アルト覚、

一証拠之中ニ見ルトコロハ公辺ニ書出シタル分計ニ御座候、

第一今度ニ付暗号ヲ拵ヘタルものとハ存不申、今度とハ中原尚雄始ノ西郷暗殺等之事ヲ指シテ云、警部ハ警察ヲスル職掌ト存候、暗号ハ職掌中之事と存候、暗号ハ西郷等殺スノ証拠トナスニ無之、鹿兒島県ノ警部ノ外ハ県下ノ警察ハ出来ヌト申事とは心得不申、凡警察ノ職ヲ奉スルものハ何地ノ警察ヲナスハ当然之事と存候、

第二森藤右衛門之事ハ証拠ものと心得不申、

第三田中ト苗字アリ、猶外三名アリ、慥ニ直哉とハ難申、但田中トアレハ直哉カト推察仕候、半紙ニテ三枚、東京ノ誰カヘ差立たる書面と推察仕候、証拠物と称シテ渡サレタル中ニアル故、証拠書面と公辺へ書立たれとも、只見たるものヲ書出たる計ニシテ、

（頭注）「張紙ノ裏アリ、」

証拠物と申上候ハ甚不都合恐入候、
三ノ外ニ証拠物ハ一向見不申候、
二分署取調之節、大山ハ其席へ一度も出頭スルコトナシ、取調ノコトヲ一切指図致シタルコトナシ、
今藤宏ハ取調ニ関係ナシ、河野・古川・新禮(ヒ)・宮内・中山・中島関係、樺山ハ右ノ六人ヨリ私の頼にて関係、此ノ七人よりケ様〳〵ノ証拠カアルト申事ハ大山ハ一向承不申、
但中島曰、段々大山不評判ノ事アリ、其次第如何、曰、今泉ノ池ヲキリヌキヲ願、昨年二月落成セリ、其事ニ付不評判と聞く、キリヌキニ付踊リヲナス、百人計集会飲酒其時大山詩ヲ作ル、此ノコトハ谷口藤太ノ口より出るといふ、
海岸ノ牢并第二分署ニアル者ヲ県庁ノ新牢へ移スハ二月廿七八日比ナリ、建築ハ一周間ニテ落成、新牢へ入レタル計ニテ県庁ニテ一度も取調不申、二十二名外ニ入牢セシ真宗僧等ハ何ノ訳カ知ラス、口供ヲ直スハ十一日比と相覚候、事柄ハ其儘只冗長ノトコロヲ刪ル計、公布ノ心得如何、曰、ケ様〳〵ノ訳ニテ出京ヲスルコトヲ県下ニ知ラサン為メ、各府県各鎮台へ通知セシト同様ノ心得ナリ、

十年四月九日審問　　大山綱良口供

寶瑞丸ハ原鹿兒島藩ノ船ナリ、林德左衛門ナル者払下ヲナセリ、喜一郎ノ叔父、旧知事ノ生産会社ヲ建、原藩時分ヨリ在ル、琉球并島々商人ノ出ルニ此社ヨリ金ヲ貸付ケル、三十年来ナリ、
八年ヨリ士族ノ給助并学校等資金スルコトヲ旧知事内務省ヲ願出、許可ヲ得タリ、生産社ヲ改名シテ承惠社トナル、右社金ハ県下人民ノ金ナリ、寶瑞丸ハ貸金ノカタニ社中ノ船トナル、承惠社ハ鹿兒島県ニアリ、長崎ニハ生産会社アリ、許可ノ後ハ鹿兒島県内ヘマトメル積、長崎カ未タコノ生産会社ヲマトメルコトニナラス、

社長　士族　喜納　加之助　　当時大坂アリ

大坂ニモ生産会社ノ支店アリ、一月頃琉球支店ノ取纒メノ為大坂ニ在リ、長崎ノ主務平田豐次
二万円ヲ平田ヨリ送ルものハ承惠社生産会社ノ外ナリ、
戊申(辰)ノ分捕ノ金ニテ長崎ノ笠野熊吉ト云モノニ預ケ置キ

タリ、此ハ西郷モ知ルコトナリ、鹿児島ノものナリ、
平田ヘ西郷出京より余程先ニ郵便ニ申遣ス、寶瑞丸修覆
中、笠野熊吉ニ二万円ヲ急ニ引揚ヲ申遣、ワチワストハ
地名、ワチワスノ方ニ笠野商法セリ、

畑中　　上野ノ人

右養蚕ノコトニ鹿児島ニ在リ、其帰ル時ニ托言セリ、（頭注）「大窓代ノ周旋ニテ養蚕ノコト雇入レタリ、」

勧業寮　四谷ツキ行

出張　杉田　晉

外ニ五万円アリ、是ハ製茶ノ立替ノ為メ申遣セリ、
竹ノ筒ニ手紙ヲ入ルヽコトハ他県ノものカ見るを避ケタ
ルナリ、全く西郷ノ為メニ計リタルコトナリ、両人より
唯テハ相達スルコトカ出来ナイト存スルト云フ故、斯ク
取計セシナリ、
畑中ニ書面ヲ破棄セヨト云ヒタルコトハ、申シタカ申サ
ナカリシカ今ニテ覚無之、
茶ノコトハ静岡ノ人ヲ多数雇フコトアリ、此ハ昨年退去、

十年四月十日審問

大山綱良申立

昨年十二月長崎立寄承ル、笠野ノ二万円ハ平田より一万（頭注）「分捕金ヲ承恵社ニ預カル、別口ニ預ケル、西郷モ大山モ承知ノコトナリ、」

二千円余ハ存在ス、残高ハ千円、笠野商法ノ損失引入ニ（承恵社ヨリ笠野カ二万円カル、）
ナリシト承ル、現存ノ内一万円程ハトル（ドル）ニテ在ル、上海
ヘ遣シ、テールト引替ルヘシト云、二万円丈ケハ笠野ノ
借高ナレハ、二万円ハ笠野より取立ヘシト、大山より平
田ヘ談、商産会社ノ金ハ昨年遂ニ鹿児島ヘ引揚、二口分
未取立ニナラス、長崎社中ニ在ルハ二千円程、
林少輔より願書置ケレハ、社金ハ厳重ニ法則アレハ大山
より勝手ニ取ニ遣ル訳ニハマイラズ、

是より野村綱ノコトニナル

野村綱皐陽丸ニテ九日入港、大平丸ト同時と覚、高雄丸
モ入ル、大山ハ高雄丸ヘ参候節、迎陽丸ヲ目撃セリ、大
平丸始メ私学党より番兵相付、県庁ニハ不相分、

十一日　　原東京府出仕

減少ニ付廃官　　種子島忠助

右迎陽丸ニて帰県、忠助ノ親族ニテ番兵セルモノアリ、
種子島子供相携故、長船中在て難渋故、親族番兵ノもの
ヘ相頼上陸セリ、

印鑑

二分署より其時ノ通行印鑑ヲ渡ス、
県庁ノ行政事務ハ私学校党ニ行フ、不相済訳ナレハ、其

勢ニ圧サレ其儘相成居候、中島より従前県庁ノ通行印鑑ニテハ困ルト申談ス、十三日頃より大山より県庁ノ印ナラテハ不都合ノ旨申談シ、県庁ノ印ニテ相渡シ、中島等カ調査ス、種子島へ渡ス印鑑ハ中島等よりナリ、

（頭注）「中島カ渡セハ県ヨリ渡スト同様ト存候、」

右之ものへ浅井猶之進上陸印鑑相渡、

野村同船　　岩本　基

兵庫県奉職　廃官

印鑑ハ岩本ノ弟平八より請取、

県印　第一課ニ掌トル、今藤ノ関係、第二分署へ印ヲ相渡シタル事ナシ、

両人カ外船中ものより先ニ上陸セシハ基・平八周旋ニテナリ、跡のものも同日引続上陸、

○

野村ハ岩本等ニ託シテ、

宮崎旧官　　上村久助

右久助へ上陸センコトヲ申越ス、上村久助より第一課平田宗高へ申出ル、

十一日、是晩大山ハ久光邸ニ参リ夜九時比帰宅、

田畠（畑）云、只今野村綱出頭セリ、出テ来タル様子ハケハシキ様ニテ出テ来ル、

野村ハ船中ニ何事カ不相分、上陸ノ上中原始ヲ朋友ヨリ承ハル、自分ハ主意ハカハリテ居ルカ、内務卿より含メノ承知シタ趣モアリテ帰県ス、

野村、内務卿へ県地事情ヲ知ルコトヲ書柬ヲ遣ル、因テ卿より呼ニまいり、内務卿面談ス、猶御尋ネ之儀もアラハ呼ニ遣スベシト言テ帰宅、

綱良ハ久光方より帰ル、田畠ハ野村ノコトアルヲ以第二分署ノ者呼出ス、野村十郎太出頭、

県庁ノ達ニテ第二分署ニ於テ野村綱ヲ調ルコトニナル、

二月十三日カ十四日カ、野村綱ノ口供警察より上ル、

（頭注）「田畠常秋ヘ綱ノ訴タルコトヲ申立テ「コトヲ取調タリト中島云、」

取扱ハ二十二名同様囚獄ニ入ル、野村ノ口供ヘハ一切筆ヲ加ヘサリシ、

○

自訴とシタ申事ハ云ハヌ、第二分署へ相渡シテ調ヘタル心得違ニ御座候、自訴ト云フコトハ一切云ハヌトハ申上がたし、申シタルカモシレマセン、

○

其節ハ中原始と同様一モノト心得ニテ、第二分署へ相渡候事、

薩州ノ方言ニ自訴ト申コトニテ、法律ヘ懸テノ訴ト申タ

ルコト無之、

十年四月十二日　　野村綱申口

以故訴之、

訴ルトハ届ケ出テタルト申ス心得ナリ、薩ノ方言ニテ届ケヲ訴ルト申スコトハ之レナシ、口上ニシテ書面ヲ以スルコトハナシ、

隣家ニ見タル時ハ写シテアル、幾号トアルハ覚無之、県よりノ布達文ノ体裁、

田畠云、布達ヲ見ルカ、曰ク、見タリ、猶御用アラハ可罷出ト言テ退ク、命ヲ受タルコト如何ノコトニ非レハ決シテ自訴スル訳ナキ故自訴スルニ非ス、篠崎五郎ノコトヲ念ヲ入レテ聞ク、西郷ノ以前愛シタル人ナリ、臺灣一件より愛ヲ失ス、

其書面云々虚実、

スツカリ有リノマヽニ書出シタキ心得ニ非ス、

大久保ヘ参リタル日限等ハ、カエテ書出シタル故虚実ヲ相交ヘト申スナリ、

同　四月十二日午後　　中原尚雄申口

一月十一日　　大久保則正ノ弟一郎

旧十二月十七日　谷口東太ニ面会、縛セラレタルヨリ前四五日ナリ、弐度面会皆谷口より尋来ル、

（頭注）「谷口ハ、伊集院郷ト城下トノ径二里計距、谷口ノ家ニ住シコトナシ、」

初度　松ノ木ノコト、

二度　弾薬ヲ掠奪ノコト、

名義（西郷ニ迫ルコト、少年輩ヲ鼓舞スルコト、

二万五千発

逸見次郎太（辺）

右　弟

捕縛ノ前日

東京より猪カ来ル故猪狩セネハナラヌ、怪問、東太曰、察セネハナラム、

横山有造

吉國孝之助　逃

道端某

森　吉藏　父従弟

宮場雲臺

説得様ノコト致スコトナシ、

邏卒創業ノ時、一処出京、中原ノ周旋ニテ徴集隊ニ東太ヲ入ラシム、

淵邊軍平　丹波参事　近衛少佐
逸見十郎（頭注「此等ハ区長トナル、」）　近衛大尉
別府新助　重モニ西郷ニ迫ル、　少佐
中島建彦　西郷・篠原・桐野ハ勝制シテ陰ハ鼓舞ス、」　某県参事　最初近衛兵隊カ

村田三助

是迄暴発セサルハ全ク西郷ノ力ナリ

出水区長　山富澄右衛門（山口孝右衛門）

（頭注「四月十七日大山綱良口供、有栖川宮ノ布達ニテ西郷始追討ノコト台湾小隊長ナリ」）

古川源助熊本暴動のおり探偵ニ出ル、宮内・古川　承知シテカラノコトナリ、

ハ西郷選挙、同人警部ニ任スル節大山より相談ニテ西郷より挙ク、

佐藤某より此話ヲ聞ク、此時十余人、野村吉助、萩騒　勅使エモ見セス河野繁蔵ヘ遣ヘス、繁蔵ハ勅使到着ノ前日ナリ、県令ノ名義ニテ今日ハ出スコト能ハストロ上ニテ繁蔵ヘ申ス、」

動之時西京御巡幸アルト聞テ探偵、

十年四月十七日　大山綱良口供

一長崎平田豊次ヘノ書中ニ日州各藩トアルハ、

佐土原次男啓十郎事、洋行帰朝後是亦私学校設立シ、

其党二三百人アリ、

右啓次郎外四五人ト同道ニテ西郷ニ随行セントテ県庁ヘ罷出、軍資金ヲ借ランコトヲ依頼ス、自分ハ西郷ハ多人数出張、経費も多分ナリ、其外ものへ金ヲ貸スコトハ出来ヌト断リタリ、西郷も加勢ハ断リタル由、会社ニテ借ラント云、夫ハ勝手タル可シト自分答ヘタリ、旧知事忠義方ヘ参リ金ヲ借ランコトヲ申出タレトモ是モ相断、且其邸ニ立入ルコトモナラヌト申聞タル由、右佐土原次男カ県庁出頭シタル時、適長崎会社之もの出頭イタシ居リタルニ付、其書中ニ日州各藩云々ト申事ヲ書加ヘタルコトナリ、

一自分より中原始ヲ検事ニ引渡スコトヲ西郷ヘ打合タルトコロ、西郷よりハ、如何様厳令アリトモ拙者大久保ヘ面会ノ上、罪アラハ自カラ縛ニ就カラ夫迄ハ検事ヘ渡スコトハナラヌト申越タリ、其時半紙ニ書キテアル有栖川宮ヘ差出ス書面アリ、先般樺山ヲ以有栖川宮ヘ差出サントスル書面カ差出テナケレハ此書面ヲ出シテ呉ヨト、河野半造ヲ使トシテ差越ス、

一勅使下向以前ニ、西郷より中原尚雄等事ニ付、自分宛ノ手紙アリ、自分其手紙ハ勅使久光邸ヘ御入ノ前日ニ

久光ノ一覧ニ差出ス、

一自分より中原等ヲ検事へ引渡スコトヲ西郷へ打合タリ、西郷より如何様ノ厳令下リテモ、大久保ノ上吾罪アラハ自カラ縛ニ就クカラ其迄ハ検事へ引渡スコトハナラヌト申越タリ、其時半紙認メタル有栖川宮へ差出ノ書面アリ、

一先般有栖川へ上申書カ未タ差出テナケレハ今度ノ書面ヲ差出シ呉レヨト河野半藏持参セリ、半藏ノ来ルハ勅使到着ノ前日ナリ、

一右ノ書面ハ勅使ヘ御覧ニ入レス、

一今日ニテハ県令ノ名義ヲ以有栖川宮ヘ差出ス能ハスト口上ニテ半藏ヘ相答タリ、

（中表紙）

拇印済

大山綱良口供写

自第一号
至第十号

第壱号
明治十年三月廿八日申立

鹿兒島県士族

大山綱良

第一条
一自分儀、鹿兒島県令奉職中明治九年東京滞在セシ時、実地処分ノ義林内務少輔ヘ御委任ニ成リ、同人ト共ニ九年十二月廿八日帰県セリ、

第二条
一帰県後管内ノ事情ヲ探索セシニ変リタルコト無ク、自分東京滞在中ニ聞キタル風聞ハ山口・熊本ノ変動ヨリシテ各省ノ官員ハ悉ク引退、朝廷ハ人ナシト本県下ニ於テ風説アリシニヨリ、県下ノ者共朝廷ヲ護衛セン為メ上京スヘシト一時人気騒然タリ、然レトモ其虚実分明ナラサルユヘ旧参事ヨリ説諭シ、且幸ヒ自分ハ東京ニテ御用済、大坂迄立戻リ居モ難図ニ付、右ノ事情ヲ問フヘキ為メ警部二人ヲ（此人名ハ不知）大坂迄差出シタリ、然ルニ自分ハ未タ東京ニ在リシ故面会セサルトモ、彼ノ官員引退ノコトハ虚説ナルコト相分リ、警部ハ県地ヘ引取シト承知セリ、

第三条
一林内務少輔同道ニテ管内巡視セシニ其状更ニ無之、同人ニモ聊カ気遣ハ敷景況ハ無之旨申聞、終ヒニ旧宮崎県迄巡回、同人ニ（マヽ）於テ林少輔ニ別レ自分ハ明治十年一月廿六日帰県セリ、

第四条
一明治十年一月卅一日朝、昨夜草牟田村陸軍火薬局ヱ賊

三十人計押入、庫内火薬奪取リタル旨届出シニ因リ、一等警部中島健彦并巡査両三名（此名前不覚）差遣シ、火薬局吏員ト立会其場ノ模様取調サセタリ、

第五条
一警部ノ外ニ巡査遣ハセシハ別議アルニ非ス、警部出張スレハ巡査ヲ副ヘルノ例ニ因リシコトナリ、

第六条
一火薬局ハ平常番人三人ナリシカ、右ノ賊盗ニ因リ更ニ三人増シタル旨警部ヨリ申立タリ、尤此警備ハ火薬局ヨリ増シタルコトニテ、別段県庁ヱ依頼無キユヘ県庁ニテハ予防方差構ハサリシナリ、

第七条
一明治十年一月三十日夜十二時頃、陸軍大尉新納某自分宅ヱ罷越、今夜モ火薬局ヱ賊徒凡千人計押入、四ケ処ノ土蔵ヲ打壊チ火薬ヲ奪取タル旨申出タルニ因リ、不容易次第ト存シ自分ハ直チニ県庁ニ出頭、巡査ヲ呼集ノ取締方ニ着手スヘシ、足下ハ一等警部中島健彦方ニ到リ宜シク謀ルヘシト挨拶シテ相別レタリ、

第八条
一夫ヨリ自分県庁ヱ出頭ノ途中、人力車或ハ馬等ニテ弾薬ヲ持運フヲ許多目撃シタレトモ、往先ハ何レナルヤ見認メサリシナリ、

第九条
一県庁ヱ出頭、宿直川上少属（年齢四十二三才）浅江源左衛門（年齢三十二三才）命シ警部ハ誰彼レトナク悉皆呼出サセシニ、総テ弐十四五名之レアル内十二三人出頭、其中古川源助・宮内俊三・野村十郎太ハ覚居レトモ其他ノ人名前ハ忘レタリ、

第十条
一明治十年一月卅一日暁天ニ一等警部中島健彦出頭シテ申ニハ、実ハ両三日前ヨリ不容易儀発露セシコトヲ、探訪ノモノヨリ申立確証モ有之ニ付、過日臨時雇入ノ巡査ヲ諸所ニ差出シタリ、其事柄ハ去ル一月廿六七日頃中原尚雄ヨリ谷口東太ヱ内々申聞ルニハ、旧警視庁ニ奉職セシ尚雄等二十名昨年十二月頃ヨリ竊ニ帰県ス、其本旨ハ私学校生徒ヲ離間シ、西郷ヲ暗殺シ熊本鎮台ニ報知シ、機ニ投シ海陸軍ノ兵ヲ以私学校ノ生徒ヲ鏖殺セン、又万一事ヲ起スノ日ハ西郷ト刺違ルノ外無之ト川路大警視ノ内命ヲ受タリト、右等ノ隠謀私学校党ニ漏泄セシニ因リ、生徒等弾薬ヲ掠奪スルニ至リシコト故ニ鎮静ノ術ナシト、

第十一条
一谷口東太ナル者ハ士族ニテ中原尚雄ノ旧友ナリ、健彦ハ右東太ヨリ委細承知シタル由ナリ、

第十二条
一臨時雇入ノ巡査等ヲ以テ中原尚雄外二十名ノ捕縛ニ着手セシ旨中島健彦申立タリ、

第十三条
一中島健彦右ノ件々申立、古川源助其他共々退出、一同

中原尚雄等訊問ノコトニ従事セリ、

第十四條
一自分県庁ニ出頭、火薬庫ノ賊取締致スヘキノ処、中島健彦ヨリ申立ノ次第有之、同人ハ勿論他ノ警部モ私学校党ナルユヘ迚モ制スヘキノ道無シト存シ、其儘ニ差置キタリ、

第十五條
一一月廿七日頃巡査三十人計ヲ臨時ニ雇入シハ、中島健彦ヨリノ申立ヲ聞届ケタルコトナリ、右巡査雇入ハ中原尚雄等カ事ニ因リ雇入レシコトハ当時ニ在テハ承知致サス、是迄巡査臨時雇入ハ折々有之、其都度警部ノ申立ヲ以承届クル流例ニテ、別段原因ヲ承リシコト無之、

第十六條
一二月一日海軍少佐菅野覺兵衛県庁ニ出頭シ、昨夜造船処ヱ多人数押入土蔵ノ火薬奪取タリ、此末ノ処県庁ノ保護ヲ依頼ス、若シ協ハサレハ熊本鎮台ヱ掛合ヘシト申入レタリ、依テ今晩ノ処ハ精々保護ヲ尽スヘシ、熊本鎮台ヘ掛合ハ暫ク見合呉ル様申談シタリ、

第十七條
一同夜再ヒ下河邊行近罷越、火薬ハ悉皆水ヲ注キシ故賊来ルモ掛念ナシト云、併県庁ヨリハ精々取締為スヘキ旨申入タリ、然ルニ其夜モ矢張賊多人数押入タレト、火薬ハ水ニ濡タルヲ以引退キ、其後ハ何タルコトモ無之段承知セリ、

第十八條
一中原尚雄居所ヘ県庁ヨリ四里半計隔タル処ニテ、第一番ニ同人ヲ捕縛セシ由ナリ、

第十九條
一中原尚雄ハ二月四日捕縛セシ由、

第二十條
一犯罪人捕縛ハ警部ニ委任シ自分ハ口供成ツテ委細ヲ聞取ル先例ナリ、

第二十一條
一中原尚雄其外都テ県庁ヨリ四五丁隔ル第二分署ヘ拘引、同処ニ於テ訊問セリ、

第二十二條
一第二分署ハ警部ニテ受持警部日々交番セリ、

第二十三條
一警察課ハ県庁内ニアリ、

第二十四條
一中原尚雄其外糺問ノ席ヘハ自分ハ臨ミシコトナシ、

第二十五條
一二月五六日頃大隅高山ト云フ処ニ居リシ西郷ヲ私学校ノ生徒多人数ニテ連レ帰リタリ、

第二十六條
一西郷ハ武村ト称スル処ニ本屋鋪有之、右ノ高山ト云フ処ハ常ニ狩ニ出滞留スルノ処ナリ、

第二十七條
一二月七日頃西郷ヨリ自分ヱ面接致シ度、私学校迄都合次第参リ呉ル様ニト口上ニテ申越シタルニ因リ、則罷越面会セシニ西郷云、自分此地ニ在ラハ生徒等ヲシテ暴動ハ為サシメサルヘシ、然ルニ今日ニ至テハ致方無シ、中原等ノ事ヲ聞クニ我カ一身ノコトヲ自分ニテ取糺スコトハ不都合ナレトモ、已ヲ得ス自分カ出京シテ

大久保ニ尋問スルコトニ決シタリト、因テ自分ヨリ西郷ニ問テ云、気遣ヒ無キニハ似タレトモ多数ノ兵隊ヲ引率シ、東京マテ無事ニ通行ハ出来難キニ似タリ、西郷云、大将ノ任タルヤ全国ノ兵ヲ率ルモ天皇陛下ノ特許ニシテ、則大将ノ権内ナリ、時機次第鎮台兵ヲモ引率スヘシ、自分大山云フ、然ラハ沿道ノ府県鎮台等ヘ通知セサレハ不都合モ料リ難シ、西郷云、左アレハ政府ヘノ届各鎮台府県ヘノ報知方ハ県庁ニテ取計呉ル様、尤報知ノ文案ハ追テ相廻スヘシ、中原尚雄等ノ口供ヲモ副ヘ御届并ニ通知トモ依頼スルトノコトヘ承知致シ別レタリ、

第二十八条
一大将ノ権限ハ自分ニ於テ始テ承知致シタリ、

第二十九条
一御届并報知等ハ前以早ク可差出哉ト西郷ニ問ヒタルニ、出立ニ臨ミ差出スヘシト西郷申聞ニ従ヒ、十一等出仕原作藏等ニ専使ノコトヲ申付置キタリ、

第三十条
一朝廷ヱノ御届書ハ二月十三日ナルヘシ、

第三十一条
一朝廷ヱノ御届各鎮台府県ヘノ報知書ハ、只今御読聞ノ通ニ相違ナシ、

第三十二条
一私学校党城下ニ寄リ集タルハ二月五六日頃ナルヘシ、

第三十三条
一粮米焚出ノ義ハ西郷ノ談シニ付、県庁内ヱ其場二ケ処相設ケタリ、尤小荷駄方ナルモノ料理セシユヘ、粮米ノ数何程ナリヤ自分ハ承知セス、素ヨリ大将ノ権ヲ以テ為スコトト存シ拒ミシコトナシ、

第三十四条
一是迄陸海軍ノ火薬ヲ運送スルニハ必ス県庁ニ届出、昼ノ内何時ヨリ何時迄時間ヲ限リ県庁ヨリモ保護スルヲ例トス、然ニ今般海陸軍部署ノ火薬運送ハ、県庁ヱ届モナク且夜分燈火ヲ点シ、船中ヱ積込ミシヲ以テ潜カニ運輸セシト思ヒ、疑惑ヲ抱キタリシナリ、

第三十五条
一本県士族中ニテ私学校党ナルハ、何某ナルコトハ自分ハ曽テ承知セス、

第三十六条
一造船処ニ有之金凡壱万五六千円火薬局ノ金凡五六千円ハ彼ノ局々ヨリ、県庁出納課ヘ預カリ呉ヨト申聞差出セシニ付、則預リ証書ヲ相渡タリ、右局ヨリ国立銀行ヱ預ケタルヲ県庁ヱ差出サセシコトハ無之、

第三十七条
一出納課主務ハ中属蓑田長僖ナリ、

第三十八条
一西郷出立ノ際県庁ヱ士族多勢罷出、家禄ノ渡方厳敷相迫リシ故ニ、万一右海陸ノ局々ヨリ預リタル金員モ家禄渡方ニ操替遣ヒ払シヤモ図リカタシ、

第三十九条
一大平丸出帆ノ節、職人凡十七人ノ旅費ニ充ヘキ金員引渡呉ル丶様申出シニ付、若干金相渡セリ、尤同所預金

ノ全額ヲ請取度旨申出テシコトハ無之、

第四十条
一西郷其外六人ノ賞典禄五六万円并東京永田町同人屋鋪売却代凡壱万三千円程、兼テ県庁ニ預ケ有之、右二口此度同人ヘ渡シタリ、

第四十一条
一私学校ノ生徒等出立ニ付、旅費壱人ニ付金二十五円銘々自費ト申スコトニテ生徒中申合タル由ナリ、

第四十二条
一県下本年ノ租税石代金ハ私学校生徒中ノ区戸長ヨリ已ニ取立タル由、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年四月十一日　　大山綱良

第二号
明治十年三月三十一日申立

鹿児島県士族
大山綱良

第四十三条
一海軍少佐菅野覺兵衛県庁ヱ出頭シ、弾薬ヲ掠奪セラレシコトヲ談合セシハ二月一日朝十時頃ト覚ユ、其節陸軍火薬局ノ弾薬モ前夜掠奪セラレタルコトモアリ、全ク私学校党ノ所為ナラント自分ヨリ申述ヘタリ、

第四十四条
一覺兵衛云、県庁ノ保護ヲ依頼ス、若シ保護行届カサレハ熊本鎮台ヘ照会スヘシト、自分云、鎮台ヘハ県庁ヨリ照会スルヲ至当トス、尚ホ熟考ノ上答フヘシト云ヒシニ覺兵衛引取リタリ、而シテ同日青山有造ヲ以テ今般ノ処精々県庁ヨリ注意シ、巡査無人ナレトモ両三名ヲ出シ守ラシムヘシ、其以上ハ時機次第ノ処置ニ致スヘク外ニ見込有之哉ト覺兵衛ニ申述サセシニ覺兵衛云、火薬ハ悉皆水ヲ濺キタレハ先ツ掛念ナシ、外ニ見込モ無キ故談ノ通今晩ノ時機次第ニ可致ト、

第四十五条
一巡査多クハ私学校党ノモノニテ、皆中原尚雄等ノコトニ打掛、新ニ巡査ヲ募ルモ即日ノ間ニ合ヒ難ク、右党外ナルモノ両三名有之ニ付、其者ヲ出シテ保護セント覺兵衛ヘ通シタルナリ、

第四十六条
一一月卅一日ノ暁天、一等警部中島健彦県庁ヘ出頭ノ節、陸海軍ノ弾薬ヲ奪タルモノハ私学校党ニシテ、其発端ハ中原尚雄等ニ由ルトノ申立ヲ自分承知セシ後ナルユヘニ、覺兵衛ヘハ自分ヨリ暴動ノ発端ノコトヲ申聞ケタリ、

第四十七条
一二月二日付覺兵衛ヘノ回答書ハ今更不都合ト存ス、右回答書ニ自分ノ捺印モ有ルニ因リ、閲覧致タルニハ相違ナケレトモ記憶不致、事務多端ノ節ハ各課ニテ取調、自分ノ名前ヲ記トテ悉ク熟覧スルニモ非ス、右ノ回答

書自ラ執筆セシニモ非サル故如何様ノ次第ナルヤ解シ難シ、自分ヨリ覺兵衛ヘ事実ヲ咄シタルコトハ確ト覚ヘ居レリ、

第四十八条
一菅野覺兵衛ヨリ申談ノ通鎮台ヘ照会シ出兵スルニ至レハ、直チニ変動ニ及ヘクハ必定ニ付左様ニ立至ラサル様、互ニ尽力致度旨覺兵衛ヘ申談セシニ同人承諾致シタリ、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年四月十一日　　大山綱良拇印

第三号
明治十年四月二日申立

鹿兒島県士族
大山綱良

第四十九条
一自分儀是迄難事ニ当ルト雖トモ、今般ノ事件如キ心配セシコトナシ、事情御聞取被下ハ難有コト故委ク陳述セン、

第五十条
一明治九年七月内務省ヨリ至急上京スヘシト達シアリ、然ルニ県下地租改正ニ付上京致シカタク猶予ヲ願ヒシ処、其コトハ先ツ指置キ上京セヨト再達アリタリ、

第五十一条
一明治九年七月五日県地出立同十七日東京着、内務省ヘ届タルニ会マ卿ハ病気ニ付全快ノ上直談スヘシトノ達アリタリ、

第五十二条
一其後内務卿ニ面接セシニ、内務卿ヨリ今般奥羽御巡幸アリテ大御変革モ仰出サルヘシ、此機会ヲ失セス鹿兒島県モ参事及ヒ課長等人撰黜陟スヘシ、其為メ上京ヲ達タルナリトノ内喻アリシ故ニ自分云、第一綱良任ニ勝ヘス、疾ニ辞表ヲ出シ退職スヘキノ処、年々今暫〳〵ト荏苒四ケ年ヲ過キタリ、願ハクハ今日ノ県官都テ廃セラレ賢才ヲ撰ヒ御据ヘアリタシト答ヘシニ、卿ヨリ左様ノ訳ニハ非ス、御一新前後互ニ尽力セシコト故ニ、其方ハ奉職スヘシ、参事以下可然黜陟スヘシ、自分云、御沙汰ヲ拒ムニ非サレトモ県官ノ者罪アレハ格別、然ラサレハ県官ニ於テ甘シテ辞職スルカ一応帰県ノ上一同ノ存意ヲ問ハント猶予ヲ願ヒシニ、卿ヨリ左様ニ延引シテハ折角呼出シタル詮ナシ、断然黜陟セヨト喩サレタレトモ、県地ノ事情アルニ付自分ノ見込ヲ述テ別レタリ、

第五十三条
一林内務少輔ハ鹿兒島県地券等ノコト其外実地ノ事情承知故、内務卿ヨリ達シタル黜陟ノコトニ付自分ノ見込ヲ同氏ニ語リシニ、同氏ニ於テモ鹿兒島県ハ士族モ多

数故、自然物議等ヲ生スレハ不容易ニ付、友幸ヨリモ卿ヘ情実述ヘ置クヘシト云ヒタリ、

第五十四条
一其後四五日ヲ経、卿ヨリ自分ヲ招カレ、先達テ黜陟ノコトヲ談シタレトモ、貴様ノ見込モアルニ付其段ハ政府ヘ申立置ク故、貴様カ見込ノ通ニセヨト云レタリ、

第五十五条
一其以前県地ヨリ自分儀御用済次第早々帰県致シ呉ヨトノ来書ニ付、追テ御変革アルヘキニ付、急速帰県致難キヲ大略ニ返書ニ認メ出シ置シ処、佐官今藤宏・三浦介雄県地ヨリ出京熊本暴挙ノ四五日前ナリ、参事ハ年齢六十以上且多病故何時ニテモ辞表ヲ出スヘシトテ、同人ノ辞表并ニ新任御差向ケ被下度トノ願書ヲ持参セシニ付、三條公及ヒ内務卿ヘ出ス、其後熊本ノ暴動ニテ卿モ多忙ナルヨリ参事ノ辞表等モ其儘ニ過去リタリ、

第五十六条
一明治九年十一月初頃久光家令楢原儀県地ヘ出立ニ付暇乞トシテ自分旅宿ニ来リ、県官黜陟模様如何ナリシヤ、久光ヘ咄ノ都合モアル故承度ト云、仍テ参事ノ辞表等ハ何タル御沙汰ナシト自分答ヘタルニ、楢原ハ内務卿ニ其模様ヲ聞ヘシト云ヒテ帰ル、其日ノ暮頃楢原再ヒ来リ県官ノ模様卿ニ尋ネタレハ、熊本騒擾中ニテ新任ヲ命スルコトハ上申致シ難クト云レタルニ付、辞表等ハ取下ル方然ルヘキヤト談示アリタリ、

第五十七条
一翌日自分ハ今藤宏ヲ召連レ三條公ニ謁シ、参事辞表等ノコトヲ伺ヒタルニ、即今新任ヲ命スルコトハ六ケ敷、暫ク其儘勤メ呉ヨト仰セアリタリ、

第五十八条
一翌日三條公ヨリ御直筆ノ御書簡ヲ被添参事ノ辞表并新任ノ願書御下ケニ付、其旨内務卿ヘ申入レタルハ卿ヨリモ同様ノ願書今藤宏ヘ戻サレタリ、

第五十九条
一林少輔ハ熊本騒擾ニ付、急ニ彼地ヘ出立サレタリ、又同氏ハ其以前鹿兒島県ノ処置方ニ付、鹿兒島在勤ノ命ヲ蒙ラレタル趣ナリ、

第六十条
一林少輔ヨリ書面ヲ以自分ヲ招カレ、自分帰県ノ都合ヲ尋ネラレ且同氏ハ熊本処分済、直ニ鹿兒島県ヘ廻ルヘシト云レタレトモ、其頃県下士族家禄等ノコト甚六ケ敷ニ付自分ハ急ニ帰県致シ難ク、イツレ熊本カ長崎ニテ出会ノ都合ニ成ルヘシト答ヘ別レタリ、

第六十一条
一其後家禄ノコトハ十二月六日ニ御指令アリ、依テ七日ニ発程セントスルニ臨ミ内務卿ヨリ招カレ、鹿兒島ノ処分林少輔ヘ一切委任シテ在勤ヲ命シタリ、同行帰県スヘシ、且林ハ此節熊本ニ在ルカ鹿兒島県穏カナラストノ電信林ヨリ報シタリ、綱良承知セシヤト尋ネラル、

自分ハ承知セスト答フ、卿云、林ノ電信全ク形チナキコトニハ有間敷、綱良大坂ニ到レハ承合事柄分リ次第報知セヨト、

第六十二条
一其四五日前今藤宏・三浦介雄ヲ以テ自分近日御用済ノ模様故、長崎表ニテ出会スヘシト熊本ニ在ル林少輔ヘ報知セリ、

第六十三条
一十二月十四日自分大坂ヘ着キ県地ノ模様探訪スレトモ分ラス、追テ帰県ノ上聞ケハ山口県本ノ変動以来東京ノ官員引退キ政府ハ人ナシトノ街説ニテ、出水郷ノ士族共数十人県庁ヘ出張セシコト等ニテ、少シク騒立タルコト有リタル由、然レハ林少輔ヨリ内務卿ヘノ電信ハ此ノコトニ当ルト察シタリ、

第六十四条
一十二月廿五日長崎着、林少輔モ已ニ長崎ニ在リ、廿六日少輔并自分且地理寮ノ官員三名同船、廿七日鹿兒島ニ着ス、

第六十五条
一十二月廿八日ヨリ少輔モ県庁ニ出仕セリ、

第六十六条
一十二月廿九日ヨリ明治十年一月三日迄休暇ナリ、

第六十七条
一自分ハ一月二日・三日ト加治木郷塩浜落成ノ検査ニ行キタリ、

第六十八条
一一月四日ヨリ少輔始メ一同県庁ニ出仕セリ、

第六十九条
一少輔ハ属官両三名ヲ連レ今泉ヘ出張、九日帰寓ス、

第七十条
一少輔ハ九日以来凡六七日間県庁ヘ出仕、各課ノ事務ヲ閲セラレタルカ他県ト異ナルコトナシ、参事以下課長等引換ルニ及ハスト云、自分ヨリ当県ノコト政府ニ御疑ヒ有ルヤニ察シ、今日ノ姿ニテ長ク奉職成難カラント心□ノ旨ヲ述ヘタリシニ、少輔ハ親シク閲スル処、新任ヲ入ルヽニ及スト云ハレタルヲ以テ一同安心ノ旨申述タリ、

第七十一条
一一月十六日自分属官ヲ召連レ少輔ノ旅宿ニ行キ、此ノ先キ職務上ノ見込ヲ述ヘ猶少輔ノ見込ヲモ聞キ、互ニ示談シテ参事始メ県官一同従前之通奉職スルコトニ決シタリ、

第七十二条
一林少輔ハ西郷ニ面会イタシ度トテ西郷ヲ訪レシニ行先分ラス、十八日朝モ西郷ノ宅ニ到ラレシニ留守ナリシユヘ、此上ハ致方ナク最早県地出立スヘシト云レタリ、因テ又云レシニハ熊本滞在中大久保卿ヨリ文通ノ次第モアリ、西郷ニ面会シテ親シク談示度思ヘトモ其儀不叶ニ付、此書面ヲ西郷ヘ届呉ヨト自分ヘ渡サレタリ、其書面ノ主意ハ心得サレトモ大久保卿ヨリ林ヘ宛タル書面ナリ、自分請取西郷ノ弟ナルモノヘ托ス、其後ノ

コトハ承知セス、

第七十三条
一管内大隅高山郷ハミ(波見)村ヘ波止場ヲ築カンコト兼テ内務省ヘ願立タリ、林少輔出立ニ付同所ノ検査ヲ乞ヒ、自分同行シテ十八日右ハミ村ニ到リ、少輔ハ二日許逗留シテ廿一日出立セリ、同氏ハ大分県ト旧宮崎県トノ□地ヲ巡廻サレルノ由、其先ノコトハ知ラス、自分ハ翌廿二日出立、「シブシ(志布志)」ト云フ所ヘ廻リ、廿五日帰宅ス、

第七十四条
一廿六日ハ休暇、廿七日ヨリ県庁ニ出仕セリ、

第七十五条
一廿九日ノ夜草牟田ノ陸軍火薬局ニテ弾薬ヲ盗ミ取ラレタリト翌三十日ニ届アリ、其数屢少ナル由、手続ハ去日陳述スル通リナリ、

第七十六条
一卅日夜半頃陸軍大尉新納軍八自分宅ニ来リ、火薬局ノ後ロ山手ヨリ賊多勢押寄セ同局ノ火薬ヲ多量奪ヒ取リタリ、其人数ハ凡千人余ナル由番人注進セリ、尚ホ取締向依頼スト云、自分ハ県庁ヘ出仕セリ、其手続ハ去日陳述スル通リナリ、

第七十七条
一卅一日暁天一等警部中島健彦県庁ヘ出頭、両三日以前ヨリ不容易義発覚セリ、其次第ハ中原尚雄等竊ニ帰県、私学校党ヲ離間シ、西郷ヲ暗殺シ熊本鎮台ニ報知シテ陸海軍ノ兵ヲ挙ケ、鹿児島ヲ掃蕩スルノ隠謀ナリ、且去月廿七八日頃ヨリ三菱ノ蒸気船入港、竊カニ弾薬ヲ積入レタリ、是等ノコトヲ私学校党聞伝ヘテ斯ノ如ク弾薬ヲ奪フニ至ル、迚モ制止スルノ道ナシト云ヒシニ因リ、自分初メテ承知セリ、

第七十八条
一陸海軍ニテ是迄火薬ヲ積込ハ帆前船ナリ、此度ハ蒸気船ニ積ミ、且積込ヲ県庁ヘ届出ルノ例ナルヲ其儀ナシ、依テ自分モ不審ヲ懐キタリ、

第七十九条
一三菱ノ蒸気船火薬ヲ積込マズハ、私学校党ヨリ火薬ヲ奪フコトモ無カルヘシト想像セリ、

第八十条
一卅一日暁天中島健彦出頭ノ節、中原尚雄ノ従加世田・平佐・加治木・出水等ニアリ、此者モ捕縛ノ為メ巡査ヲ派出セシメタリト云、且中原等取調ノ方ニ行クトテ健彦ハ直ニ退出ス、他ノ警部巡査モ概ネ私学校党ノモノニ付、健彦ト同様尚雄等ノ調ニ掛リ県庁無人ニ成ル、仍テ裁判所ヘ申談ノ上同所奉職ノモノヘ兼務申付タリ、

第八十一条
一中原尚雄其外ノ脱走ヲ防カン為メ、大口・出水ノ両街道ヘ巡査ヲ派出シ厳重ニ固メタル由、其日ハ往来モ出来サル程ノ大雨ナリ、其雨中ニ尚雄其外ヲ捕縛セント聞タリ、

第八十二条
一一月廿七八日頃造船所詰仁禮海軍少尉県庁ヘ来リ、木

材等ノコト其外万事依頼シ、且ツ菅野覺兵衛ノコト宜敷頼ムト述タリ、菅野ハ戊辰ノ頃ヨリ自分モ知ル人ナリ、

第八十三条
一卅一日夜造船所ニ宿直シタル下河邊行親二月一日朝県庁ヘ出頭、昨夜十時過頃方々ヨリ兵隊ノ如キモノノ多勢火薬庫ノ近傍、但シ造船所ヨリ四五丁ヲ距ル所ニ来集スル旨人足トモヨリ届出ニ付、其者皆々宿直所ニ参リ呉ヨト書面ヲ出スニ、彼ヨリ此方ヘ来ルヘシト答ヘ、火薬庫ヘ押入ルノ勢ニ付拙者行キテ是非宿直所ヘ参リ呉ヨト云フ、彼レ前後左右ヨリ取押ヘ、其中火薬庫ヲ「メリ〳〵」ト打破リ暫時ニシテ引取リタリ、追テ菅野覺兵衛モ県庁ヘ出頭スヘシ、委シクハ夫々取調ノ上御届ニ及フト述テ退出セリ、

第八十四条
一催馬樂ト申ス所ニモ火薬庫アリ、

第八十五条
一私学校党ノモノ薩州ノ口々ヲ固メ、郵便書状ヲ開封スト聞及ヒタリ、

第八十六条
一菅野覺兵衛二月一日昼頃県庁ヘ来リ、昨夜ノ暴挙ニ付県庁ヨリ火薬庫ノ保護アリタシ、若シ保護方行届キ難クハ熊本鎮台ヘ掛合ハント云フ、自分答テ、造船所ヨリ直ニ鎮台ヘ掛合ニナルトキハ綱良ノ職掌モ立タス、且自然鎮台兵来レハ其動揺ハ我県下ノミナラス外県迄モ押シ及フニ付、其保護方ハ尚ホ勘考ノ上後刻申入ヘシ、今晩丈ケノ処ハ鎮台ヘノ掛合ハ見合セ呉ヨト示談セシニ、覺兵衛モ事ヲ好ニ非サレハ鎮台ヘノ掛合ハ見合スヘシト云タリ、

第八十七条
一其後県庁ヨリ今晩ノ処両三人ヲ出シ火薬庫ヲ保護セシムルニ、其上ハ模様次第尚相談スヘシト、自分自筆ヲ以テ覺兵衛ヘ宛タル書面ヲ、少属青山有造ヘ授ケ造船所ヘ差遣セシ処、覺兵衛ヨリ口上ニテ火薬ハ不残水ヲ灌キタレハ掛念ナシ、併シナカラ造船所放火ノ恐アル故一同宿直スルト答タル旨、有造復命セリ、

第八十八条
一九日大平丸・迎陽丸・高雄丸入港セリ、

第八十九条
一同日十二時過高雄丸ヨリ、川村大輔書面ヲ以直ニ上陸センコトヲ告タリ、然ルニ暴徒等海岸其外ヘ番兵ヲ置キ、上陸方容易ナラスト存シ自分高雄丸ヘ行キタリ、

第九十条
一船中ニテ川村大輔ト談話中林少輔ニモ面会セリ、川村ヨリ三菱ノ蒸気船曩キニ弾薬ヲ積ントスルヲ、支エラレタルトテ逃ケ帰リタリ、何等ノコトカ分ラス此節造船中ノコトナレハ、自然其防害アルモ掛念ナリ、且家族ニモ内用ノアツテ来リシナリト云レシニ因リ、自分

ヨリ県下ノ模様逐一申述タリ、林ヨリ自分ト引分レタル後僅カ十日計ノ間ナル故、此度ノ事ハ虚説ナラント思ヘトモ事実ヲ聞カン為メニ来タルナリ、且川村ヨリ自分ヘノ書面ハ属官両人ニ授ケテ出スト云フ、然ルニ自分ニ於テハ其属官如何成シヤ知ラス、川村ヨリ中原尚雄等ノ口供見タシト云ハレシユヘ、直ニ見セ度思ヒタルトモ、警部ノ手ニ在リシヲ以テ其事ヲ果スコトヲ得サリシナリ、

第九十一条
一川村ハ直ニ上陸シテ西郷ニ面会スヘシ、且椎原ヘモ書面ヲ贈リタリト云ハレタレトモ（椎原ハ与右衛門ト唱ヘ、川村ノ為メニハ舅ニシテ、西郷ノ為メニハ叔父ナリ、）自分云フ、直ニ上陸シテハ不都合アルモ図リ難シ、椎原ノ宅ニテ面会ノ手筈ヲ設ケ再ヒ来ルヘシト、因テ自分ハ帰庁セシ処、椎原ヨリモ已ニ県庁ヘ川村上陸ノコトヲ告タリト申出ツ、自分ハ私学校ニテ西郷ニ面会川村ノ上陸ヲ述ヘタルニ、西郷ヨリ椎原ヘ往カ又ハ高雄丸ヘ行キテモヨシト云、仍テ椎原ニテ川村ヲ待ヘシト西郷ヘ示談シ、再ヒ高雄丸ニ行キタルニ自分帰リタル跡ニテ暴徒等兵器ヲ携ヘ小舟三艘ニ乗組高雄丸ニ漕寄セタル由ニテ川村云、此模様ニテハ何分揚陸イタシ難シト、其節高雄丸ハ遠ク陸地ヲ距リ櫻島ノ方ヘカヽリタリ、其後三時頃出港シ去レリ、

第九十二条
一船中ニ於テ自分川村ト談話ノ際、川村附従ノ人々大輔上陸スレハ、不残付添行カント云ヲ聞ケリ、林少輔ハ当県在勤ノ命ヲ受ケシ人ナル故ニ、共ニ鎮静ヲ依頼スヘキノ処、自分ノ通行サヘ自由ナラサル位ノ折柄ニ付、川村始メ一同上陸シテ自然途中ニテ間違等アレハ、県庁ノ不都合ト存シ其儘ニイタシ置タリ、

第九十三条
一船中ニテ川村云、西郷ヲ暗殺スルトノコトハドコ〳〵迄モ詮義スヘシ、就テハ西郷出京ノ猶予ハナラサルカト、自分云、各位上陸ノ上鎮静アラハ、格別西郷一人ノコトニモ非ス、外ノ者ニ於テ迚モ聞入サルヘシ、

第九十四条
一船中ニ於テモ庁ノ公金ヲ奪レンコトヲ甚掛念ナリト、自分ヨリ林少輔ヘ申立タル処、夫ハ致シ方ナシ、跡ヲ宜敷取締ヨト被申タリ、

第九十五条
一川村・林帰坂ノ上、中原尚雄等ノ隠謀取調方ニ尽力有之コトト察シ、県下ノ処自分尽力セント思ヒ、西郷ハ先キノ約束ニテ椎原ニ在ルヘシト同家ニ行ケハ、西郷矢張私学校ニ在リ、面会シテ川村・林等ヨリ托シタル如ク出京猶予ノコトハ陳ヘタルニ、西郷ヨリ夫々ナラハ強テ出ルニモ非レトモ千万六ケ敷コトナラント云、

自分西郷ト面会ノ節、何等ノ相談スルモ難図トノ疑ヒアルヤ、私学校党百人計ニテ囲ミ居リタリ、

第九十六条
一大平丸・迎陽丸入港スルヤ、直ニ私学校ヨリ二三十人ツヽノ番兵ヲ付ケタリ、

第九十七条
一十一日大平丸乗組ノ洋人五人ヨリハ県下ノ雇英人ヘ上陸ノコトヲ告ル、木梨精一郎ヨリハ自分ヘ書面ヲ以テ大平丸ニ乗組入港スルニ、上陸ヲ停メ帯刀ノモノ多ク船中ヘ来ル、何等ノコトカ様子分ラス、琉球ノ事件ニテ至急東京ニ帰ルコトナリ、兎角上陸致度ト依頼セルニ因リ、自分ヨリハ直ニ申サネハ分リ難シ、両三日上陸見合呉ラレヨト答タリ、

第九十八条
一西郷等一同十七日ノ未明出立セシ故、同夜八時過木梨ヲ迎ニ遣ル、同氏其夜直ニ上陸、翌十八日朝七時頃面会シテ県下ノ事情ヲ委細語リタリ、

第九十九条
一十八日十二時頃自分大平丸ヘ行キ、船長ト談示ノ上明日出帆ト決ス、仍テ裁判所并菅野覺兵衛ヘモ其段ヲ通知セリ、覺兵衛ハ幸ナルコトト云ヒ、其他官員多クハ此船ニ乗組タリ、

第百条
一県庁ニ預リタル造船所金子ノ内ヨリ覺兵衛等出立ニ付渡シタルコト、去日陳述ノ通ナリ、

第百一条
一迎陽丸ハ佐土原ノ汽船ニテ乗組ノ内ニハ私学校党ノ兄弟モアリ、仍テ入港後直ニ上陸セシムルコトニ決ス、渥美少検事モ此船ヨリ直ニ上陸シタリ、

第百二条
一迎陽丸等入港、当日暮頃久光ヨリ自分ヲ被招、高雄丸ノコトヲ被尋シニ付、前ニ陳述スル如ク答タリ、

第百三条
一久光ノ邸ヨリ夜十時頃県庁ヘ帰リシニ、田畑云、野村綱ナルモノ申出ルニハ、今夕迎陽丸ヨリ上陸シテ帰宅ノ上友人ニ面会セシニ、中原尚雄等西郷暗殺ノ隠謀発覚セシト聞ケリ、依テ綱義ハ内務卿ノ命ヲ受テ来ルト友人ニ語レハ、早ク県庁ヘ申出置ケヨト云、故ニ御届ニ及フト述タリト、

第百四条
一迎陽丸ハ乗組人上陸後ハ何方ヘ参リタルヤ自分ハ存セス、

右之通相違不申上候、以上、

明治　　大山綱良拇印

第四号
明治十年四月四日申立

鹿児島県士族　大山綱良

第百五条
一明治十年二月二日朝、中島健彦・野村十郎太二人共一等警部ナリ、月中

島ハ堺県参事勤メタル者ニ付私学校ニテ投票ノ上一等警部ニナリタルモノナリ、ノ両人自分宅ニ参リ、今般中原等ノ義ハ不容易事ナルニ、我々共是迄難件ノ取調ハ取扱タルコトナク、且作法モ弁ヘサルコトユヘ、中山行高三十年位・河野半藏四十年位ハ県庁ニテ聽訟課ニ居リ引続キ裁判所ヘ奉職、事務取扱タル者ニテ此節辞職シ居ルニ付、比両人ヲ至急採用アリ度旨健彦申立ルニ付、当人ニ於テ奉職スヘキ心得ナレハ今日ニモ命スヘシト答ヘ、自分ハ出勤シタル処健彦ハ右行高・半藏ノ宅ヘ参リ、前条ノ談判ニ及ヒタルニ行高・半藏共近頃迄裁判所ヘ出勤シ居タルニ付、警部ヲ奉職スルハ不都合ナレトモ、至急ノ御用ナレハ御受致スヘキ旨答タル趣ヲ健彦申聞ケシニ付、両人共四等警部ニ命シタル様覚タリ、

第百六条

一右ニ付中山行高・河野半藏ヲ両人最初ヨリ中原尚雄等ノ取調ハ担当シタル様覚タリ、尤鹿兒島県ニハ是迄重罪ノ調ハ更ニ之レナク、唯笞刑位ノ者ノミニテ、何レモ事務不慣レニ付尚又六等警部古川源助三十七八年位・宮内俊藏三十年位ノ両人ヲ差加ヘ、中島健彦頭取ニテ専ラ取調タリ、

第百七条

一中山行高・河野半藏・古川源助・宮内俊藏ハ私学校党ニハ之レナキ者ナリ、

第百八条

一中原等二十一名ノ内ニ、姓名ハ覚サレ共久敷出京致シ居リ頗ル利口ノ者有之故、鹿兒島人ニテハ取調六ツケ敷キト申ス説有之、依テ其者共ニ限リ中島ヨリ私学校ヘ申談シノ上、曽テ司法省ニ出仕セシ樺山久兵衛元資綱ト申シ司法省ニ両三年前迄出仕シタルモノニテ、近頃私学校ニ入リタルモノナリ、ヘ相談シ、取調タル趣追テ健彦ヨリ承知セリ、

第百九条

一十年二月七日西郷ヨリ招カレ私学校ヘ相越タル処、西郷云、政府ヘ為尋問出発ニ決シタリト、依テ自分ニ於テ承リ届タリ、右ニ付西郷・桐野・篠原三名ヨリ表向キノ御届ヲナスヘキ手筈等ヲ約シタルハ、前日申上タル通ナリ、

第百十条

一二月九日ハ高雄丸着艦シタル一事ノミニテ、是亦前日申立タル通ナリ、

第百十一条

一西郷・桐野・篠原三名ヨリ御届ヲナスヘキ手筈ハ二月七日申談置キタル処、其後書面差廻ナキニ付、二月十一日催促トシテ一等属今藤宏ヲ私学校本局私学校ハ十四五ケ所アレトモ、本局ト唱フル処ハ旧知事軍馬局ノ跡ヘ建之レアリ、ヘ差遣シタル処御届書ハ不差越、唯中原等二十一名ノ口供ノミ西郷ヨリ今藤ヘ託シ、捺印ハ跡ヨリナサシムヘシト申越シタリ、然ルニ其口供ハ全ク草稿ノ儘ニテ、書中次第不同且枝葉ノコト等多ク不

都合ニ存セシ間、県庁ニ於テ中山・河野・今藤・仁禮景通五等警部ノ四人斟酌シ、大眼目丈ケニ取直シタリ、其後自分一見シ二月十一日今藤ヲ以テ西郷方ヘ差遣タリ、

第百十二条
一二月十二日西郷・桐野・篠原ヨリ上京ニ付テ、表向キノ届書ヲ私学校ノ者県庁ヘ持参セリ、右持参セシ者ノ名前ハ存セス、

第百十三条
一大政官ヘノ御届書ハ五等属永吉小藤治ヲ以テ二月十四日差立タリ、

第百十四条
一二月十二日西郷・桐野・篠原三名ノ届書ヲ私学校ヨリ受取リ、又県庁ヨリ政府ニ差出スヘキ書面并各府県・各鎮台等ヘ遣ス書面等都テ今藤取調タリ、

第百十五条
一二月十四日熊本県并鎮台ヘ専使トシテ差出タルハ原作藏十一等出仕・篠崎新平十五等出仕両人ナリ、尤原作藏ハ是迄熊本県ニ奉職シタル者、又篠崎新平ハ同人弟某大尉ニテ熊本鎮台ニ在勤シ居タルニ付、今般ノ事情具ニ申含メタレハ都合宜敷コトト存差出タリ、

第百十六条
一小倉鎮台ヘハ別段専使差立ス、原作藏熊本ヨリ小倉ヘ廻ル筈ナリシ、

第百十七条
一西郷始メ九州・中国ヲ通行スルト申スニ付、長崎・福岡・山口・廣島・岡山ヘノ専使ハ等外一等島本吉住ト外一人姓名失念シタリナリ、

第百十八条
一二月十三日朝篠原県庁ヘ来リ云、今般ノ出兵九州路ノミ通行無覚束ニ付、桐野ハ豐後佐賀ノ關ヨリ四国ヘ渡海、夫ヨリ出坂スル積リニ付四国ノ方ヘモ通知致シ呉ヘキ様申ニ付、禰寝清三等属・伊藤一作十五等出仕ノ両人ヲ専使トシテ四国ニ差立タリ、

第百十九条
一愛知県ヨリ静岡県迄ハ五等属平山重助并福永直之丞ヲ差立タリト覚ユ、

第百二十条
一右専使ヘ渡シタル書面ハ二月十三日出来タルニ付、何レモ二月十四日夫々出立、旅費ノ義ハ県庁出納課ヨリ相渡シタリ、且万一出先ニ於テ不都合之アリ、往来難出来節ハ其県警部巡査ヘ依頼スヘキ様申付タリ、

第百二十一条
一二月十五日ヨリ出兵、出水・大口両海道ヨリ肥後地ヘ向ケ出立シタリ、

第百二十二条
一二月十二日・十三日頃私学校党申スニハ、中原等二十一名ハ今般出兵人数ノ内元ノ巡査ニテ護送シ、罷登ルトノコトニ付、二月十七日ノ暁自分私学校本局ヘ参リ、右中原等ハ如何処分スル哉ト西郷ヘ相談シタルニ、西郷云、何レ二月下旬カ三月上旬迄ニハ大坂ニ達スヘキ積リナリ、左スレハ同所ヨリ何レトカ其通知ヲナスヘ

シ、夫迄ハ保護ヲナシクレヨト、依テ自分承諾シ県庁ニテ保護シタリ、

第百二十三条
一二月十七日暁西郷ヘ面会ノ節西郷云、今般捕縛セシ中原等ノ口供ヲ見レハ、全ク川路利良ノミノ内意ヲ以テ来リタルコトト思量セシニ、野村綱ノ口供ヲ見レハ陸軍省ノ火薬取寄等ノ事ハ、内務卿ノ関スル事柄ニ非サルニ、其火薬取寄セノコトヲ大久保ヨリ野村ニ告ケタル趣ニ依リテ考レハ、川路ノミニ非ス大久保モ此度ノ事件ハ委細承知ノコトト察セラル、ナリト、依テ自分モ其通リト思想セリ、

第百二十四条
一西郷ヨリ自分ニ語テ曰、先年拙者共東京ヲ引取ル時既ニ兵隊ノ者大難ヲ起シ、戦ニモ及ハントスルノ勢ニ付、右ノ人数ヲ連レテ直チニ御暇ヲ願ヒ帰県シ、其以来今日迄人数ヲ纏メ居リシ拙者ノ旨意ハ何レ近年ノ内ニハ外患起ルヘク、然ルニ日本当今ノ形勢ニテハ迚モ其防禦ヲ為スコト能ハスト見込ニ付、其節ニ当テハ右兵隊ノ者ヲ以テ国難ニ報スル素志ナレトモ、最早今日ノ場合ニ至テハ事情切迫ナルニ付、已ムヲ得ス右兵隊ノ者ヲ引率シ、上京ノ上大久保ヘ対決シ、自分ノ見込政府ニ於テ曲ナリト見認メラルレハ、甘シテ罪ヲ受クヘク、何分大久保ヘ面会ノ上ナラテハ其曲直モ分リ難ク、且大久保ニ於テハ何ノ謂レヲ以テ隆盛ハ事ヲ起スナラント見込タルヤ、其辺モ詰問スヘク、一体大久保ハ足下承知ノ通リ幼年ヨリ一家親子同様ノ交リヲナシタル者故、拙者ニ於テ疑ヒアレハ上京ヲ申越スカ、又自カラ帰県シテ其事情ヲ談スルカ、又委シキ書面ニテモ差越スヘキ筈ナリ、

第百二十五条
一自分ニ於テハ此度ノ出兵小倉迄ハ無滞通行モナルヘキカ、其先ノ渡海ハ如何ト懸念候故其段申述シニ、西郷云、外ニ見込アリト、又桐野・篠原等ハ船橋ニテモ懸ルヘシト申シ、自分ヲ愚弄スル如キ体ナルニ付夫切ニテ別レタリ、

第百二十六条
一右出兵後県庁ニテハ跡取締ノ為メ、巡査ヲ新募セシメタル迄ニテ県下ハ至テ静謐ナリ、

第百二十七条
一二月十七日夕刻、島津久光ヨリ呼寄セラレ、当日西郷等出立ノコトヲ尋ネシニ付委細相話シタリ、久光云、西郷ハ大坂迄無事ニ達スル心得ト見ユレトモ、其見込通リニハナルマシト拙者ハ掛念ス、其方ハ如何思フヤト、自分云、同様心配セリ、抑モ今般ノ義ハ実ニ天下ノ大事ニ付、御自分ニモ早速御出京、未然ニ御尽力被

成度自分モ随行致スヘシト、久光云、拙者ハ其方承知ノ通左大臣迄モ奉職シタレトモ、不都合ノ義有之既ニ昨年帰県シタル程ノ事故、拙者ニ於テハ此度ノ事件ヲ取纏ムル目的ハ無之、何レ此先御沙汰モアラハ上京スヘシト其儘ニテ引取リタリ、

第百二十八条
一二月廿日・廿一日頃英国軍艦来リ、鹿兒島学校ニ雇アル英人両人、同医学校ニ雇アル英人両人、且土木寮ヨリ堤防・橋梁ノ義ニ付出張ノ洋人一人、外ニ外国大工一人在県ノ処、各国公使ヨリ至急引取ヘキ様申越シタル趣ニテ、土木寮出張并ニ学校雇ノ洋人右船ニテ帰リ、外洋人ハ最早五六年モ在県ニ付、諸荷物片付等ノ為メ手間取ル故跡船ヨリ帰ルコトノ由、然ル処右迎ニ来リタル英人云、不日鹿兒島ヘ軍艦差向ケラル、ニ付、引取ノ為メ迎ニ来リタリト、

第百二十九条
一二月廿一日頃春日丸大坂ヨリ入港、両日停帆、右船長ハ伊東海軍少将ニテ鹿兒島人ナリ、其来リタル次第ハ石炭ヲ積ムコトト、曩ニ高雄丸カ薩港出帆ノ節絶チ切リタル碇綱ヲ尋ネシ為メナル由、

第百三十条
一二月廿五日・廿六日頃春山幸道（等外雇ノ者）熊本ヨリ帰県、開戦ノ報知ヲナセリ、其次第ハ西郷隆盛等川尻迄出行ノ処、官軍同所ヘ出迎ヘ先方ヨリ放火シ開戦ニ及ヒタリト、

第百三十一条
一二月廿日・廿一日頃英国軍艦来タル節、不日鹿兒島ヘ軍艦差向ケラル、由乗組ノ英人ヨリ承リタルニ付、中原等廿一名ノ檻倉ハ海岸近クニテ掛念ナリシ故、二月廿二日・廿三日頃ヨリ県庁囲ヒ内ヘ新牢建築ニ取掛リ、五六日ニテ出来タルニ付右新牢ヘ移シタリ、尤熊本開戦ニ付テハ西郷見込ノ通二月下旬カ三月初旬頃大坂迄着スルハ無覚束存セシニ付、中原等万一脱逃モアランカト心配、警部取計ニテ口供并現員共渥美少検事ヘ引渡タリ、其後検事局ヨリ呼出等ハ一度モ無カリシ、

第百三十二条
一右中原等引渡シ後渥美ヨリ口供ハ慥ニ受取タレトモ、犯罪証拠物等一切引渡スヘキ様掛合アリタレトモ、右ハ谷口藤太ヨリ発覚シタルコトニ付、其証拠物ハ熊本出張ノ者所持ニ付早速取寄ヘクト答置、三月六日・七日頃五等警部木藤武昭ヲ熊本ニ在ル中島健彦ヘ宛テ差遣シタレトモ、自分出立迄ハ何トモ返事ナシ、

第百三十三条
一自分三月十三日乗船出京セリ、

第百三十四条
一曩キニ英人申シタル通リ三月五日・六日頃軍艦三艘鹿兒島ニ来リタレトモ、全ク何等ノ事ナルヲ知ラス、唯

海岸ニ往来致シタル迄ナリ、

第百三十五条
一三月五日・六日頃春日艦再ヒ入港セリ、船長伊東少将艦中ヨリ警部ヘ面会ノ義ヲ申シ越シタルニ付、学務課長右松祐永ヲ応接ニ差出タル処、伊東少将申聞ニ、自分此ニ来ルハ長崎出立ノ節勅使御入県ノコトヲ承知シ、且碇綱引揚ノコトヲ県庁ヘ掛合ノ為メ来リタルナリトノコトニテ、其他委細ノコトハ分ラサリシ、

第百三十六条
一三月八日頃軍艦追々入港ニ付、市中其外ノ者共家財抔ヲ取片付ケ動揺イタシ、何分制止ノ道不相立、依テ斯ク人民ノ騒動スルハ畢竟県令ノ職ニ於テ不行届ノ次第ニ付、自分人民ニ代テ縛ニ附クヘシト覚悟ノ処、右乗組ノ人数ハ旧知事ノ住居磯ノ方ヘ上陸ニナル趣承知セリ、

第百三十七条
一三月八日午後九時頃島津久光ヨリ呼寄セニ付相越シタル処、今般来着ノ船ハ英人ノ説ト違ヒ、全ク勅使柳原公ニシテ楢原モ同船シ来リタリ、楢原申スニハ、今般勅使下向ノ次第ハ暴徒鎮撫ノ義ニ付旧知事ヘ勅書ヲ渡サル、趣、且勅使ノ言ニ鹿兒島ハ不残同意ト存セシ処、意外ノ静定ニ付安心シタリト申サレタル趣、仍ホ明日ハ勅使拙者宅ヘ臨マル、ニ付、拙者見込モアレハ申述フヘシト、依テ拙者ハ今般鹿兒島県征討ノ義ヲ各府県・各鎮台ヘ達ニナリタルコト、及ヒ中原等ヲ大久保・川路等ヨリ内命ヲ以テ差下シタルコトハ甚不宜旨ヲ申スヘキ積リナリト、

第百三十八条
一三月九日大風雨、三月十日快晴ニ付早朝ヨリ勅使護衛ノ兵隊及ヒ巡査ノ宿割ヲ県庁ヨリ手当致シタリ、

第百三十九条
一三月十日夜勅使船中ヨリ大書記官及ヒ大属ヲ御呼出ニ付、右松祐永ヲ差出シタル処其節五ケ条ノ御達シアリ、大凡左ノ如ク記憶致シタリ、

第一　鹿兒島県逆徒征討ノ事、

第二　西郷・桐野・篠原位記褫奪ノ事、

第三　中原尚雄等二十一名ノ者警部ヘ引渡ノ事、

第四　鹿兒島県下ノ者帯刀禁止ノ事、

第五　鹿兒島ニ残リ居ル洋人引渡ノ事、

第百四十条
一右ノ通鹿兒島征討ノ義ヲ承知シタルニ付、自分義県令職掌ニ於テ恐入ル義ニ付、即チ謹慎ノ書面ヲ勅使ヘ進達シタルニ御聞置トノ事ニ付、夕刻ヨリ謹慎罷在タルコト、

第百四十一条
一三月十一日午前九時勅使島津久光邸ニ御出有之、夫ヨリ陸地御旅館ニ相成タリ、

第百四十二条
一勅使久光宅ヘ臨マレシ後田畑大書記官被呼出、自分謹慎ノ書面差出シタレトモ、今日ニ至リテハ別段嫌疑モ無之ニ付、出勤スヘキ旨勅使ヨリ御達ニナリタル段、田畑申聞ケシニ付早速出勤シタリ、

第百四十三条
一三月十一日・十二日勅使御滞留相成タリ、

第百四十四条
一中原等廿一名ノ者県庁ヨリ受取ルヘキ旨ヲ、勅使ヨリ渥美少検事ヘ御達ニナリタルニ付受取タル旨翌日渥美ヨリ掛合アリタリ、

第百四十五条
一今般多人数出兵ニナリタルハ中原等ノ隠謀明白シタル故ナルニ、其証拠トナルヘキ中原等ヲ勅使ヘ御請取ニナリタレハ、跡ハ全ク証拠ナキコトトナル抔県下ノ婦女子等ハ怨ミタリトノ風説アリ、

第百四十六条
一三月十二日十二時頃勅使ヨリ御呼出ニ付罷出タル処、今度中原等二十一名検事ヘ引渡ニナリタルヲ、全ク無罪ニナリタルコトト思量シ、県下人心疑惑ヲ生シタル様子ナレトモ未タ無罪ニ帰シタルト云ニ非ス、罪アル者ハ取調ノ上更ニ処分ニモナルヘキニ付其旨ヲ一般ニ布達スヘシト、草案ヲ下ケラレタルニ付右取扱方ハ今藤宏ヘ申付置キ、自分乗船シタル故其布達シタルヤ否ハ知ラス、尤其草案ハ逐一記臆セサレトモ大凡左ノ如ク覚タリ、

一今度西郷隆盛始征討被仰出候ニ付テハ、鹿児島県ヘ軍艦差向ラレ、且中原尚雄以下引渡ニナリタルヨリ、流言紛々人心疑惑ノ様子ナレトモ、右ハ夫々取調ノ上処分相成ヘキ義ニ付、其旨心得ヘシ、云々、

第百四十七条
一右勅使ヘ罷出タル節自分モ御用有之随行申付ルト御達有之、夫ヨリ其席ヲ下リ黒田清隆ヘモ面会、県下是迄ノ次第ヲ相話シタル処黒田云、自分モ大坂ニテ種々風聞ヲ承ルニ、既ニ鹿児島ニテハ台場ヲ放火シタル抔申スニ付、御互ニ父母ノ国ナレハ大ニ心配シタレトモ、今度実地ヲ目撃スレハ風聞トハ大ニ齟齬シ安心シタリト、夫ヨリ自分ハ県庁ヘ至リ、勅使随行ノコトヲ命セラレタル旨申聞タル処、自分一人ノ随行ナルヲ以テ庁中種々議論モ有之一定セサルニ付、何レ久光ヘ面会勅使御談判ノ顛末ヲ承知シタル上決スヘシト自分申シタリ、

第百四十八条
一右ニ付早速久光宅ヘ罷越シ県庁議論ノ事共申述、随行ノ義ハ如何相決スヘキ哉ト談シタルニ、久光云、今般ノ事件ニ付テハ自分モ嫌疑ヲ蒙リ居ルコトト存セシニ、不図モ勅使ヨリ鎮撫ノ命ヲ蒙リタリ、然レトモ目今鎮

撫ノ道モ無之ニ付其通リ申置キ、且是迄自分ノ見込又今般ノ形勢モ申述、且中原等ハ唯放免ト申ス計リニハ之アル間敷旨申述置キタル次第ニ付、其方共ハ決テ嫌疑ヲ蒙ル義ニハ有之間敷ニ付、何処迄モ罷出実地ノコトヲ申述ヘク、併シ若中原等無罪ニ帰セハ不得止次第ナレトモ、当今法律モ御布告ニナリシ故ニ其証跡等ハ明瞭ナル取調ニ相成リ、其上ニテ処分ニナルヘキコトニ付聊掛念ナク随行スヘキ旨申スニ付、即チ県庁ヘ帰リ其次第ヲ一同ヘ申聞ケシニ、田畑其外ノ議論モ止ミ随行ニ決シタリ、

第百四十九条
一二月廿八日頃樺山久兵衛帰県申聞ルニハ、有栖川宮惣督府ヨリ西郷始御征討ノ御布告相成、熊本県内ニハ所々ニ掲示有之ルナリト、而シテ右樺山ヘ西郷ヨリ託シタル自分宛ノ書面ヲ渡シタリ、其書中ニ川尻迄出行シタル処鎮台ヨリ発砲、不得止開戦ニ相成リタリ、然ルニ鹿兒島県人民一般暴挙ノ様布告ナリタルハ不都合ニ付、此書面有栖川宮ヘ差出呉候様依頼ニ付、長崎県令北島秀朝ヘ托シ遣シ宮様ヘ書面差出シタリ、

第百五十条
一右ノ書面西郷ヨリハ有栖川宮ヘノミ差出スヘキ様申越タレトモ、政府ヘモ不差出テハ不都合ト存シ、幸ヒ是迄鹿兒島県ニ在留ノ英人コツフス（生国ハ和蘭人ナリ）今般帰国ニテ東京ヘ立寄ルヨシニ付、三條・岩倉両大臣ヘノ上申書ヲ千田貞曉ヘ宛テ、上封ハ東京三田林徳左衛門宛ニテ、右コツフスヘ相托シ差出タルコトニテ、即チ御読聞セノ文面通リ相違ナシ、

第百五十一条
一コツフスニ託シ両大臣殿宛ニテ差出タル書面ノ趣ハ、林内務少輔ヘモ通知セシト覚フ、

第百五十二条
一三月十二日勅使ヨリ御渡相成リタル県下ヘノ布達案ハ田畑書記官ヘ相托置自分ハ翌十三日ヨリ上京セシ故、其後ハ如何ナリシヤ承知セス、

第百五十三条
一西郷出立ニ付中原等ノ口供ヲ添ヘ、県下ヘノ布達ハ活字ニテ印刷シタリ、

第百五十四条
一活版所ハ県庁内ノ長屋ニ在リ、活版所頭取ハ上村清之助ナリ、

第百五十五条
一鹿兒島県下ニ東京芝神明前ノ書林泉屋某ノ出店アリ、右出店ノ社中ニハ久留米・佐賀辺ノ者モアリシ由ナリシカ、右ノ社ニテ中原等ノ口供ニ仮名ヲ付ケシ者ヲ県庁内ノ活版所ニ依頼シ、一万部ハカリ印刷シテ相撲場等ニテ売リ弘メショシ、右社中ノ者ハ其後ハ何方ニ往キシヤ分明ナラス、

第百五十六条
一右久留米・佐賀辺ノモノハ西郷党同志ノモノト自分ニ於テハ推量ス、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年四月十八日　　大山綱良拇印

第五号
明治十年四月五日申立

鹿児島県士族

大山綱良

第百五十七条
一有栖川総督宮ヘ書面ヲ差出タルハ熊本ヨリ西郷ノ依頼ニ依テナリ、其頃総督ノ本営ハ長崎ニ有リト伝ヘ聞キタルニ付、自分ヨリ長崎県令ヘ向ケ執達ヲ頼遣ハセリ、就テハ政府ヘモ上申セサレハ不都合ト自分ノ気付ヲ以テ両大臣殿ヘ御届セリ、

第百五十八条
一千田貞曉ヘ差出タル書面ノ内真福トアルハマプクラト読ム、鹿児島ノ方言ニテ事ノ最中ト云フ意ナリ、

第百五十九条
一勅使ヨリ三月十二日御渡ニナリタル鹿児島県下ヘ布達案ハ趣意ハ確ト覚エサレトモ、西郷以下ノ官位ヲ奪レ逆賊ノ名ヲ下サレタル等ノコトナリ、尤此ノ文言通ニナクトモ宜シト達セラレタリ、右布達案自分持帰リテ田畑大書記官ヘ托シ置タリ、自分ハ出京ヲ命セラレ二月十三日勅使ニ随行セシニ付、其後布達セシヤ否ヤハ存セサルナリ、

第百六十条
一一月廿九日ノ夜賊ノ為ニ陸軍火薬局ノ弾薬ヲ奪ハレタル旨、翌卅日朝右局ヨリ県庁ヘ届出タルニ付、中島一等警部ヲ遣ハシ、同局ノ吏員ト立会其場所ヲ見分セシメタルニ、火薬庫四箇ノ内一箇ヲ壊ボタレタリ、既ニ火薬局ニ於テ番人三人ヲ増ス事ニ成タルト中島復命セリ、

第百六十一条
一同月卅日ノ夜自分宅ヘ新納陸軍大尉来告ケテ曰ク、陸軍火薬局ヘ暴徒千人余押シ来、四箇ノ火薬庫ヲ悉ク打壊タリト、依テ自分ヨリ其許ハ中島健彦方ニ行テ謀ルヘシ、自分ハ直ニ県庁ニ出頭シ警部ヲ呼出シテ取締リナサシムヘシト云ヒテ別レタリ、新納ハ中島ヘ往シニ不在ニテ面会セサリシ由追テ承知セリ、

第百六十二条
一自分県庁ヘ出頭ノ上、宿直川上少属・淺江源左衛門ヘ申付警部ヲ呼出スニ十三人計出頭ス、其中古川・宮内・野村ノ外ハ姓名不覚、卅一日暁天中島健彦出頭シテ自分ヲ応接所ニ延ヒテ申聞ケタルハ、私学校党俄ニ起リ立弾薬ヲ奪コトニ至ル、容易ナラサルコトナリ、其原由ハ此程ヨリ東京ニテ警部奉職スル中原尚雄等追々帰

県セシハ、当県内ニ於テ何カ事ヲ起ストノコトニテ来ルヨシ、谷口東太ナルモノハ中原尚雄ト親友ノ者故、尚雄ヨリ其胸中胸算ノ事ヲ東太ヘ逐一談示シタリ、其次第ハ私学校ノモノヲ離間シ、西郷ヲ刺殺シ、鎮台ヘ諜シ合セ陸海軍ヲ以テ薩州人ヲ鏖殺スルトノ隠謀ナリ、右ヲ私学校党ノ者伝聞セシ折柄三菱ノ蒸気船入港シ、是迄火薬運送ノ例規ト違ヒ県庁ヘ届モナク弾薬ヲ積込ミタルニ付、中原等カ隠謀アルコトハ果シテ実事ナリト私学校ノ者共モ存込ミ、遂ニ弾薬ヲ奪フコトニ至レリト、

第百六十三条
一中島健彦云、火薬掠奪ヲ制止センニハ巡査ニ命ス可キ訳ナレトモ、巡査ハ孰レモ私学校党ナレハ迚モ制止スル術ナシ、尤モ中原等捕縛ノ為メ巡査ヲ諸方ヘ派出セシタルニ付、我々ハ其取調ニ掛ルトテ退出セリ、

第百六十四条
一自分ハ西郷暗殺等隠謀ノ証拠物ハ未タ一見セス、且中原等ノ内誰ノ手ニ所持セシヤモ知ラス、唯田中直哉ノ書面且暗号ヲ記シタル手帖アリタリト聞ケリ、

第百六十五条
一中原其外捕縛ノ為メ巡査三十人ヲ臨時雇申付タルハ、一月三十日朝ト覚ユ、此巡査ハ皆私学校ノモノナリ、雇入ノ順序ハ第一課ヨリ当人ニ宛タル呼出シ状ヲ出ス、三十一日中ニ三十人ノ雇申付相済タリ、

第百六十六条
一中原等脱走ノ聞エアルニ付、巡査ヲ以テ出水ト大口トヲ固メタリト聞リ、其以来ハ県官トテモ自由ニ通行スルコトヲ得ス、

第百六十七条
一中原等ハ二月三日ヨリ七日迄五日間ニ不残捕縛シテ、警察第二分署ヘ拘引スト聞ケリ、

第百六十八条
一二月二日・三日頃ノ朝中島健彦、野村十郎太同道ニテ自分宅ニ来リ、云コト、是迄ノ警部ハ重大ノ取糺ヲナシタルコトナク、其作法モ存セサル者共故県庁訴訟課ヨリ引続キ裁判所ニ奉職シテ、当時退職ノ中山行高・河野半造ハ事ニ慣タルモノニ付、今日早速警部ニ任シ呉ヨト、自分云フ、中山等ニ於テ承知ヲスルコトナレハ直ニ申付クヘシト、因テ中島・野村ハ中山等ノ宅ニ行キ存意ヲ尋ネシニ、両人ハ裁判所ヲ辞職シテ今日警部ヲ奉職スルハ不都合ナレト、至急ノコトニ付県令ノ命アレハ出勤スヘシト答ヘタル旨立帰リ申出タルニ付、則中山・河野ヲ呼出シ五等警部ニ申付ケタリ、

第百六十九条
一中原等ハ中山・河野ニテ始メヨリ取糺タル事ト聞ケリ、

第百七十条
一二月九日高雄丸ノ入港マテハ中原等ノ口供・拇印ヲ取リタルコトナシト覚フ、高雄丸入港ノ日ハ右口供ノ草

稿ニ枝葉ノ事多キヲ以テ刪除セシコトアリ、仍テ拇印ヲナサシメシハ二月十日カ十一日頃ト覚フナリ、

第百七十一条
一警部ハ悉ク西郷ニ随行スル筈ナル故、警部ノ手ニ有ル中原等ノ証拠物ヲ二月十六日ニ自分手元ヘ取寄セタルニ、沢山ノ書面ヲ風呂敷ニ包ミアリタリ、其夜右ノ風呂敷包ハ西郷ヨリ取戻シニ来ル、仍テ直ニ返却セリ、

第百七十二条
一右証拠物ノ中ニ在ル暗号ハ委ク覚ヘサレトモ、大久保ヲ西ノ久保ト、西郷ヲ坊主ト、久光ヲ黒砂糖トアリ、此暗号ノ写ハ木梨精一郎ヘモ渡シ置タリ、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年四月十九日　　大山綱良

第六号
明治十年四月六日申立

鹿児島県士族
大山綱良

第百七十三条
一二月十六日西郷隆盛ヨリ仁禮景通ヲ以テ、中原尚雄以下数名ニ関スル書類証拠トテ風呂敷包ニシテ持タセ越シタル中ニ書類多数アレトモ、自分ハ別紙ニ申上タル三箇条ノ書類ノ外ハ見サリシ、唯書類ニ一々張紙アルヲ覚ヘタリ、其風呂敷包ハ同夜西郷ヨリ返シ呉ヨトニ付返却セリ、

第百七十四条
一仰ノ通リ中原尚雄等警視庁ニ奉職セル上ハ、未発ヲ探偵シテ本庁ニ報道スル為メ暗号ヲ用ユルハ固ヨリ、其職掌中ノコトニテ自分ニ於テモ左様ニ存スルナリ、

第百七十五条
一鹿児島県ノ警部巡査ニ非レハ其県下ノ事ヲ警察スルコトハナラヌト謂フコトナシ、然レハ凡警部巡査ノ職ヲ奉スル者ハ到処警察ヲナスハ当然ナリ、故ニ自分ニ於テモ暗号ノ手帳有ルトテ、隆盛ヲ暗殺スルノ証トハ存セス、

第百七十六条
一加世田郷ヘ差遣ス書面中鶴ケ岡森藤右衛門ヨリ、県庁ニ係ル訴訟一件ノ書類ヲ一見ハスレトモ、是モ証拠トハ考ヘス、且何人ノ書ナルヲ記臆(ママ)セス、

第百七十七条
一田中直哉明治九年一月頃帰県、其後東京ヘ送ラントセシ書翰ト唱フルハ、半紙二枚ニテ田中始メ三人ノ苗字ノミ認メ之レ有リ、外二人ハ記臆セス、且東京誰ヘ遣シタルモノカモ不分、只田中ト有ル故直哉ヨリ東京人ニ送ル書面ナルヘシト推量セシノミ、

第百七十八条
一右書中ニ鹿児島ヲ敗リ、共ニ肩ヲ并ヘ愉快ヲ極ム云々ト之レアリ、是ヲ以テ隆盛等ハ中原尚雄等カ隠謀ノ証ト申来レトモ、自分ニ於テハ右ノ書状ヲシテ中原尚雄

等カ隠謀ノ確証トハ存セサリシナリ、

第百七十九条
一過日申上タル如ク、第二署ニ於テ私学校党多人数ニテ中原以下ヲ糺問セシ時、自分ハ始終一度モ席ニ臨マス指揮モ為サス、又相談モ無之、只中島等ヨリ渡セシ口供ヲ一見セシノミ、

第百八十条
一右糺問ニハ今藤宏ハ関セス、河野繁蔵・中山行高・古川源助・宮内俊蔵・仁禮景通等ハ関係スト思ハル、中島ハ関スルカ関セサルカヲ詳ニセス、樺山久兵衛ハ一両人調ヘタル由ナレトモ、綱良ハ更ニ関セサル故ヘ其景況ハ知ラス、私学校党多人数ニテ残酷ニ拷尋シタルコトハ、今般勅使随行ニテ上京船中ニ於テ初メテ之ヲ承知セリ、

第百八十一条
一昨年十二月林内務少輔ト同行シテ帰リシ時、中島健彦私宅ニ来リ自分カ近来不評判ナルコトヲ告ク、其次第ヲ尋ヌルニ昨年今泉ト云フ四里四方ノ池ヲ堀割リ落成シタリ、右今泉ハ旧門閥家ノ居ル処ニテ、此池ノ落成スル時村中永世ノ幸福ヲ得ルト云フテ、一同ニ旧藩主ノ代替ヲ祝スル時ニ躍リタル躍ヲ跳リテ其堀割ヲ祝ス、是時綱良百人計ヲ伴ヒ之ニ臨ミ酒ヲ飲ミ祝義ニ与リシコトアリ、此ノ事ヲ谷口藤太ノ口ヨリ誹謗シタル趣ナリ、此レニ由テ考フニ谷口ハ中島トハ懇意ナリシト思量スルナリ、

第百八十二条
一二月十七日朝西郷隆盛等出発ノ節、隆盛ヨリ中原尚雄等ノ多人数ヲ引連テハ警護ノ者モ入リ失費モ多クナレハ、我等二月下旬頃大坂ヘ到着シタル上ニテ右犯人ハ呼寄スヘシ、夫迄ハ県庁ヘ預テ置クト云フ、因テ其儘囚獄中ニ入レ置キタリ、

第百八十三条
一二月廿二日頃ヨリ新牢ノ建築ニ掛リ一周間ハカリニテ落成セリ、因テ中原等ヲ新牢ヘ移ス、県庁ニテハ一度モ糺問ハ致サス、中原等ノ外真宗僧徒等ノ人員ハ何ノ為メニ拘留セシカハ知ラサレトモ、是亦タ新牢中ヘ移セリ、

第百八十四条
一中原等ノ口供ヲ県庁ニテ十一日頃点竄ヲ加ヘタルモ、只文面ノ冗長ヲ刪リ其要領ヲ存シタル迄ニテ、趣意ハ少シモ改メタルコトナシ、右改竄セシ上ニテ其口供ヘ拇印ヲ取リタリシト記臆セリ、

第百八十五条
一今度隆盛等多人数ヲ率ヒ上京スルノ趣意ヲ管下人民一般ニ能ク知ラシメテ、安堵セシメンカ為メニ活板摺立、県庁ヨリノ達シ書ヲ添ヘ頒布シタルナリ、各府県鎮台ヘ文通ニ及ヒタルモ亦タ同様ノ趣ナリ、

第百八十六条
一右松祐永ハ学務課長ナレトモ勅使下問ニ付県庁ヘ召シ寄セタリ、裁判所往復書ハ悉ク祐永ノ名ナレトモ、綱良モ承知シタル上ノコトナリ、

第百八十七条
一二月二日ヨリ菅野ハ所在分ラス、其後櫻島ヨリ同人依頼書ヲ差越ス時ハ、自分ハ即答セスト雖トモ五日ニ至テ委シキ返答ヲ使ニ持タセ、櫻島ハ私学校党多キユヘ是迄ノ菅野ノ下宿ニ来ルヘシト申遣シタリ、固ヨリ綱良ニ於テ注意セサルニアラス、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年四月十九日　　大山綱良拇印

第七号
明治十年四月九日申立

鹿兒島県士族
大山綱良

第百八十八条
一寶瑞丸ハ元ト旧鹿兒島藩ノ船ナリシヲ、廃藩ノ節県下林徳左衞門ナル者ヘ払ヒ下ケ、同人ニテ八ケ年間程モ支配致セリ、

第百八十九条
一三十年前ヨリ旧藩ニ於テ生産会社ナルモノヲ設ケ、管下人民及ヒ琉球諸島ニ商法資本金ヲ貸附置シ処、去ル明治八年ニ至リ旧知事ノ手許ニテ右貸附金取纒方出来兼ヌル故、該社ヲ自分ヘ委任スルニ付会計練達ノ者ヲ撰ミ担当為致、右資本金ヲ以テ士族給助并学校設立等致スヘキ旨ノ依頼ニ付、社名ヲ承惠社ト改メ、旧知事ノ依頼書ヲ添ヘ内務省ヘ出願ノ上許可ニ相成リタリ、

第百九十条
一生産会社ノ資本金ハ旧知事ノ手許金ナリシ処、改社已来ハ県下人民ノ所有ニ相成リタリ、

第百九十一条
一旧生産会社ノ貸附金往々身代限等ニテ取纒マラサル分有之、右寶瑞丸ハ即チ徳左衞門ヘ貸附金滞ノ方ヘ取リタルモノニテ、其後承惠社ノ所有ニ帰シタリ、尤右生産会社貸附金ノ義ハ昨年林内務少輔出張ノ節、夫々取調ヘニ相成リタリ、

第百九十二条
一承惠社ハ鹿兒島県ニ在ルノミニテ長崎ニハ分社ヲ置カス、平田豐治等ハ旧生産会社貸附金取纒メノ為メ長崎ヘ出張セシモノナル、尤モ同所ニテ取立テタル金ハ都テ鹿兒島承惠社ニ納ムヘキ筈ナリ、

第百九十三条
一承惠社長ハ同県士族喜入嘉之助ナリ、此ノ者ハ旧生産会社貸附金取纒メノ為メ、昨年一月頃大坂ニ出張シ其後ノ模様ハ一切知ラス、

第百九十四条
一二月十二日頃長崎出張平田豐治ヨリ送リ来ル二万円ノ金ハ、元ト戊辰戦争ノ節大坂・長崎等ニテ分捕金アリ

シヲ、同所ニ居留スル同県人笠野熊吉ナル者ニ無利息ニテ預ケ置キタル処、今般西郷隆盛上京入用ニ付、右金取立方示談アリタル故、平田ヘ申遣シタル義ニテ承惠社ノ金ニアラス、右金ノ事ハ西郷モ能ク承知ニテ、明治三年頃笠野ヨリ自分ヘ宛テタル借用証文ヲ差出セリ、

第百九十五条
一西郷出立前右二万円金取寄セノ義、郵便ヲ以テ平田ヘ依頼セシコトモアリタルト覚ヘタリ、

第百九十六条
一寶瑞丸修覆ノ為メ長崎ヘ出帆ノ時ニモ、右二万円金遞送ノ義ヲ申送リタルコトアリ、

第百九十七条
一ワチワストツクト云ハ朝鮮ニ近キ地名ナリ、同所ヘ兼テ笠野カ商法ヲ開キ、右二万円金ヲ該商法ニ差向ケタル義ヲ兼テ聞及ヒ居タルニ付、平田ヘ送リタル書状ニワチワスト云フコトヲ記載セリ、

第百九十八条
一畑中源左衛門ハ上州ノ人ニシテ、明治八年県下蚕種惣代勧業寮ヘ会議ノ為メ出京ノ節、旧高輪藩邸定府ノ者ノ口入ヲ以テ、養蚕ノ為メ鹿兒島県庁ヘ雇ヒ入レタル者ナリ、此ノ外製茶ノコトニ付静岡ヨリ四五名ヲ雇入レタルコトモアレトモ、此者共ハ昨年帰国、畑中一人相残リ桑・茶ノ世話ヲモ為セシカ、今度長崎ヲ経テ帰国スルニ付、其便ニ託シ平田ヘ二万円遞送ノ義ヲ申遣シタリ、

第百九十九条
一明治九年自分出京ノ節、松方勧業頭ト鹿兒島県下ニテ米利堅ヘ輸出スル製茶ノコトヲ約定致シ、右ニ付旧勧業寮官員四谷次行・杉田晉ノ両人出県ニ相成リ、其節松方ヨリ本年四月頃ニハ勧業局ヲ当県下ニ置ク筈、左スレハ四五万円金程ハ下渡スニヨリ、先其迄ハ繰替ヘ置キ呉ヨトノ義ニ付、右入費ノ為メ西郷入用ノ二万円金外ニ五万円金ヲ、笠野ヨリ借入レノ義ヲ同時ニ依頼セシ事アリ、

第二百条
一平田ヘ遣シタル書面ニ笠野借用分ニ相頼ムト云フハ如何ノ訳ニテ此ノ如ク書キタルヤ、慥ニ相覚ヘス、尚篤ト勘考ノ上申立ツヘシ、

第二百一条
一平田ヘ送タル書状ニ河村・林異心無之安心ト認メシコトハ、篤ト勘考スルニ二月九日高雄丸ニテ河村参軍・林少輔ヘ面会ノ節、県内ノ事情具ニ陳述シ、今日ノ如ク騒擾ニ立至リテハ所詮自分ハ其任ニ堪ヘス、殆ント奉職ハ見込モ相立チ難シト申述ヘタレトモ、両人ニテ九日迄ノ事情ハ逐一聞届ケタルニ付、先ツ是迄ノ通奉職致シ、精々尽力致シ呉ヨトノ事ニ付、河村・林異心

無之安心ト相認メタル義ニテモ有リシヤ、何分記臆セス、今日右御調ヲ受ケテハ何トモ申上難ク、実ニ不都合ノ書面ニテ恐レ入リタリ、自分ニ於テモ其節ノ形勢ヲ安心ト存スヘキ筋ナシト思考セリ、

第二百二条
一右書状ニ終日終夜ヤリ通シトアルハ、其頃各郷并ニ日州ヨリ追々多人数繰込ニ付、自分モ昼夜県庁ヘ詰切リタルヲ云フナリ、

第二百三条
一平田ヨリ取寄セタル二万円ノ金ハ西郷ニ渡シタレトモ、今日ノ如キ暴挙ヲ為ス軍用金ニ致ストハ一向存セサリシナリ、

第二百四条
一平田ヘ遣シタル書状ヲ竹ノ筒ニ挾ミタルハ、其節ノ使橋口熊太郎外一人ヨリ、今般ノ騒擾ニ付テハ長崎県下行人取調方殊ノ外厳敷、就テハ通常ノ書状ニテハ持届方六ケ敷旨申スニ依リ、格別警察ノ目ヲ忍フト言フ訳ニハアラサレトモ、右両人ノ意ニ従ヒ如此取計ヒタルナリ、

第二百五条
一平田ヨリ社金ノ内ヲ送ルト申立テタル趣ナレトモ、長崎ニ承惠社ノ社金多分アルヘキ筈ナシ、自分ヨリ依頼セシハ、分捕金ノ二万円金外ニ製茶入用ノ五万円金ノミニシテ、此ノ外ニ二三万円ノ義ヲ平田ニ依頼セシコトナシ、

第二百六条
一畑中ニ書状ヲ託スル時、口上ニテ書状被見ノ上ハ速ニ破毀スヘシト申含メタル義ハ、発輝ト記臆セス、畑中ハ該金策ノ委シキコトハ知ラサル者故、只此書面ヲ慥ニ届呉レヨト頼ミタル様相覚ユ、尤此ノ義ハ畑中ト対決スレハ考出スコトアルベシ、

第二百七条
一四万円金ヲ大坂出張ノ笠野ヘ依頼セシコトハ、一切承知セス、

第二百八条
一平田ニ遣シタル書状ニ分捕金二万円ヲ取立テ送ルヘシトハ認メサレトモ、右ノ金タル義ハ同人能ク承知ノコトナリ、

第二百九条
一平田トハ別段懇親ト云フニハアラサレトモ、昨年大坂ヨリ同船ニテ帰県致シ、且又承惠社ノコトニ付時々引合ヒタル事アリ、

第二百十条
一笠野帰リ次第金策十分申付云々ト書状ニアルハ、即チ五万円金ノコトナリ、

第二百十一条
一長崎ニ承惠社ノ金多分之レアルヘキ筈ナキニ付、二万円ノ金ハ笠野他行中ナレトモ、留守宅ニテ調達致シタル義ト推量セリ、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年四月十九日　　大山綱良拇印

第八号
明治十年四月十日申立

鹿兒島県士族
大山綱良

第二百十二条
一明治九年十二月自分帰県ノ節、長崎ヘ立寄、承ルニ笠野熊吉ノ弐万円ハ商法ノ方ニテ引入損失ノコトナリニナリ、漸ク壱万弐千円位残リ居ルト平田豊吉ヨリ承リタリ、

第二百十三条
一右壱万二千円ノ内壱万円計リハドル銀ニナリ居ルニ付、上海ニテ金ト引替ニスルト平田申聞タリ、

第二百十四条
一全体右二万円ノ金ハ戊辰ノ歳分捕ノ金ニテ、其節笠野ヘ預ケタル金ナレハ、仮令商法損失ニナリタルニモセヨ、二万円ハ笠野償フヘキ筈ナルニ付、笠野ヨリ取立ヘキ旨平田ヘ申聞ケ置キタリ、但右ノコトハ西郷モ自分モ能ク承知セリ、

第二百十五条
一自分ヨリハ平田ヘ兎ニ角二万円ヲ笠野ヨリ取立ヨト云置キタレハ、此節ノ二万円ヲ社金ヨリ差出シタルト申立テシ者アルトモ、実事ニハアラサルヘシ、

第二百十六条
一社金ハ漸ク二千円位ノ外之ナクト存セリ、

第二百十七条
一社金ハ外ニ貸付モ有之処、最早取立方相済ミ、其ノ残リ纔三四人分之レアリ、之ヲ取立ツルモ二千円位ノ外ハ之ナクト存セリ、

第二百十八条
一総テノ金ハ笠野帰県ノ上取調ヲナスヘクト兼テ存シ居レリ、

第二百十九条
一平田ヘ差遣シタル手紙ノ旨意ハ、笠野借用分ノ二万円返却ニナリタル金ト存シセシニ付、其計算ニナル様ニト頼遣シタル心得ナリ、

第二百二十条
一社金ノコトハ内務省ヘモ願ノ上取建アルコトニテ、林内務少輔モ能ク承知シ居ル義ニ付、自分ヨリ其金ヲ差出セヨトハ申遣ス謂レナキナリ、

第二百二十一条
一平田ヘノ書面ニ相迎シ不申トアルハ、相違ナク返ストノコトナリ、

第二百二十二条
一高雄丸・大平丸・迎陽丸ハ二月九日前ノ濱ヘ着港シタル趣、二月十一日県庁ヘ届アリタリ、野村綱ハ右迎陽丸ヘ乗組タルナリ、

第二百二十三条
一右高雄丸・大平丸・迎陽丸着スルヤ否ヤ、私学校ヨリ番兵ヲ付ケタル趣ナレトモ県庁ニテハ何モ承知セス、

第二百二十四条
一旧東京府官員先達テ減人ニナリタル種ケ島忠助外ニ岩本基ハ迎陽丸ニ乗組タル処、私学校番兵ノ内ニ種ケ島ノ親類淺井直吉ト申者アリ、又岩本ノ弟岩本平八ト申

ス者アルニ付、其縁故ヲ以テ両人ハ印鑑ヲ貰受ケ上陸シタル趣ナリ、

第二百二十五条
一野村綱ハ右岩本・種ケ島ヘ托言シ、上村久助ヘ上陸ノコトヲ依頼シ越シタルニ付、上村ヨリハ平田宗高ト申ス者ヘ談ノ末、平田取扱ニテ野村ヘ印鑑ヲ遣シタルヨシ、尤右印鑑ヲ野村ノ船中ヘ持参セシ者ノ姓名ハ知ラス、

第二百二十六条
一二月十一日夕方ヨリ久光方ヘ罷越シ、夜十二時頃県庁ヘ帰リタル処、田畑申スニ、只今野村綱出頭セシカケハシキ様子ナリ、尤拙者ハ野村ノ上京シタルコトハ何故カ知ラサリシカ、野村曰ク、今日迎陽丸ニテ前ノ濱ヘ着シタル処、何故カ番兵来リテ上陸ヲ止ム、依テ上村久助ニ依頼シ、印鑑ヲ得テ上陸ノ上帰宅、親戚朋友ニ面会シテ今般ノ事件ヲ始テ承知シ、且中原始ノ口供等ヲ一見シタリ、一体自分帰県シタルハ中原等ト旨意ハ相違スレトモ、全ク内務卿ヨリ含メノコトアリテ帰県シタルナリ、若シ御尋ノコトアラハ始終在宿ニ付、何時ニテモ罷出ヘキト申シタル趣田畑申聞シニ付、右ノ次第ナレハ早速第二分署ヘ達スヘシト談シタリ、

第二百二十七条
一右ニ付第二分署ヘ達シタル処、野村十郎太外壱人（名失念）罷出タルニ付、右野村綱取調ノコトヲ達シタリ、

第二百二十八条
一二月十三日第二分署ヨリ野村綱ノ口供ヲ県庁ヘ差出シタリ、

第二百二十九条
一右ニ付獄ニ入置検事ヘ届置タリ、

第二百三十条
一出兵前ニ至テハ県庁ヨリ出ス人モ、私学校ヨリ差止メル位ノ勢ニテ、県庁ノ権モ丸テ私学校ヘ奪ハレ職掌上残念ナカラ止ムコトヲ得サリシナリ、

第二百三十一条
一県庁ノ通行印鑑ニテ勝手ニ往来致サレテハ、甚困ルト中島健彦申立タリ、

第二百三十二条
一往来ハ郵便モ止リタル故、県庁ノ印鑑ニ之ナクテハ不都合ナリト私学校ヘ掛合、二月十三日頃ヨリ従前ノ通県庁ノ印鑑出スコトニナリ、往来ノ取締ハ都テ県庁ニテナシタリ、

右印鑑ハ紙札ニテ第一課ニアリ、今藤宏ノ関係ナリ、

第二百三十三条
一出兵迄ハ中島健彦警部ヲ奉職シ、其儘ニテ出発ス、

第二百三十四条
一種ケ島・岩本上陸ノ印鑑ハ県庁ヨリ渡シタルナリ、但一月十一日十二時頃右両人共県庁ヘ出タリ、

第二百三十五条
一右種ケ島ノ印鑑ハ同人親類浅井直吉ヘ渡シ、岩本ノ印鑑ハ同人弟岩本平八ヘ渡シタリ、

第二百三十六条
一種ケ島・岩本ノ両人ハ迎陽丸ヘ乗組タル人数ノ内第一

ニ上陸シタリ、其節渥美少検事モ乗組居ルコトヲ聞ケリ、

第二百三十七条
一二月十三日第二分署ヨリ県庁ヘ出セル野村綱ガ口供ハ、最初内務卿ヨリ内命ヲ受ケタルコトヨリ、帰県シタ迄ノ手続ヲ書セリ、

第二百三十八条
一右口供出来ノ上中原等同様囚獄ヘ入レ置キ、其後勅使御下向ノ節、中原等ト一緒ニ渥美少検事ヘ引渡タリ、

第二百三十九条
一中原等ノ口供ハ加筆セシナレトモ、野村綱ノ口供ハ一切筆ヲ下シタルコトナシト覚ユ、其次第ハ野村綱ニ於テハ当人ヨリ訴出タルコトニテ、委細其手続ヲ陳述シタル故ナリ、

第二百四十条
一訴出ト申スハ田畑常秋ヘ申出テタルコトニテ、訴ト申スコトハ届出ルコト申事ナリ、

第二百四十一条
一野村ハ内務卿ノ内命ヲ受タルモノナルヲ疑惑シ、取調ヲ申付タルハ恐入タリ、全ク混雑中ニ付中原等同様ノ者ナラント心得、中原等ノ引合ニモナルヘクト存シ、二分署ヘ達シタルナリ、

第二百四十二条
一久光ヘハ野村綱ノ口供ノミヲ差出シタル迄ニテ、西郷出立ノ後ハ久光方ヘ出タルコトナシ、

第二百四十三条
一野村綱カ自訴セシト申スコトハ、久光ヘ申タルヤ否ヤ疑ト覚ス、

第二百四十四条
一野村綱カ届出シコトヲ訴ト云ヒシハ、鹿兒島ノ方言ニテ訴ト申セシナリ、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年四月廿日　　大山綱良拇印

第九号
明治十年四月十七日申立

鹿兒島県士族
大山綱良

第二百四十五条
一二月十二日付ヲ以テ平田ヘ差遣シタル返書中ニ、日州各藩追々繰出云々トアルハ全ク各藩ニハ非ス、旧佐土原藩知事ノ三男島津敬次郎四五年程洋行、昨年佐土原ニ帰リ、其後同所ニテ鹿兒島ノ私学校ノ如キモノヲ取立、三百人計リアリテ、其内六七人ヲ敬次郎県庁ヘ召連来リ云フ、今般西郷出立ニ付右三百ノ人数途中迄来リタリ、就テハ金七千円程入用ニ付他ヨリ借リ呉レヨト、自分云フ、西郷ノ出発ハ夫々次第アリテノコトユヘ、御方ノ人数ヲ連レルト申スコトハナラス、敬次郎云フ、左スレハ迎陽丸ヲ抵当ニシテ銀行ヨリ借リタシト申スニ付、自分云、銀行ヨリ金ヲ借ルニ県庁ヨリ談

スヘキ次第ナシ、直談ハ格別ナリト答フ、尓後敬次郎ヨリ西郷ヘ直談ニナリタル処、是亦断リニナリタリ、夫ヨリ敬次郎ハ旧知事島津忠義方ヘ談ニ至リタル処、忠義ヨリ大ニ叱カラレ、以来門内ヘモ出入ハナラヌト厳敷申付ラレタリ、

第二百四十六条
一日州各藩云々ハ平田ヨリ金ヲ差越タル時分、県下不一方混雑際ニ付其景況ヲ書加タル積リナリ、

第二百四十七条
一惣督有栖川宮ヘノ上申書ハ長崎県令ヘ宛、裁判所ノ吉本二級判事補ヘ頼ミ差出タルト覚エリ、

第二百四十八条
一勅使御下向四五日前西郷ヨリ自分宛ニテ中原尚雄等ノコトニ付書面ヲ差越シタリ、其書面ハ勅使久光宅ニ御出ニナル前日自分久光方ヘ参リタルニ付、手許ヘ差出シ置ケリ、

第二百四十九条
一右書面ノ旨意ハ西郷出立前中原尚雄等ハ、拙者大坂迄着スル間県庁ニテ預リ置クヘシト託サレタレトモ、今日ノ形勢ニ至テハ其取締モ甚掛念スルニ付、渥美少検事ヘ引渡度ト自分ヨリ申遣タルヲ、西郷ニ於テハ、政府ヨリ如何様ノ厳命下ルモ、拙者大久保ニ面会シタル上拙者罪アレハ縛ニ就ク積リ、其御沙汰アル迄ハ引渡ハ見合スヘクト申越タルナリ、

第二百五十条
一右返書ノ節、西郷ヨリ先キニ有栖川宮ヘノ上申書面自分方ヘ差廻シタレトモ、右ノ書ヲ未タ上申セサレハ、此通ニテ出シ呉ヨト草案ヲ半切紙ニ認メ河野半蔵ヘ持セ越シタリ、然ルニ右書面ハ今日ノ形勢ニ付、県令ノ職掌ニテ出ス訳ニハ至リ兼ヌルニ付、返却スル趣ヲ口上ニテ河野半蔵ヘ申含メ、勅使御下向前日頃差戻シタリト覚ユ、其後西郷ヨリ直々上申シタルヤ否ハ分ラス、右之通相違不申上候、以上、

明治十年四月廿日　　大山綱良拇印

第十号
明治十年四月十九日申立

鹿児島県士族
大山綱良

第二百五十一条
一県下ニ於テ旧来諸島等遠方ヘ送ル書翰ハ、竹封箱ト称セシ竹筒ヘ挿シ込ミ、鬢付油ヲ以テ口ヲ封シ差送ルコト有、現今郵便ナトハ其儘遣ハスコトナレトモ、態々差送ル時ハ矢張竹封箱ヲ用ユル慣ヒナリ、此度モ即チ此ノ例ヲ用ヒタル迄ニテ、別段秘密ニナシタル訳ニハ無之、右ハ過日申シ脱シタルニ付為念申上置ナリ、

（中表紙）

證據書類

（朱）「但大山綱良掛印ノ分写」

証拠書類目録

第一号　一　菅野覺兵衛ヨリ大山ヘノ依頼書　一通
第二号　一　大山ヨリ菅野ヘノ廻答書　一通
第三号　一　大山ヨリ内務卿ヘ管下異状ノ届　一通
第四号　一　菅野ヨリ大山ヘ送リタル書翰　一通
第五号　一　大山ヨリ菅野ヘ送リタル掛合書添書共　二通
第六号　一　大山ヨリ各県各鎮台ヘノ通知書　一通
第七号　一　鹿兒島県甲第九号布達書　一通
第八号　一　大山ヨリ平田豐治ヘ送リタル書翰　一通
第九号　一　大山ヨリ長崎平田ヘ送リタル書翰　一通
第十号　一　西郷隆盛外二名ヨリ大山ニ送リタル依頼書　一通
第十一号　一　西郷等上京ノ儀ニ付大山ヨリ届書　二通
第十二号　一　大山ヨリ名護屋鎮台ヘノ通知書　一通
第十三号　一　大山ヨリ愛知外三県ヘノ通知書并添書共　二通
第十四号　一　西郷等熊本県ニ於テ開戦ノ儀ニ付大山ヨリ右大臣殿宛ノ届書　一通
第十五号　一　新牢建築ノ儀ニ付右大臣殿宛届書　一通
第十六号　一　西郷以下追討被仰出タル儀ニ付大山ヨリ両大臣殿ヘ差出シタル上申書　一通
第十七号　一　大山ヨリ千田貞曉ヘ送リタル書翰　一通
第十八号　一　大山ヨリ中原以下犯罪ノ儀ニ付渥美少検事ヘノ掛合書　一通
第十九号　一　渥美少検事ヨリ大山ヘノ回答書　一通
第二十号　一　右松祐永ヨリ中原以下引渡ノ儀ニ付検事局ヘ掛合書　一通
第二十一号　一　渥美少検事ヨリ大山ヘノ掛合書　一通
第二十二号　一　大山ヨリ渥美少検事ヘノ廻答書　一通
第二十三号　一　大山ヨリ県下ニ布達セシ告諭書　一通
第二十四号　一　大山ヨリ有栖川総督宮ヘノ懇願書　一通
第二十五号　一　中原尚雄以下二十一名活板口供并添書　一通
第二十六号　一　中原以下証拠物ノ儀ニ付大山ヨリ差出シタル覚書　一通

（朱）「第一号」

昨三十一日夜正午十二時頃何者欤不相分、磯屬舍内ニ格

納致置候小銃弾薬奪却致候旨、番人共ヨリ届出候ニ付則取調候処、九百六十発入箱凡二十五個不足致候、右様之品窃盗致候儀ハ、不容易事候条、御管下篤ト御探索相成度此段御依頼仕候也、

海軍造船所次長

十年二月一日　　海軍少佐菅野覺兵衛

鹿兒島県令大山綱良殿

追て当時現存之弾薬九百六拾発入凡五百四十五箱程有之候処、再奪却ノ患モ難計、然ニ当所之儀ハ、人少ニテ保護方差支候条、其御庁ニテ御保護之道ハ無御座哉、何分御依頼仕度、否至急御回答相成度候事、

右之通相違無御座候也、

鹿兒島県士族

明治十年四月六日　　大山綱良

(朱)「第二号」

昨卅一日午后十二時頃、其御舎内ニ格納之小銃等奪却之者有之タル段御掛合之趣致了承候、則其筋ヘ相達シ探索為致候条、此旨及御回答候也、

但当庁ニテ保護云々ノ趣ハ、方今警部巡査各部ヘ出張人員甚タ差支其儀ニ及難候、

二月二日　　鹿兒島県令大山綱良

海軍少佐菅野覺兵衛殿

本紙ノ趣ハ、二月一日朝下河邊行近前夜宿直ノ由ニテ、委細申出、尚菅野覺兵衛出庁、十時頃ニテ逐一承届、尚又当夜取締ノ儀ニ付、下河邊行近出庁ニ付、四等属青山勇藏造船局ヘ差遣示談相調、菅野覺兵衛ヨリ御手厚キ次第ト挨拶有之候ト取覚居申候、就テ翌二日ニ返書ニ及候儀、実事ト間違イタシ候様相心得申候事、

但返書之儀ハ本文ノ通差遣候儀、相違無御座候也、

右之通相違無御座候也、

鹿兒島県士族

明治十年四月六日　　大山綱良拇印

(朱)「第三号」

管下異状ノ届

客月三十一日夜十二時頃、何者トモ不相分、磯海軍造船所属舎内ニ格護ノ小銃弾薬ヲ奪取タル段、該所官員ヨリ急報ニ付、速ニ其筋ニ申付捜索中ノ処、昨晩又殆ント千人余該所並ニ属廠ヘ闖入シ、弾薬類都テ奪取タル段掛合ニ及、就テハ方今百方捜索中ニ候得共、不取敢此段及御届候也、

十年二月二日　　鹿兒島県令大山綱良

去ル二日遂御面談、謹テ御依頼仕置候儀、直ニ以御使者具ニ御回答被成下、稍一同安堵罷在候処、豈図ン、同夜ハ暴動一層甚敷、前後千有余人所内ヘ侵入、官廨并倉庫等悉破却、兵器ハ不申及諸要具ニ至迄掠奪或ハ破損セシメ、加之直衛ノ者ヲ捕ヘ、飽迄手擲足蹴終ニ之ヲ水中ニ投スルニ至等実ニ傍若無人ノ挙動言語同断之次第ニ御座候、抑当造船所之儀ハ、兼テ御承知之通リ其名ニ反セス、只造船ノミ主務ト致候場所柄ニテ、別ニ守衛之人員防禦ノ兵器等モ更ニ予備無之、今日之形勢ニ立至リ候テハ只管御庁之保護ヲ仰クノ外絶テ手段無御座候処、於御庁モ最早其儀ニ難被及候哉、終ニ前件ノ暴動ニ立至リ候テ、不得止暫ク閉庁工事取止メ候、尤櫻島造船場之儀ハ未タ何等ノ故障モ相生不申候ニ付、従前ノ通工業相営候、就テハ覺兵衛儀モ暫時当場ニ出頭罷在候、然ルニ此段伝承致候、去ル二日之夜以来、属僚等ノ旅館ヘ刺客ノ如キ者屢々立入、厳敷捜索致候趣ヲ以、覺兵衛儀モ一ト先何処ヘ欤殺気ヲ避候方可然云々内通致候者モ有之候得共、苟モ覺兵衛儀ハ、当造船所次長ノ任ヲ恭フシ、容易ニ逃避致候者ニ無之、且当時造営着手之新艦ハ落成期日モ有之候儀ニ付、一日モ空敷廃業期限及遅滞候テハ、実以不安次第ニ候間、希クハ尓后工業上ニ故障不相生様、御尽力被成下度、将所内格納ノ残品尚御須用向ハ、公然御掛合有之候ハ、盗賊ノ所業ト判然区別相立候様取計可申候、且又覺兵衛ニ関シ、御不審等有之候ハ、如何様共御糺問相成度、決テ遁逃等不致候間、願クハ夜中寓処ニ襲来、婦女子等ヲ驚愕セシメ候様之挙動亦無之様御取計被成下度、依テ前件悉皆御依頼仕候間、否御回答奉希候也、

二月五日　　菅野覺兵衛

大山綱良殿

二伸、本文之儀ハ未タ心事不相尽候間、希クハ今一度御面謁被下度、将ニ已ニ道路警戒厳重ニ相成行人夫ヲ相糺シ、他邦ノ者容易ニ通路難相成哉ニ付、如何通行致シ出庁仕候テ可然哉、御指揮相蒙度事、

三伸、属僚之者両三名在所未タ不分明ニ付、速ニ渡舟取糺申度、何分ニモ市中通行故障無之様御取計被下度、是モ又御依頼仕候也、

本紙之儀ハ櫻島郷造船場ヨリ使ヲ以相達正ニ落手致シ当晩暮比下河邊行近ヘ宛至急菅野覺兵衛ヘ送越候様、

返書為持遣候儀ト取覚居申候也、

鹿兒島県士族　　大山綱良拇印

明治十年四月六日

(宋)「第五号」
別紙之通、朝廷及各県各鎮台ヘ通知之筈候間、為御心得此段予テ申進候也、

明治十年二月九日　　鹿兒島県令大山綱良

海軍造船所次長

海軍少佐菅野覺兵衛殿

追伸、朝廷ヘ及御届候文面ハ、首尾少敷異リ候而已ニテ、主意ハ不相変候間、態ト略候也、

右之通相違無御座候也、

鹿兒島県士族　　大山綱良拇印

明治十年四月六日

(宋)「第六号」
今般当県官員ヘ専使申付候通知之事件、左ニ申進候、

近日当県ヨリ旧警視庁ヘ奉職之警部中原尚雄、其外別紙人名之者共名ヲ帰省等ニ託シ、潜カニ帰県之処、彼等竊ニ国憲ヲ犯サントスルノ奸謀発覚シタルニ付、即チ御規則ニ基キ、其筋ヘ申付該人名捕縛之上、鞫問ニ及候処、不図モ該犯ノ口供別紙之通ニ有之、就テハ右事件、陸軍大将西郷隆盛・陸軍少将桐野利秋・陸軍少将篠原國幹等カ耳聞ニモ相触レタルカ、右三名ヨリ今般政府ヘ尋問之筋有之、明当地発程候ニ付、御含之為メ此段届出候、尤旧兵隊之者共随行多数出立致候間、人民動揺不致様、一層御保護及御依頼候也トノ書面ヲ以テ届出候ニ付、県庁ニ於テ書面之趣聞届ノ上、朝廷ヘ御届申置候間、為御心得此段及御通知候也、

明治十年二月　　鹿兒島県令大山綱良

各県

各鎮台御中

中原尚雄以下人名口供略、

右之通相違無御座候也、

鹿兒島県士族　　大山綱良拇印

明治十年四月六日

(宋)「第七号」
今般陸軍大将西郷隆盛外二名政府ヘ尋問ノ筋有之、旧兵隊等随行不日ニ上京ノ段届出候ニ付、　朝廷ヘ届ノ上更ニ別紙ノ通各府県并ニ各鎮台ヘ通知ニ及ヒ候、就テハ此節ニ際シ人民保護上一層注意着手ニ及候条、篤ク其意ヲ

了知シ、益々安堵可致此旨布達候事、

但凶徒中原尚雄以下ノ口供相添候、

明治十年二月十二日　鹿児島県令大山綱良

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族

明治十年四月四日　大山綱良拇印

（朱）「第八号」

平田豊治ヨリ鹿児島エ差送リタル軍費金弐万円、大山綱良ヨリ宰領橋口熊次郎ニ相渡シタル書翰、同人ヨリ引揚ケ当局エ本書備置写左ノ通、

封

長崎

平田豊治殿　鹿児島大山県令印

急報

嚢

此嚢ニ二月十二日（ママ）午後三時ト記シ有之、

一昨日之書面今十二日午前十一時ニ相達正ニ落掌致候、被差贈候品も封之儘無相違相請取候、此旨及御報候也、

二月十二日　大山県令

平田豊治殿

（朱）「第九号」

平田殿　急報

過日畑中差出候処、則相達速ニ御調達被給、今日相達正ニ落掌致候、右ハ兼テワチワスノ笠野借用分ニ相頼候間、左様御承知可有之、孰レ笠野帰リ次第ニハ金策十分ニ都合御申付可被給候、此節ハ十分利相付相迦シ不申候、

一兼テ申上候末当地之景況実ニ全国ヲモ引受ル積リノ勢ニ相成、大口・加治木両方ヘ大凡一万五千人、明後十四日ヨリ出発、今日限リ当地ヘ各郷会軍庁下ヘハヒシト兵隊相集リ、天地モ崩ル、勢ニ御座候、志崎氏モ最早着相成候半ト存候、別紙不取敢差上候間、御内覧ニテ熊本辺様子迄、次第ニ御洩シ可被成候、

一九日其津高尾丸入港ノ処、河村海軍大輔・林少輔同道ニテ御座候、此方両度応接聊異心無之、何事モ安心其他情実正ニ承知ニテ仕合之至、何分人数計ニテ殊ニ日州各藩追々操（繰）出来リ、困却此事ニ御座候、早々取敢ス御答御礼申上候、何モ不日様子次第迄ハ御待可被成候也、

二月十二日　大山

平田殿

志崎殿へ宜敷、終日終夜ヤリ通シ也、

大砲　二座

人員千五百人

二・四大隊

大口筋

七千五百人

一・三・五大隊

六千五百人余

伊集院筋へ二泊ニテ肥後へ入、

外ニ

予備兵五六千集リ居ル、

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族

明治十年四月十七日　大山綱良拇印

(朱)「第十号」

拙者共事、先般御暇ノ上非役ニテ帰県致居候処、今般政府へ尋問之筋有之、不日ニ当地発程致候間、為御含此段届出候、尤旧兵隊之者共随行多数出立致候間、人民動揺不致様、一層御保護及御依頼候也、

明治十年二月十三日　陸軍大将西郷隆盛　印

同　少将桐野利秋　印

同　少将篠原國幹　印

県令大山綱良殿

右之通相違無御座候、

鹿児島県士族

明治十年四月四日　大山綱良拇印

右本書ニハ十三日付ニ有之候得共十二日ト取覚居申候、

右之本紙ハ、五等属永吉小藤次へ為持差出候事、

(朱)「第十一号」

西郷陸軍大将外二名上京ニ付御届

今般当県官員ヘ上京申付御届ノ事件左ニ申上候、近日当県ヨリ旧警視庁ヘ奉職ノ警部中原尚雄其外別紙人名之者共名ヲ帰省等ニ託シ、潜カニ帰県ノ処、彼等竊カニ国憲ヲ犯サントスルノ姦謀発覚シタルニ付、即チ御規則ニ本ツキ其筋ヘ申付、該人名捕縛ノ上鞫問ニ及ビ候処、図ラスモ該犯ノ口供別紙之通ニ有之候、就テハ右事件、陸軍大将西郷隆盛・陸軍少将桐野利秋・陸軍少将篠原國幹等カ耳聞ニモ相触タルカ、右三名ヨリ今般政府ヘ尋問之筋有之、不日当地発程致候間、御含ノ為メ此段届出候、尤

モ旧兵隊之者共随行多数出立候間、人民動揺不致様一層御保護及御依頼候旨、別紙之通書面ヲ以テ届出候ニ付、県庁ニ於テ書面ノ趣聞届候間、此段御届置候也、

追伸、本文ノ趣最寄ノ各県并鎮台ヘモ及通知候、且又該犯ノ者中原尚雄外発京ノ節、或ハ四ケ月分ノ俸給、或ハ八ケ月分ノ俸給ヲ受取タル段申出候、右ハ口供ヘ漏脱ニ付此段申添候也、

明治十年二月十三日　鹿兒島県令大山綱良官印

太政大臣三條實美殿

右書面之通差出候儀、相違無御座候也、

鹿兒島県士族

明治十年四月四日　大山綱良拇印

西郷陸軍大将外二名上京ニ付御届

一前同文

明治十年二月十三日　鹿兒島県令大山綱良官印

内務卿大久保利通殿　各通

内務少輔林　友幸殿

右書面之通相違無御座候也、

鹿兒島県士族

明治十年四月四日　大山綱良拇印

(朱)「第十二号」

今般当県官員ヘ専使申付御通知ノ事件左ニ申進候、近日当県ヨリ旧警視庁ヘ奉職ノ警部中原尚雄其外別紙人名ノ者共名ヲ帰省等ニ託シ、潜カニ帰県ノ処、彼等竊ニ国憲ヲ犯サントスルノ奸謀発覚シタルニ付、即チ御規則ニ本ツキ、其筋ヘ申付該人名捕縛ノ上鞫問ニ及候処、図ラスモ該犯ノ口供別紙ノ通ニ有之候、就テハ右事件、陸軍大将西郷隆盛・陸軍少将桐野利秋・陸軍少将篠原國幹等カ耳聞ニモ相触タルカ、右三名ヨリ今般政府ヘ尋問ノ筋有之、不日ニ当地発程致候間、御含ノ為此段届出候、尤旧兵隊ノ者共随行多数出立致候間、人民動揺不致様一層御保護及御依頼致候也トノ書面ヲ以テ届出候ニ付、県庁ニ於テ書面ノ趣聞届ノ上、朝廷ヘ御届申置候間、為御心得此段及御通知置候也、

明治十年二月十四日　鹿兒島県令大山綱良官印

名護屋鎮台司令長官　御中

右之通相違無御座候也、

鹿兒島県士族

明治十年四月四日　　大山綱良拇印

（朱）「第十三号」

今般当県官員へ専使申付御通知ノ事件左ニ申進候、近日当県ヨリ旧警視庁へ奉職ノ警部中原尚雄其外別紙人名ノ者共名ヲ帰省等ニ託シ、潜カニ帰県ノ処、彼等竊ニ国憲ヲ犯サントスルノ奸謀発覚シタルニ付、即チ御規則ニ本ツキ其筋へ申付、該人名捕縛ノ上鞫問ニ及候処、図ラスモ該犯ノ口供別紙ノ通ニ有之候、就テハ右事件、陸軍大将西郷隆盛・陸軍少将桐野利秋・陸軍少将篠原國幹等カ耳聞ニモ相触タルカ、右三名ヨリ今般政府ヘ尋問ノ筋有之、不日ニ当地発程致候間、御含ノ為此段届出候、尤旧兵隊ノ者共随行多数出立致候間、人民動揺不致様、一層御保護及御依頼候也トノ書面ヲ以テ届出候ニ付、県庁ニ於テ書面ノ趣聞届ノ上、朝廷ヘ御届申置候間、為御心得此段及御通知置候也、

明治十年二月十四日　鹿児島県令大山綱良官印

愛知県令書記官
和歌山県令書記官
静岡県令書記官　　各通
三重県令書記官

御中

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族

明治十年四月四日　　大山綱良拇印

添翰ヲ以テ申進候、今般西郷隆盛外人員上京ニ付、万一御県下ニ於テ訛言浮説等相行ハレ、人民動揺ノ形況トモ有之候テハ、上ハ朝廷下ハ人民ノ為メ、拙者心中ニ於テ憂慮致居候間、別紙御通知ノ趣ヲ以テ御管下ヘ告諭、人民動揺無之様、御着手給度御意中ノ事トハ存候得共、此段更ニ内情ヲ以テ及御依頼候也、

明治十年二月十四日　鹿児島県令大山綱良官印

愛知県令書記官
和歌山県令書記官
静岡県令書記官　　各通
三重県令書記官

御中

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族

明治十年四月四日　　大山綱良拇印

(朱)「第十四号」
先般陸軍大将西郷隆盛外上京ノ事件ニ付、御届ニ及置候通、各府県鎮台ヘモ通知致シ候処、熊本鎮台ノ儀、西郷発程ノ頃ヨリ該県下ヘ放火シ、鎮台ニ拠リ発銃ニ及タルニ付、西郷随行ノ者共止ヲ得ス戦争ニ及ヒタル段、通知有之候間、不取敢此段御届ニ及候也、

明治十年二月廿七日　鹿児島県令大山綱良

右大臣岩倉具視殿

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族

明治十年四月五日　大山綱良拇印

(朱)「第十五号」
先般当県官員上京并ニ内務省官員木梨精一郎、帰朝ノ便ヨリ前後御届ニ及候陸軍大将西郷隆盛ヲ暗殺セント謀タル犯罪人警部中原尚雄以下別紙人名ノ者共、更ニ新牢ヲ建築シ拘留致シ置キ候、且又新築ノ失費ハ追テ取調ノ上御届ニ可及此段上申候也、

明治十年二月廿七日　鹿児島県令大山綱良

右大臣岩倉具視殿

谷山郷士族　瀬戸山伊左衛門
馬越郷士族　山下竹之助
加世田郷士族　本田弘
喜入郷士族　濱島敦以
加世田郷士族　西彦四郎
谷山郷士族　平田宗七
加治木郷士族　前田素志
帖佐郷士族　高橋爲清
加世田郷士族　大山綱介
同　安樂兼道
平佐郷士族　柏田盛文
谷山郷士族　古垣兼成
同　竹下種誠
谷山郷士族　長野祐道
加治木郷士族　川上親清
谷山郷士族　長倉祐利
蒲生郷士族(同県下西田カ)　松下兼清
同　樋脇賢助
市來郷士族　高崎親章
加世田郷士族　猪鹿倉保
伊集院郷士族　森幸左衛門

加治木郷士族　伊丹親恒
谷山郷士族　久留景介
同　山下兼一
平佐郷士族　田中直哉
鹿児島士族 吉野居住　東京府士族　中馬清秋
谷山郷士族　菅井誠美
今和泉郷士族　堀　興憲
同　託摩治亮
日向国高鍋士族　佐藤信武
市來郷士族　清水岩治
重富郷士族　萩原壯左衛門
牛山郷士族　酒匂龍五郎
加世田郷士族　園田長照
同　土持　高
平佐郷士族　山下住義
伊集院郷士族　末廣直方
市來郷士族　永田盛信
出水郷士族　上野秀譽
加治木郷士族　野間口兼一
木佐貫重郎

鹿児島士族 西田居住　黒江景安
高岡郷士族　山崎基明

右ノ通相違無御座候也、

鹿児島県士族

明治十年四月五日　大山綱良拇印

(朱)「第十六号」
甲印

今般陸軍大将西郷隆盛外二名上京ノ次第ハ、兼テ御届申上置通ニテ、既ニ去ル十五日当地発程致シ、尤通行ニ付テハ先々各府県各鎮台ヘ通知致置候処、於熊本県ハ未前ニ庁下焼払剰通筋川尻迄押出及砲撃候旨、追々報知有之、実ニ意外ノ次第ニ立至候、然処彼ノ地ヘモ去九日当県征討ノ命被仰出候哉ニ相聞得、何共奉恐入候、乍然西郷大将儀ハ先般辞表差上、以来於県下厳粛ニ謹慎致シ、且数万ノ士族輩自費ヲ以テ学校ヲ開キ、忠孝ヲ重シ、諸生教導シ、第一方嚮ヲ不誤様勉テ説諭シ、既ニ佐賀ノ暴動曳続キ熊本・山口同断ノ節、県内安静終ニ一毛ヲ不損ハ、全国ニ明瞭ナル事ニ候処、何等ノ御嫌疑アッテ大久保利通・川路利良ヨリ私怨ヲ以テスルカ、不容易国憲ヲ犯シ、暗殺ノ内諭ヲ下シ候儀、実ニ海外ニ対シ、乍恐政府上ノ

御失体ト奉存候、尤随行ノ者共銃器帯刀ヲ以テ、途中保護ノ儀ハ、暗殺ヲ被命候程ノ者無異儀上京不相遂ハ勿論ノ事ニテ、不得止於下官モ聞届置候、就テハ愈当県征討被仰出ノ上ハ、県官且士民ニ至ル迄、御征討ノ御趣意被為在候哉、夫々無名ノ恥ヲ蒙ラセ候テハ、鹿兒島県人民トイヘドモ、皆王民ニシテ、政府ノ命令ヲ不奉者一夫モ無之候得共、何分士民挙テ動揺ニ立至候間、至急御勅諭被成下、尤西郷大将ノ趣意モ致貫徹候様、御処分被下度、此段愚誠ヲ以テ奉願候也、

明治十年二月　日

鹿兒島県令大山綱良印

太政大臣三條實美殿

右　大　臣岩倉具視殿

右之通相違無御座候也、

鹿兒島県士族

明治十年四月五日　大山綱良拇印

(朱)「第十七号」

乙印

尚々各学校丸テ人ナシ、女学校ノ分ハ愈盛大ニ御座候、裁判検事局執レモ安堵丸テ御用ナシ、捕縛人名上中下五十余名ニ相及ビ候、

一翰奉拝呈候、時下余寒甚敷候処、愈御清穆被為成御奉職奉賀候、随テ下生帰県無異儀奉職罷在、且県下中別テ静謐、当分招魂祭角力興行中ニテ、人知ラヌ賑々敷事ニ御座候、御安神可被成候、当分ノ御心持如何ノ御事ニ候哉奉伺候、偖近頃御手数ノ儀奉願上候得共、当県今般ノ次第逐一去ル十四日出立ニテ御届トシテ属差出候処、何レモ通行所ニ無之、崎陽(長崎)辺ニテ被取押候説モ有之、併シ去ル十九日木梨精一郎、琉球ヨリ上京ニ付、当地滞在委細国情次第旁々示談ニテ御届、篤ト同人保護ニテ候間、最早相達候半、然ルニ今日洋人帰国ニ付、一封御届致、何卒出張県官ノ内御任付差出候様御達被下度、併シ高兒ヨリ御差出尚仕合ニ存候、野村綱事真福ラニ帰県ノ処、最早隠謀発覚取調最中ニ付、県庁ヘ掛ケ込ミ自訴致シ候次第ハ追々御承知ノ筈ト察上候ヨリ不申上候、樺山覺之進氏モ籠城ノ内ニテ、実ニ不愍ノ事ニ御座候、兼テ趣意ハ有之様子ニ聞ヘトモ、何分ニモ熊本神風連ナト盛ンニテ城ヲ取囲ミ候故得抜ケ難ク様ニ御座候、其地御有志中ハ如何ニ御目論見ニ御座候哉、決シテ無名ノ事ハ御取止可被成候、当地ヘ御挨拶共ハ決シテ御無用ニ御座候、我

等県官ニ於テハ傍観ノ外無之、只一死ヲ相待計御座候、別紙ノ趣ニテ届出候間、為御含草稿入御覧候也、林方へ一封差出候間、御覧可被下候、此旨要用迄御依頼如此候也、

二月廿八日　　千田貞曉殿　　大山綱良

尚々

太政大臣殿ニハ在坂ノ様ニモ相聞候へ共、態ト白封ニテ差上候ニ付、其御地在職ノ人へ宛御出被下度、上封モ御取計可被下様奉願候也、

千田公

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族　　大山綱良拇印

明治十年四月五日

(朱)「第十八号」

先般中原尚雄外之者共奸謀発覚之儀ニ付、御垂問之趣致承知候、該犯之儀極テ重大ニ渉リ上申之上朝裁ヲ仰ギ候旨、御回答ニ及置候処、更ニ再議之筋有之、今般其筋ヨリ可及御引渡候条、御承知有之度、此段御照会ニ及候也、

明治十年三月二日　鹿児島県令大山綱良印

鹿児島裁判所

渥美少検事殿

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族　　大山綱良拇印

明治十年四月六日

(朱)「第十九号」

先般中原尚雄外之者共奸謀発覚之儀ニ付、御尋問ニ及ビ候節、該犯之儀極テ重大ニ渉リ上申ノ上、朝裁ヲ仰キ候旨御回答ノ末更ニ再議之筋有之、今般其筋ヨリ御引渡可及云々、御照会之趣致承知候、此段及御答候也、

鹿児島裁判所

明治十年三月二日　　少検事渥美友成

鹿児島県令大山綱良殿

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族　　大山綱良拇印

明治十年四月六日

(朱)「第二十号」

鹿児島県伊集院郷

士族正兵衛嫡子

少警部

中原尚雄
三十二年
外弐十名

右弐拾壱名奸謀発覚銘々捕縛取調ノ上、犯罪別冊之通及白状候処、不計重大之事件ニ立到候ニ付、即チ政府ヘハ県令ヨリ及上申候、就テハ該犯人ノ儀ハ右口供四冊相添、此段及御引渡候也、

但右ヘ関スル証書類并所持品ハ追テ取調ノ上可及御回

中原尚雄外二十名事ハ監倉ヘ入置候、

鹿児島県
一等属兼一等警部
右松祐永印

明治十年三月二日

鹿児島裁判所
検事局
御中

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族
大山綱良拇印

明治十年四月六日

(朱)「第二十一号」
本日警察官右松祐永ヨリ中原尚雄外二十名ノ犯人口供相受取候、就テハ右処分方ニ於テハ尤重大之事件ニ付、司法卿ノ指揮ヲ待、而シテ所置可致筈ニ候条、右為伺当局三級検事補大井治義至急上京致候間、何分之指図有之迄ハ、該犯護衛方一層相届候様、猶其筋ヘ御指揮相成候様致度、為念此段及御掛合候也、

鹿児島裁判所
少検事渥美友成

明治十年三月二日

鹿児島県令大山綱良殿

追テ該犯ニ係ル一切之証憑物等ハ可成速ニ相纒メ、別テ発覚ノ原由始末書且引合人ノ始末書等ハ該事件ニ関スル証憑ノ中、尤至要ノ者ト相見込候ニ付、此辺猶手抜ナク行届候様、是亦夫々ヘ御達相成度、此段申添候也、

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族
大山綱良拇印

明治十年四月六日

(朱)「第二十二号」
中原尚雄外二十名ノ犯人口供御受取相成、就テハ右処分方ニ於テハ、重大ノ事件ニ付、司法卿ノ指揮ヲ待、而シテ所置可被成筈ニ付、右為伺三級検事補大井治義至急上

京被致候間、何分指揮有之迄ハ、該犯護衛方一層相届候様、御掛合之趣致了承、即其筋ヘ相達置、此旨及御回答候也、

明治十年三月二日　鹿児島県令大山綱良官印

鹿児島裁判所

少検事渥美友成殿

追テ該犯ニ係ル一切ノ証憑物等相纏メ、別テ発覚ノ原由且引合人ノ始末書云々ノ儀モ、夫々相達置候、此段モ申添候也、

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族

明治十年四月六日　大山綱良拇印

(朱)「第二十三号」

先般布達ニ及ヒ置候中原尚雄等口供之趣ハ、上申ニ及ビ決裁ヲ待候処、其際ニ当リ西郷隆盛以下ノ者共上京ノ途中已ニ征討被仰出候、然レドモ中原尚雄口供ノ趣ハ尚其筋ニ於テ糾弾ヲ経至当之御処分可有之為メ、今般勅使護衛ノ巡査ヲ以テ、上国ニ護送セラレ候条、管下人民ハ深ク此旨ヲ了知シ、流言浮説ニ惑ハス各安堵可致、此旨相達候事、

明治十年三月十二日　鹿児島県令大山綱良

此布達ノ趣ハ出立後ニ相成候ヵ、全承知無御座候也、

鹿児島県士族

明治十年四月五日　大山綱良拇印

(朱)「第二十四号」

今般陸軍大将西郷隆盛外二名上京ノ次第ハ、兼テ御届申上置候通ニテ、既ニ去ル十五日当地発程致シ、尤通行ニ付テハ先ニ各府県・各鎮台ヘ通知致置候処、於熊本県ハ未前ニ庁下焼払剰通筋川尻迄押出及砲撃候旨、追々報知有之、実ニ意外ノ次第ニ立至リ候、然ル処、彼地ヘモ去ル九日当県征討之命被仰出候哉ニ相聞得、何共奉恐入候、乍然西郷大将儀ハ先般辞表差上以来、於県下厳粛ニ謹慎致シ、且数万之士族輩自費ヲ以学校ヲ開キ、忠孝ヲ重シ諸生ヲ教導シ、第一方嚮ヲ不誤様勉テ説諭シ、既ニ佐賀ノ暴動引続キ熊本・山口同断之節、県内安静終ニ一毛ヲ不損ハ全国ニ明瞭ナル事ニ候処、何等之御嫌疑有之不容易国憲ヲ犯シ暗殺之内諭ヲ下シ候儀、実以人民一同疑惑罷在候、尤随行之者共銃器帯刀ヲ以、途中保護之儀ハ暗殺ヲ被命候程之者、無異儀上京不相遂ハ勿論之事ニテ、不得止於下官モ聞届置候、就テハ愈当県征討被仰出之上ハ、県官且

士民ニ至ルマテ御征討之御趣意被為在候哉、夫々無名ノ恥ヲ蒙ラセ候テハ、鹿児島県人民トイヘドモ皆王民ニシテ、政府ノ命令ヲ不奉者一夫モ無之候得共、何分士族挙テ動揺ニ立至リ候間、至急御勅諭被成下、尤西郷大将之趣意モ致貫徹候様、御処分被下度、此段愚誠ヲ以テ奉願候也、

明治十年　月　日　鹿児島県令大山綱良

征討惣督有栖川宮殿下

右之通相違無御座候也、

鹿児島県士族

明治十年四月十七日　大山綱良拇印

(朱)「第二十五号」

左之通相違無御座候也、

明治十年四月四日　鹿児島県士族大山綱良拇印

今般当県官員ヱ専使申付御通知ノ事件、左ニ申進候、近日当県ヨリ旧警視庁ヘ奉職ノ警部中原尚雄其外別紙人名ノ者共名ヲ帰省等ニ託シ、潜カニ帰県ノ処、彼等竊カニ国憲ヲ犯サントスルノ奸謀発覚シタルニ付、即チ御規則ニ本ツキ、其筋ヘ申付、該人名捕縛ノ上鞫問ニ及候処、図ラスモ該犯ノ口供別紙ノ通ニ有之候、就テハ右事件陸軍大将西郷隆盛・陸軍少将桐野利秋・陸軍少将篠原國幹等カ耳聞ニモ相触タルカ、右三名ヨリ今般政府ヘ尋問ノ筋有之、不日ニ当地発程致候間、御含ノ為メ、此段届出候、尤旧兵隊之者共随行多数出立致候間、人民動揺不致様、一層御保護及御依頼候也トノ書面ヲ以テ届出候ニ付、県庁ニ於テ書面ノ趣聞届ノ上朝廷ヘ御届申置候間、為御心得此段及御通知置候也、

明治十年二月十四日　鹿児島県令大山綱良

廣島県令書記官

御中

鹿児島県伊集院郷

士族正兵衛嫡子

少警部

探偵捕縛明治十年二月三日　中原尚雄

三十二年

一自分儀明治九年一月四日少警部拝命奉職罷在リ、同年十一月末方日ハ失念、大警視川路利良宅ヘ差越候処、同人ヨリ各県ノ事情等彼此ト承リ候末、鹿児島県ニ於テ、近頃種々不穏向モ有之、迚モ西郷陸軍大将在県ナ

レバ、名儀不立ニ亀怨ノ所為ハ無之トハ申ナカラモ、万一挙動ノ機ニ立至ラハ、西郷ニ対面刺違ユルヨリ外ニ仕様ハナヒヨトノ申聞ニ随ヒ居候折柄、是亦日ハ不取覚、同県士族大山勘助宅ヘ立越候処、咄ニ西郷若シ事ヲ挙ケハ刺殺ヨリ外ナキト承候ニ付、弥々前件ノ主意包蔵罷在候内、同年十二月廿四日中警部園田長照・末廣直方自分宅ヘ参リ、近々帰省願出度含ミト云フモ鹿兒島県ノ動静何分世評マチ〳〵ノ向キ申スニ付、其儀ニ於テハ自分ニモ共ニ帰省致シ度相答候処、両人共其意ニ応シ候ニ付、即日其形ニテ皆共罷帰候事、

一翌廿五日警視庁内ニテ川路利良ヘ鳥度面会ノ節、帰省ノ願書可差上候間、宜敷相頼候段申述候処、夫ハ好キ事ナリ宜敷気張呉ヘク申聞候ニ付、前書云々ノ儀モ有之、弥決心罷成候、尤モ園田長照方ヘ集会ノ盟約ニ付、午後三時頃ヨリ差越候処、平田才七・野間口兼一・猪鹿倉保・大山綱助・菅井誠美・伊丹親恒・末廣直方・山崎基明・高崎親章・安樂兼道・土持高等追々来集イタシ、孰レモ見込ノ論ヲ立、帰省ノ上ハ各郷ヨリ私学校入校ノ者ハ固ヨリ、其外ヘ名分ノ無キ師ヲ起スハ、人臣トシテ有間シキト云フ儀ヲ主張シ、入校ノ面々且ツ入校志願ノ者共ヲ引離シ度トノ事ニ決議シ候事、

一翌廿六日午後川路利良旧宅当分明キ家ノ所ニ於テ、右人数集会ヲ期シ置キ、帰省ノ願書差出候処、即刻許可相成リ、皆々参会ニ及ヒ候、其節評議ノ次第ハ、第一私学校ノ人数ニ離間ノ策ヲ用ヒ、我方ニ人数ヲ引入レ、私学校ヲ瓦解セシメ、動揺ノ機ニ投シ、西郷ヲ暗殺致シ、速カニ電報ヲ以テ東京ニ告ゲ、海陸軍併セテ攻撃ニ及ヒ、私学校ノ人数ヲ鏖ロシニイタシ候儀ヲ決定シ、電報ノ役ニハ、園田・野間口、素ヨリ肥後境ノ者故、熊本鎮台ニ駆付、是ヨリ電報ニ及ブベキ事ト、其他報知ニ於テモ悉ク暗号相定メ都テ決議ノ上、明日ノ発程ヲ究メ候、併シ同時ニ発程候テハ外見ノ畏レモ是レアリ、面々仕舞次第ト取究メ、皆共帰宿致シ候事、

一同廿七日東京発程、横濱迄差越シ一泊、翌二十八日午後第九時玄海丸ヘ乗船出帆ノ処、船中殊ノ外不宜諸所滞泊ニテ明治十年一月十一日着県、夫レナリ外出等モ致サス候得共、末廣・高崎等参リ呉候儀ハ有之、何モ前書探偵ノ件々モハカトラス、折柄暗殺ノ密謀発覚イタシ、終ニ御捕縛ニ相成、右次第此度御取調ニヨリ陸軍大将西郷隆盛ヲ、川路利良ガ命ヲ受ケ、容易ナラザル

儀ヲ差挾ミ、且ツ人心ヲ離間スルノ始末取企候次第、
今更何共奉恐入候事、
右之通相違不申上候、以上、
明治十年二月五日　　中原尚雄拇印

鹿兒島県牛山郷
士族中警部　園田長照
同出水郷
士族権中警部　野間口兼一
同平佐郷
士族権中警部　末廣直方
同喜入郷
士族少警部　安樂兼道
同加世田郷
士族少警部　土持　高

東京府
士族中警部　菅井誠美
鹿兒島県市來郷
士族権少警部　高崎親章
同県下西田
士族一等巡査　樋脇賢助
同加治木郷
士族二等巡査　伊丹親恒
同谷山郷
士族書生　平田才七
同加世田郷
士族同　大山綱介
同加世田郷
士族同

猪鹿倉　保

同平佐郷

士族同　　田中直哉

同高岡郷

士族権少警部　　山崎基明

一自分共儀、明治九年一月以来、追々警視庁中警部其他拝命奉職罷在、大山綱介・猪鹿倉保・田中直哉ハ書生ニテ親敷相交リ、然ル処、同年十一月頃ヨリ鹿兒島私学校ノ人員何欤挙動是アル世評ニ付、探偵トシテ帰省可致旨、大警視川路利良ヨリ内諭致承知折柄、大山勘助ヨリモ右事件承候ニ付、同年十二月廿五日中原尚雄初メ外十四名集会シ、孰レモ見込ノ議論ヲ立テ、私学校入校ノ者ハ素ヨリ其外入校有志ノ面々ヘ離間ノ策ヲ廻シ、人心ヲ引放シ度決議候事、

一翌二十六日午後、川路旧宅明家ニ於テ、亦集合ヲ期シ、帰省ノ願書差出候処、即刻許可相成リ、皆々参会ニ及ビ候、其節ノ評議ニ第一私学校ノ人員ニ離間ノ策ヲ用ヒ、我方ニ人数ヲ引入レ、私学校ヲ瓦解セシメ、動揺ノ機ニ投ジ、西郷ヲ暗殺シ、速カニ電報ヲ以テ東京ニ告ゲ、海陸軍併テ攻撃シ、私学校ノ人数ヲ鑒ロシニ致シ候儀ヲ決定シ、電報ノ役ニハ、園田・野間口素ヨリ肥後境ノ者故熊本鎮台ニ駆付、是ヨリ電報ニ及フヘキト、其他報知ニ於テモ悉ク暗号相定メ、都テ決議ノ上明日ノ発程ヲ相究メ、尤モ同時ニ出立候テハ、外見ノ畏レモ是アリ、面々仕舞次第ト取究メ皆共帰宿致候事、

一同二十七日ヨリ翌二十八日迄ニ東京発程、明治十年一月中旬ニ至リ、孰レモ鹿兒島着、前件探偵等モハカトラサル内、密謀発覚イタシ、終ニ御捕縛ニ相成、右ノ次第、川路利良カ命ヲ受ケ、容易ナラザル儀取企候始末、今更何共奉恐入候事、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年二月七日

園田長照

野間口兼一

末廣直方

安樂兼道

土持　高

菅井誠美

高崎親章

樋脇賢助
伊丹親恒
平田才七
大山綱介
猪鹿倉　保
田中直哉
山崎基明
各拇印

鹿兒島県加治木郷
士族四等巡査
前田素志
同帖佐郷
士族四等巡査
高橋爲清
同平佐郷
士族書生
柏田盛文
同蒲生郷
士族四等巡査
松下兼清
同加世田郷
士族二等巡査
西　彦四郎

一自分共儀、明治九年九月以来、追々警視庁へ奉職罷在候処、同年十二月警部末廣直方始メ、其他鹿兒島私学校ノ者共容易ナラサル形勢ニ因リ、探偵方トシテ帰省ノ段粗々承リ、同ク探偵方トシテ帰省致度存ジ、同月二十六日、川路利良ノ内命ヲ受ケ、同県士族大山勘助へ帰省ノ願書差出候処、即刻許可相成リ、探索等精々心ヲ用ヒ、且ツ私学校人員入学志願ノ者離間イタシ候様、其他ノ儀共ハ末弘等ノ指令ニ従フヘキ旨承知致シ、尤モ集会等ニ一切関係不致候事、

一同日ヨリ翌二十八日迄銘々発程、明治十年一月中旬ニ至リ鹿兒島へ着シ、前件探偵等モ不相叶内、密謀発覚シ、終ニ御捕縛ニ逢候事、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年二月七日

前田素志
高橋爲清
柏田盛文

松下鮏清
西　彦四郎
各々拇印

鹿児島県第一大区
二小区十番地居住
士族野村好醉嫡子
野村　綱

一自分儀旧宮崎県廃合ノ末、宮崎学校処分ノ事モ有之、旧学校弟子九名方向取定メノ為メ、明治九年十二月五日方同伴当地出発、同廿八日着京、其時分紛々鹿児島動揺ノ風聞有之、国家ノ為メ都合ノ儀ト思込ミ、同卅一日大久保卿ヘ鹿児島表ノ説路頭ニ紛々ト有之、自ラ上等社会ニ於テハ、確実御熟知ノ御事トハ乍存、路頭ノ説ノ様有之候テハ、甚タ不都合ノ始末故、私儀モ委シクハ不存候得共、御聞被成度候ハ、可致出頭トノ趣、郵便ヲ以申遣候処、十年一月三日参リ呉候様申来リ罷越候処、前書ノ始末如何ト被相尋候ニ付、成程一時ハ壮士輩競ヒ立候得共、十一月下旬方ヨリ静定ノ向ニテ、自分出立ノ砌ハ穏ニ候、若シ路頭ノ説ニテ、政府処分ヲ誤ル事有之候てハ、実ニ為国家不容易次第ニ有之候旨申演候処、此末ハ如何成リ立ツヘキヤ、如何カ処分然ルヘキヤト被申候ニ付、之ハ私共ノ見ニ及間敷相答候処、先ツ鹿児島私学校ハ一体政府ノ為メニ一大腫物ノ如シ、仍テ我輩ノ工夫ニハ盛大ナル学校ヲ設立シ、少年輩ヲシテ学問ノ方向ヲ定メシメ、同校人数ヲ離間シ、諸郷ニモ同様着手イタシ、漸次腫物ヲ小クスルニ如スト承リ候事、

一同二十九日申来候ニ付罷越候処、三十一日ノ飛脚船ヨリ出立候様、尤鹿児島ノ人気ハ起リサメ仕易キ国柄故、兎角二三月頃カ懸念ニ被思、且ツ陸軍省ヨリ弾薬等取寄候手都合モ有之、通例ノ事ナラ郵便又ハ電信ヨリ被申越度、而シテ動揺甚敷時分ハ、乍御苦労、直ニ駆付ケ呉レ度、其節ハ郵便ハ止リ、電信ハ切ル、ニ違ヒハナシ、其上陸軍等ノ用意ハ成程非常ニ備ルト云モノノ、確タル報ナラテハ人民ノ騒キニモ相成ル事故、其節ハ直ニ馳付ケ呉候様、殊ニ警視庁ヨリモ探索差出シ有之候、皆必死ノ格護ニテ先キ達テ出立セリ、暴発等ノ節ハ自ラ大小為ス所アルヘシト、懇々被申演候ニ付、其意ハ畢竟主任ノ人ヲ斃スカ又ハ火薬庫ヘ火差入ル等ノ

事ニテ随分仕果スヘクト汲受ケ、左様ノ事ナラ承知仕候旨相対ヘ候処、金百円報知ノ路費トシテ被差出候ニ付受納イタシ、而シテ此度貴公ノ事ハ誰モ知ラヌコト故、其段ハ深ク可差含、尤先達テ差出候探索人名ハ是ナリ、為心得トテ半切紙ニ書キタル人名ヲ出サレタリ、一見スルニ、何等警部或ハ何等巡査、成ハ書生ノ片書ト郷名有之候、其書面ハ警視庁ヨリ廻リ来リタルモノニテ候事、

一同年一月三十一日東京出立、神戸ヨリ迎陽丸ニ乗組ミ帰県候処、中原尚雄等警視庁ヨリ内喩ノ次第発覚イタシ、御捕縛相成候段承リ、自分ニ於テモ前書承知イタシ候件々、彼等右次第ニ付テハ今更着手ノ道無之、大書記官田畑常秋ヘ大略申出、深重ノ処ハ包蔵イタシ居候処、再ヒ御喚出相成リ、第一分署ヘ差廻サレ、猶御取調ノ末前件形行申立候事、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年二月十三日　　野村　綱拇印

先般中原尚雄外廿一名拇印ノ儀ハ二月九日高尾丸ヨリ、林内務少輔出県ノ当日迄ハ未拇印不致儀ト心覚ヘ罷在候、

鹿兒島県士族

明治十年四月五日　　大山綱良拇印

中原尚雄外廿一名手帳証拠物ノ儀、二月十六日西郷隆盛ヨリ仁禮景通ヲ以持セ差出候内、書類ノ内見認候取覚左ニ、

第一暗号ノ事、

一何々トハ　政府之事失念
一何々トハ　三條殿ノ事同
一何々トハ　岩倉殿ノ事同
一西ノ窪トハ　大久保ノ事
一川崎屋トハ　川路ノ事
一何々トハ　陸軍ノ事失念
一何々トハ　海軍ノ事同
一何々トハ　電信ノ事同
一坊主トハ　西郷ノ事
一鰹節トハ　桐野ノ事
一花手拭トハ　別府ノ事
一一向宗トハ　私学校ノ事
一暴動トハ　地租改正最中ノ事

一黒砂糖トハ　　久光ノ事
一首長トハ　　県令ノ事
一加世田郷ノ者ヘ差遣シ候書面ノ内ヘ、一昨年鶴ケ岡県ニテ、森藤右衛門県庁相手ニ民事訴訟ヲ以、終ニ参事始被罪候次第ヲ以、右之郷ノ内、三四ケ村ヨリ裁判所ヘ訴ヘ候得ハ、県令始被罪候趣見覚ヘ候得共、姓名等ハ全失念仕候、
一平佐郷士族田中直哉ヨリ東京ヘ差送候書状ト相見ヘ候内、初中後ハ全取覚ヘ無御座候得共、其中ニ不日鹿城ヲ破テ、而後俱ニ肩ヲ併ヘ、真ノ愉快ヲ尽シ候ト有之ヲ見覚ヘ居申候、
但三人連名ニテ名字而已認メ有之候ヘドモ、名字モ慥ニ覚ヘ無御座候、

鹿児島県士族　　大山綱良

明治十年四月六日

右三ケ条ハ犯罪人ノ証拠物ト看据候儀ニ無御座候、外ニ西郷隆盛ヨリ差遣候書類ノ内見認候物無御座候、
右之外ニ中原尚雄外廿一名犯罪ノ書類見認無御座候也、

鹿児島県士族　　大山綱良拇印

明治十年四月六日

鹿児島県人民ヨリ賊徒ヘ用立候金穀調

（表紙）

鹿児島県雑録

鹿児島県人民ヨリ賊徒ヘ用立候金穀調

昨十年県下逆徒蜂起ノ始終、西郷等ノ為メ人民ヨリ用立候金穀大数取調之儀ニ付、本年二月廿五日付ヲ以テ依頼ニ相成、則取調候処、別冊之通調整ニ付及御送付候条、御受領有之度、此段申進候也、

鹿児島県令岩村通俊代理

明治十一年十二月廿九日　鹿児島県大書記官渡邊千秋

修史館監事　三浦安殿

（中表紙）

鹿兒島県人民ヨリ賊徒ヘ
用立候金穀調

第一大区一小区
「一(朱)金六百弐拾八円九拾七銭壱厘」
仝　弐小区
「一(朱)金三百三拾弐円拾銭」
仝　四小区
「一(朱)金三百五拾弐円拾弐銭四厘」
仝　拾五小区
「一(朱)金弐百八拾壱円九拾八銭」
第三大区一小区
「一(朱)金四百八拾三円九拾九銭九厘」
仝　弐小区
「一(朱)金九拾三円九拾五銭」
仝　三小区
「一(朱)金三拾三円弐拾三銭五厘五毛」
仝　四小区
「一(朱)金千五百五拾七円四拾三銭五厘」
仝　五小区
「一(朱)金四百八拾六円八拾七銭弐厘」
仝　六小区
「一(朱)金五百拾四円弐拾銭〇弐厘七毛」
仝　七小区
「一(朱)金九円三拾壱銭」
仝　八小区
「一(朱)金百拾壱円拾九銭八厘」
仝　九小区
「一(朱)金拾八円六拾七銭四厘」
仝　十小区
「一(朱)金拾円〇九拾六銭八厘」
仝　十壱小区
「一(朱)金拾弐円八拾七銭三厘」
仝　十二小区
「一(朱)金弐拾六円四拾銭」
仝　十三小区
「一(朱)金六拾三円八拾壱銭三厘」
仝　十四小区

「一(朱)金五拾五円九拾四銭弐厘」
仝　十五小区
「一(朱)金六拾七円四拾八銭」

「惣(朱)計五千百四拾円八拾四銭七厘弐毛」

鹿兒島県第一大区一小区

一米六石七斗弐升　百三拾壱番地士族　島津壬生
一全四石八斗　百三拾七番地士族　諏訪八郎次
一全壱石八合　百六拾壱番地士族　永山源兵衛
一全壱石　百六拾二番地士族　松本利中
一全壱石　百九拾番地士族　名越屋庄兵衛
一全壱石　仝　士族　名越屋正助
一全壱石　三拾五番地士族　橋口ヒサ

第一大区二小区

一米三斗入壱俵　第三大区四小区　五拾六番地士族　川上久鐘(ママ)
一全四石　第三大区五小区　三拾七番地士族　坂元勇吉
一全四石八斗　第三大区六小区　拾七番地士族　速水兼彦
一全五石　三百三拾番地士族　高碕八次郎
一全拾俵　第三大区拾弐小区　四拾壱番地平民　竹内助左衛門
一全三拾壱俵代価九拾三円　第三大区壱小区　百四拾一番地士族　郷田仲兵衛
一全弐石四斗四合

第三大区二小区

三拾九番地士族　　龜津清太郎
一米壱斗
六拾四番地士族　　邑上豐彦
一仝三斗
六拾五番地士族　　鵜木仲右衛門
一仝九斗

第一大区四小区

弐百九拾番地　　中島良慶
一仝三拾三石三斗壱升壱勺

合計七拾四石九斗四升

鹿兒島県第一大区一小区

八拾三番地平民　　東尾ヨネ
一錫徳利三本
八拾四番地士族　　有川熊次郎
一錫茶壺徳利取交セ弐拾出ス
八拾五番地士族　　山下宇兵衛
一刀三本（但シ戸長ヘ渡ス）
九拾番地平民　　岩本吉藏
一船一艘（人夫人員シレス）

仝県第一大区拾五小区

四番地平民　　俣野熊太郎
一味噌五斤
仝番地平民　　倉本直右衛門
一鰹節一本　錫目方一斤
仝番地士族　　山本善之助
一梅干二斤　大根漬二十本
五番地平民　　入江藤次郎
一水桶二ツ
七番地平民　　福岡喜兵衛
一錫取交セ（目方五斤）
弐拾弐番地平民　　宇野喜兵衛
一錫目方二斤・太刀一腰
弐拾六番地平民　　大迫貞次郎
一梅干五斤　錫三斤
仝番地平民　　永吉利吉
一錫一斤半
三拾番地平民　　深江熊次郎
一錫一斤

三拾一番地平民
一梅干三斤 鉛三斤 錫三斤　鳥丸文吉
弐拾六番地平民　鳥濱八郎司
一錫三斤
仝　仝
一仝三斤　張　清右衛門
四拾番地士族　池田藤藏
一玉子十
四拾六番地士族　野元嘉左衛門
一梅干一重
六拾弐番地平民　堀ノ内嘉右衛門
一味噌一斤 砂糖半斤
八拾四番地平民　池田直左衛門
一大根漬一俵
七拾九番地平民　山口善助
一仝
八拾五番地平民　村田伊右衛門
一鉛瓶一ツ
仝番地平民　吉川信左衛門
一味噌五斤 梅干重一ツ

仝番地平民　酒匂チヨ
一大根漬五十本 鉛三斤
百拾一番地平民　安藤松太郎
一玉子十 味噌一斤
百三拾一番地平民　山下福太郎
一玉子百
百八拾八番地平民　江口新兵衛
一仝
百四拾四番地平民　馬場助二郎
一昆布五拾斤 味噌壱斤
百六拾番地平民　竹ノ内正兵衛
一弾薬箱製造 手間料無之
第三大区三小区
九拾番地平民　原口直八
一鉛百目
九拾五番地平民　西元萬次郎
一鉛壱斤
百拾七番地平民　若松仙太郎
一梅干一斗
百三拾番地平民

一鉛玉四ツ・刀一本　重野藤助
百三拾四番地平民
一錫瓶一ツ ヤカン一ツ　中馬善次郎
第三大区四小区
弐拾六番地士族
一鉛三斤　川上芳明
百三拾番地士族
一鉛弐百四十目　吉井乗藏
第三大区六小区
四十八番地士族
一ピストル一挺　田中豐助
第三大区八小区
士族
一焼酎ツフロ一ツ　山下作右衛門
第三大区十二小区
六拾七番地平民
一焼酎弐樽代 拾四円八拾銭　奥　辰次郎
第三大区拾小区
四拾一番地士族
一焼酎一樽　山下佐右衛門

第三大区拾五小区
四拾三番地平民
一太刀壱本　勝目金右衛門
仝
一唐金鍋一ツ　右同人
四拾五番地平民
一麻糸千　神宮司武右衛門

惣計錫鉛取交三拾三斤外ニ器弐拾五

（中表紙）
明治十一年九月廿六日
金穀合計高写

第一大区壱小区
一金千零五拾八円拾四銭

雑品
一錫　三斤
一唐銅二升焚半鍋（鍋カ）　二
一同鍋大小　五

一唐銅花建　一ツ
一同手洗　一ツ
一錫　百六十目
一五盃入　一ツ
一同燗鍋　二ツ
一毛布　八十枚
一晒木綿　三百反
一同金巾　三拾本
一鉛四百二十五斤　同　四百目
一浪ノ花　百八十目
一刀　拾本
一寒漬大根　六十本
一梅干　六升
一唐紙　三束
一奉書紙半紙共　代価　金三拾四円五拾銭
一味噌　壱斤

同二小区

一金弐百六拾弐円五拾壱銭

雑品

一鉛　七斤

一毛布　本部　壱枚
一草鞋　五拾足
一葛岡半切　百五拾帖
一半紙　弐百九拾帖
一アルコール　拾壱瓶
一味噌　五斤
一魚類　若干

同三小区

一金百八拾円六拾六銭弐厘

雑品

一鉛　壱斤

同拾壱小区

一金弐千二百三拾壱円四拾二銭五厘

雑品

一銅板　壱貫七百九拾四目
一錫　五拾貫六百六拾目　八拾壱斤
一同瓶　拾弐
一鉛　拾八斤五合匁(ママ)
一花氈　弐枚
一白木綿　弐百三拾弐反

一油紙　四枚
一毛布　九枚
一酒　壱石八斗
一焼酎　弐拾五石六斗
一刀　弐本
一納豆味噌　三斤
一提灯　百〇壱張
一蠟燭　拾斤ト弐本
一鰹節　三本
一昆布　四十二斤
一浪ノ花　百七拾目

同十二小区

一金三百七拾九円四拾銭

雑品

一毛布　本部　弐枚
一錫鉛取交セ　弐貫六百八拾八目
一梅干　壱樽
一味噌　四拾八斤半

同十三小区

一金六百弐拾円〇六銭

雑品

一錫　四拾八斤
一鉛　弐百〇三貫三百目　百弐拾斤
一銅　六斤
一刀　六本
一馬乗提灯　弐張
一毛布　本部　弐枚
一毛布　半部　弐枚
一唐紙　壱万弐千枚程
一味噌　五斤半
一梅干　八升ト少々
一大根漬　三拾本

同十四小区

一金五百六拾弐円〇八銭七厘五毛

雑品

一白米壱石九斗二升
一錫鉛取交セ　拾六斤
一鰹節　八本
一毛布　本部　三枚
一刀　五本

一鉛　六百目
一蠟燭　半斤
一味噌　八斤
一梅干　壱樽
一白砂糖
一胡麻味噌　代価金弐拾銭程

第八十七大区
櫻島郷

一金弐百八拾円零四拾四銭四厘
一銭七千四百七拾六貫文

第四大区三小区

一金六拾三円四拾九銭壱厘五毛

第四大区二小区

一金三拾九円九拾弐銭

第二大区壱小区

一金五百〇九円八拾銭〇五厘
一米弐石七斗六升壱合
一銅五貫目
一錫十三斤ト九百目
一鉛　弐拾弐斤半

一鋳鉄地金　代価金弐百円程
一錫鉛取交セ　拾壱斤
一錫茶瓶　弐ツ
一同花瓶　壱器
一同瓶　三ツ
一同酒鍋　弐ツ
一毛布　本部　二枚
一蠟燭　三千斤
一浪ノ花　五百四拾七目
一梅干　壱升
一味噌　代価拾銭程

第二大区二小区

一金四百八拾九円八十四銭五厘
一米拾石〇〇五升
一同三斗三升六合入　三俵
一同三斗入　弐拾俵
一同三石弐斗

右三行手形ニテ出ス

一毛布　壱枚

第二大区十小区

一金千四百三拾六円拾五銭九厘
一胡麻味噌樽　壱ツ
一銅〇八斤半　〇弐百五十目
一錫　壱貫百五十目
一鉛　壱貫二百五十目七合五勺
一錫瓶　十三
一同燗鍋　壱ツ
一錫茶碗　三ツ
一鉛ウダ　三ツ
一毛布　本部　壱枚
一燗鍋　二ツ
一味噌　壱斤ト壱銭程
一大根漬　二十斤
一胡麻味噌　十三斤ト少々宛出スモノ二戸

第二大区拾壱小区

一金五百三拾円〇八拾三銭弐厘
一白米　二斗
一錫　〇五拾五斤〇七百目
一同鍋　二ツ
一同瓶　壱ツ
一鉛　十八斤
一燗鍋　四ツ
一提灯　弐張
一毛布　七枚
一酒瓶　四ツ
一味噌　四拾六斤
一梅干　〇二重〇中樽壱挺〇壱斗弐升
一大根　十把ト十本
一同漬物　六樽半
一布団　九拾四枚
一玉川晒　百二十反

第二大区十二小区

一金六百四拾壱円三拾五銭
一錫　四拾二斤
一鉛　七拾七斤
一錫鍋　五ツ
一同水碗　壱ツ
一同二人弁当　壱ツ
一同瓶　弐ツ
一梅干　弐升

一砂糖漬ラツキョヤウ　百斤
一シカン鍋鉄　壱ツ
一毛布　本部　二枚
一錫壺　二番形　壱ツ
一提灯　壱張
一沢庵漬　五斤
一味噌　二十三斤
一胡麻味噌　少々宛差出スモノ拾戸

第二大十三(区脱カ)小区内十小区少シク交ル

一金百四拾円六拾七銭七厘
一銅　千斤
一錫　六拾九斤
一鉛　二百五十目
一毛布　本部　壱枚
一本込銃玉　二拾五発

第一大区五小区ヨリ拾小区ニ至ル

一金八百〇四円四拾四銭壱厘
一米三石四斗九升

第二大区三・六・七小区

一金三百十三円五十七銭八厘
一米三石〇四升七合五勺

第四大区壱小区

惣計

一金七百七拾四円拾九銭四厘也
一米六拾五石〇〇四合五勺
一銅百五拾五目〇三斤
一錫三貫三百七十目〇三十五斤二合五勺
一鉛二百弐拾三目〇百拾四斤三合五勺
一鉛錫取交　二十壱斤二合五勺
一遠鏡　壱箇
一茶椀　九拾箇
一松薪　三百五拾束
一付揚　三丼
一炭　三拾四俵
一烟草　三巻
一白砂糖　壱斤
一蚊帳　七拾五張
一叺　二千〇五拾五俵
一釘　四本
一毛布　七枚

一針金　三百五拾目
一薬品　十瓶外ニ品々
一豆腐　弐拾壱箱半
一地昆布　九拾斤七合五勺
一醤油　三拾四盃三合五勺
一味噌　四百三拾八斤
一酢　壱盃
一漬物　〇三千〇二十一本〇弐斤半
一大根　〇百七十四斤　〇百六拾八本
一広袖　壱枚
一筆　七拾七本
一墨　六挺
一小奉書紙　三十枚
一乗鞍　三組
一美濃紙　二拾五枚
一銅板　三枚
一木綿カセ　百八拾五目
一刀　三本
一木口　四十三本
一チャン　壱斤

一草鞋　十五足
一魚類　四拾五箇
一杓　五本
一焼酎　二百七拾八盃
一モヤシ　拾弐樽
一紙　〇拾三束三帖　〇五拾枚
一油　七盃半
一笠　三拾壱蓋
一チョカ　二箇
一苫　八枚
一蒲団　三枚
一昆布煮染　四盃
一莚　三拾三枚
一薪　百七拾五把
一塩　壱升壱合
一明俵　千百二十二
一糖　八升
一木綿々入　壱枚

第四大区四小区
金弐拾八円八拾六銭七厘

第二大区四小区

一金五百拾六円三銭弐厘
一米壱石九斗五升
一草鞋　三拾足

同大区五小区

一金五拾円五十五銭壱厘
一草鞋　千四百九拾壱足

同大区八小区

一金弐百弐拾壱円九銭三厘
一草鞋　千六百弐拾足
一藁縄　五百六拾七束
一草鞋　弐千四拾六足
一ミニヘール　三挺
一刀　壱本
一弾薬　百九十発
一草鞋　二千四拾六足
一同　五足
一鉛　八拾目

第二大区九小区

一金弐拾壱円九拾五銭五厘
一草鞋　四千六百五十足

第四大区五小区

一金六円三拾銭
一同拾壱円四拾六銭四厘

西警察署所轄内

惣計金高

一金壱万二千百七十五円廿八銭三厘

米穀雑品高略ス

人民ヨリ賊徒ェ用達シ米金取調

第五大区小一二三四五区川邊郷

一金千八拾壱円六拾壱銭弐毛

平山村　野間村
古殿村　清水村
神殿村　野崎村
西添村（西脱カ）　今田村
小野村　宮村
高田村　永田村
田部村（田脱カ）

第六大区小一二三四五六七区加世田郷

一金一万三千〇九十四円五十壱銭八厘三毛

大碕村　小松原村
武田村　大浦村
小港村　益山村
村原村　津貫村
唐仁原村　内山田村
宮原村　川畑村
越路村　野町
加世田麓　片浦村
赤生木村

第七大区小一二三区阿多郷

一金四拾四円七銭弐厘四毛

宮碕村　花瀬村
中津野村　浦ノ名村
新山村

第九大区小一区伊作郷

一金百円

野町

一白米五斗

右之通リ取調候也、

第一方面加世田警視署長
二等警部林勝利

十一年四月四日

記

一〇四千八百九円三拾八銭二(厘)リ九毛

内三千八百四拾五円三拾五銭七厘

但戸長役所資本之内差出金

九百六拾四円二銭五厘九毛

但人民ヨリ差出金

右賊軍ヱ差出候金高右之通ニテ、外ニ戸長役所ヨリ借入金郷内ニ申出置候通リ也、

鹿児島県下第拾九大区
鹿籠邨

一金二千九拾壱円六拾五銭

右ハ客年県下騒擾之際賊ノ為脅迫セラレ、人民ヨリ差出相成候金員右之通ニテ、穀類差出候儀無之候也、

一金六百七拾円八拾銭

内七拾円八拾銭

但シ戸長所ニテ人民ヨリ借入候分

但脅迫出金之分

一金四百五拾五円四拾銭程

内四百拾七円六拾銭程

但戸長所共有金ヨリ差出候分

内三拾七円八拾八銭程

但脅迫セラレ人民ヨリ出金之分

一米穀ナシ

右昨十年当県下騒擾之際、人民ヨリ賊徒ヘ用立候金員数

此段申出候也、

勝目派出所詰

十一年四月十四日

記

一惣金千百三拾四円八十四銭弐厘

内

一金百拾五円

但当郷士族共有金之分

一旧貨幣百二両二歩

当相場ニ直シ弐百五拾円程

但右二株脅迫ニヨリ人民ヨリ為差出候分

一現米六百九拾弐俵ト五升三合五勺五才

但当郷御蔵ニ有之官米之分

右之通ニ候也、

十一年四月十二日　　知覽郷

坊泊村

一金九百五拾壱円五拾七銭六厘

内

百六拾四円弐拾三銭六厘

内（但シ去十年四月中県庁ヨリ民費課出被達、人民ヨリ取立、同庁差出候金）

七百八拾七円三拾四銭

但戸長所ヨリ人民ヘ借入レタル分

有志并脅迫出金ナシ

官金

官私米穀ナシ

久志村

一金千八百拾三円五銭七厘三毛

内
三百弐拾壱円弐拾銭七リ三毛(厘)
但去十年四月中県庁ヨリ民費課被達、人民ヨリ
取立同庁ェ差出候金
内
七百六拾弐円六拾五銭
但戸長所ヨリ人民ヘ借入レタル分
官金并有志脅迫出金ナシ
一米九拾六石六斗
但シ官

第拾大区永吉郷
一金千七百三拾弐円
内三拾円四拾銭横川本営ヘ差出ス
右郷用金
一同千三百三拾円ト弐拾四銭
内五拾壱円五拾九銭第六課ヘ差出ス
右人民共ヨリ用立金
右弐行出兵人員及夫卒共ヘ配当、

第拾壱大区吉利郷
一金千百拾円ト八拾七銭三厘
内三拾四円三銭壱厘第六課ェ差出ス
右郷用金
一金七百五拾八円三拾九銭五厘五毛
内三拾五円弐拾三銭七厘八毛横川本営ヘ差出ス
右人民共ヨリ用立金
右弐行出兵人員及夫卒共ヘ配当、

第十弐大区日置郷
一金千〇〇九円
右郷用金
一金千七百四拾九円九拾五銭五毛
内九拾円六拾銭横川本営ヘ差出ス
右弐行出兵人員及ヒ夫卒共ヘ配当、

先般騒擾ニ付出銭調書　伊集郷(院脱カ)
一金千弐百五拾円
右ハ昨十年二月十五日ヨリ追々後立ノ出兵人員ヘ旅金
トシテ旧戸長役所ヨリ当町中ヘ取替相成、右ノ通相渡

申候、且返金之儀ハ学校支配ノ廃寺地所務米ヲ以返金致シ引結仕賦ニテ取替相成申候、

一金六拾七円四拾壱銭九厘七毛

右ハ課出志金トシテ第六課ヨリ脅迫ニテ、士族并ニ平民ヨリ出銅致シ、十年四月廿日第六課へ差出申候、

一金弐百五拾円

右ハ横川本営有川宗八当郷エ巡回、脅迫ニテ士族・平民ヨリ出銅イタシ、十年五月卅日・同六月一日・同三日、三度ニ右之通阿久根副戸長松下八兵衛方へ差出申候、

一金弐百七拾九円九拾三銭七毛八糸

右ハ勇義隊ヨリ脅迫ニテ、士族ヨリ旧戸長役所エ差出、十年五月廿九日右隊へ差遣申候、

一金三拾四円三拾五銭弐厘六毛三糸

白木綿八拾六反代

但病院入用之由

右ハ市來湊人ノ由、中原藤八外壱名ヨリ脅迫ニテ、旧戸長役所ヨリ町役へ申達、町ヨリ為差出右両名へ相渡申候、

一金五百七拾五円弐拾七銭

右ハ鹿児島第六課出張永田猶八ヨリ脅迫セラレ、伊集院小学校資本金ヨリ取替差出申候、

一金三百六拾円八拾銭

右ハ奈良原喜格并有川勘助・中村勇吉ヨリ脅迫セラレ、右同小学校資本金ヨリ取替差出申候、

合金弐千八百拾七円七拾七銭三厘壱毛壱糸

外ニ

金拾円

右ハ此節国難ニ付出兵軍用金トシテ

但木脇次郎ヨリ

右ノ通御座候也、

第廿二大区伊集院郷

戸

十一年三月　西郷孫太郎

壱小区川田村平民中

一金拾九円四拾七銭四厘

内金拾四円

但学校積金ヨリ返金相成居候

差引金五円四拾七銭四厘
但返金無之候
二小区東俣村平民中
一金五拾弐円三拾八銭九厘
内金四拾四円七拾七銭七厘
但同断
差引金七円六拾壱銭弐厘
但同断
三小区厚地村平民中
一金四拾三円弐拾三銭六厘
内三拾壱円七銭三厘
但同断
差引金拾弐円拾六銭三厘
但同断
四小区油須木村平民中
一金弐円六拾三銭弐厘
但返金無之
五小区郡山村平民中
一金六拾弐円弐拾八銭四厘
但学校積金ヨリ渾テ返金致候
六小区西俣村平民中
一金八円弐拾四銭六厘
内弐円六拾三銭弐厘
但同断
差引金五円六拾壱銭四厘
但返金無之候
五小区郡山村士族中
一金拾壱円弐拾六銭五厘
但返金無之候
六小区西俣村右同断
一金九拾七銭弐厘
但同断
一小区川田村右同断
一金壱円弐拾九銭七厘
但同断
三小区東俣村右同断
一金弐拾壱銭三厘
但同断
四小区油須木村右同断
一金四拾七銭九厘

但同断

一錫ツブロ九ツ　一小区川田村
一同　十一　二小区東俣村
一同　十三　三小区厚地村
一同　四ツ　四小区油須木村
一同　三十三　五小区郡山村
一同　九ツ　六小区西俣村
合七拾九
一総錘　弐ツ　二小区東俣村
合斤ニシテ三百拾五斤

右ハ明治十年丑五月廿四日賊徒大小荷駄熊本県人吉詰方へ差出相成候処、代金三拾四円拾壱銭払相成候事、

一鋼三斤七合五勺

右五小区士族河野勇右衛門ヨリ賊徒製作所へ差出候事、

右ハ昨十年兵乱ニ付、賊徒ノ方へ差出候金其他取調方被仰達、取調申候処、右之通御座候、此段申上候也、

郡山郷副戸長
河野萬左衛門
右同戸長

十一年三月卅一日　木場甚之丞

市來郷
大里村士族
一金五拾弐円　中村繁藏
同村平民
一同五円　三原新藏
湊町平民
一同三拾壱円五拾銭　久保善次郎
仝平民
一同八円五拾七銭三厘　石原友介
仝平民
一同四円六拾八銭九厘　若松惠右衛門
仝平民
一同四拾七円五拾八銭二厘　若松平右衛門
仝平民
一同拾八円拾七銭四厘　平川市郎左衛門
仝平民
一同六円六拾八銭九厘　大迫乙次郎
仝平民

一同四円　全平民　平川太助
一同八円　全平民　福田喜左衛門
一同五拾五円　全平民　若松卯右衛門
一同五円　全平民　西橋藤藏
一金五拾弐円五拾銭　全平民　若松吉兵衛
一同七拾五円五拾銭　全平民　平川精兵衛
一同五円　全平民　若松喜左衛門
一同八円　全平民　平川太次兵衛
一同百四拾七円　全平民　海江田平右衛門
一同百四拾九円　全平民　若松彌右衛門

一同四拾円五拾銭　全平民　江夏源次郎
一金三円　全平民　濱田權兵衛
一同七拾壱円六拾銭五厘　全平民　平川藤吉
一味噌弐拾五斤　全平民
一同三拾弐円六拾七銭　江夏庄左衛門
一味噌三拾三斤　全平民
一同百弐拾三円四拾四銭九厘　濱田傳兵衛
一味噌七拾四斤
一麦七升　全平民
一金四拾八円九拾七銭四厘　若松與兵衛
一同四拾八円九拾七銭四厘　全平民　江夏善兵衛
一同四拾円三銭七厘　平川利平次

一味噌七拾六斤四匁　湊町平民　林　平右衛門
一同三拾三円　仝平民　林　勇吉
一同弐拾弐円　仝平民　林　善太郎
一同五円　大里村平民　福苗次兵衛
一同弐円　仝平民　野崎折右衛門
一金五円　仝平民　薗頭藤右衛門
一同三円　仝平民　赤崎嘉平次
一同三円　市來郷士族　重信喜兵衛
一金弐円五十銭　仝平民　奥　彌助
一同五円三拾銭　仝士族

一同六円　仝士族　國分元省
一金六円　仝士族　國分仙藏
一同五円　仝士族　黒川次郎右衛門
一同弐円　黒川清包
一真米七斗弐升　仝平民　奥　武兵衛
一同五円　湊町平民　久木元吉兵衛
一同百三拾四円四十銭　仝平民　垣内喜平次
一金六円五拾弐銭五厘　仝平民　福田仁右衛門
一金三拾壱円五拾銭　仝平民　末吉彦右衛門
一同六拾壱円　仝平民　若松吉左衛門
一同百四拾円弐拾弐銭五厘

全平民
一同五拾弐円五拾銭　石神次郎兵衛
全平民
一同四十八円九拾七銭四厘　石神奉左衛門
全平民
一同弐拾円　江夏仁右衛門
〃
千六百九拾六円三拾四銭
合　味噌弐百三拾九斤四勺
米七斗弐升
麦七升

串木野郷
一金壱円四拾五銭五厘　町惣人員ヨリ
右同十八小区
一同壱円拾六銭五厘　惣人員ヨリ
右同下名
一同八円四拾三銭四厘　惣人員ヨリ
右同島平浦
一同八円三拾弐銭五厘　惣人員ヨリ

右同濱浦
一同拾五円三拾八銭八厘　惣人員ヨリ
右同上名村
一同三円七拾壱銭三厘　惣人員ヨリ
右同羽島浦
一金四円七拾銭九厘　惣人員ヨリ
一同拾弐円三十銭　右同芹野金山鉱夫中ヨリ
一金五拾円　士族　長　平八郎
合　金百五円四拾八銭九厘
穀ナシ

昨明治十年騒擾之際村民ヨリ賊徒ヘ用立金其他物品左之通
一金拾弐円六拾三銭二厘
右國分郷小田村ヨリ賊徒ヘ用立金
一同四円
右國分郷野久美田村ヨリ同
一同六円
右國分郷下井村ヨリ同

一同二円
右國分郷眞孝村(隼人町)ヨリ同
一同八円
右國分郷見次村(隼人町)ヨリ同
一燒酎ツブロー　七ツ
一投網岩　五ツ分
一百姓躍鐘　四ツ
右國分郷小濱村ヨリ賊徒差出品
一金拾五円
右國分郷福島村ヨリ同
一同三円九拾錢
右國分郷住吉村ヨリ同
一同七円九拾五錢
右國分郷内村ヨリ同
一同七円弐拾六錢三厘
右國分郷上小川村ヨリ同
一同八円
右國分郷上井村ヨリ同
一同六円六拾錢六厘
右國分郷向金村(向花)ヨリ同

一同弐円五拾錢
右國分郷内山田村ヨリ同
一同三円拾六錢壱厘
右國分郷府中村ヨリ同
一同七円
右國分郷野口村ヨリ同
一同八円七拾五錢
右國分郷新町村ヨリ同
第六十四大区壱小区踊郷
宿窪田村九番地士族
一金二拾五円　池田七郎右衛門
同九十六番地士族
一金三十五円　松下佐次右衛門
同五番地士族
一金拾九円　永田與右衛門
同小三区万膳村
百廿七番地士族
一金三十八円十錢　木佐貫善助
同十七番地士族
一金二十二円　山下十藏

一金四円　同百五番地士族　重信佐太郎
一金四拾五円　同六小区持松村　五拾番地士族　池上矢太郎
一金五円　同三十五番地士族　木佐貫彦右衛門
一金五円　同廿八番地士族　平山藤五左衛門
一金五円　同五拾三番地士族　池上傳右衛門
一金三円　同十六番地士族　天辰佐左衛門
一金十五円　同四小区中津川村　六拾六番地士族　田島嘉藤次
一金三円　同一小区宿窪田村　十八番地平民　間手ヶ原喜太郎
一金八円　同七十八番地平民　下薗伊三太
一金四円　同百五番地平民　田原伊右衛門
一金五円　同百四拾三番地平民　石坂善太郎
一金二円　同百六拾番地平民　安樂次郎兵衛
一金三円　同二小区　九拾八番地平民　桑木喜助
一金四円四十銭　同五拾壱番地平民　中野善助
一金三円　同廿二番地平民　本村仲之助
一金三円三拾銭　同八拾四番地平民　田方孫太郎
一金三円四十銭　同八拾八番地平民　宇都甚太郎
同四小区　百六拾壱番地平民

一金三円　牧　源五
同百廿七番地平民　青山仲左衛門
一金壱円
同百廿八番地平民　青山清之丞
一金壱円
同八拾四番地平民　正市休助
一金八円
同八拾五番地平民　阪田藤助
一金壱円
同八拾六番地平民　福村新太郎
一金壱円
同八拾二番地平民　邊田傳右衛門
一金壱円
同拾六番地平民　畦地五右衛門
一金壱円
同拾九番地平民　前田市太郎
一金弐円
同拾壱番地平民　瀬戸口源之丞
一金壱円
同六拾番地平民

一金壱円　中西庄次郎
同六番地平民　古通傳助
一金壱円
同壱番地平民　深谷與左衛門
一金五円
同五小区
弐番地平民　阪元新右衛門
一金五円
同壱番地平民　溝口次右衛門
一金三円
同拾弐番地平民　有村次兵衛
一金二円
同弐拾九番地平民　須崎源四郎
一金三円
同三拾番地平民　通山藤次郎
一金三円
同三拾壱番地平民　板越傳助
一金弐円
同六小区
拾二番地平民

一金弐円　小原八左衛門
同拾五番地平民
一金弐円　田方熊助
同三拾八番地平民
一金弐円　中小路金兵衛
同廿六番地平民
一金壱円　廣池平助
合金四百拾四円九拾六銭弐厘

第八拾三大区花岡ヨリ金穀差出高

記

一金四百九拾四円〇五銭三厘也　区内士民ヨリ借用
右ハ西郷隆盛暴発ニ付出兵ノ節差出高、
一金九円六拾銭也
右ハ鹿児島六課ヨリ指令ニ任セ差出高、
一赤米三拾表
但シ三盃入
右ハ明治九年子秋租税米当郷中取蔵ヘ格護相成居候処、賊徒芦谷市郎差越、末吉郷迄可差廻旨仰承達、無致方鹿ノ屋郷迄次越受取書取置候処、本年二月十一日大蔵省ヘ相届候節、右受取書相添差出候、

第八拾四大区新城郷ヨリ金穀差出高

記

一金弐拾三円四拾銭弐厘弐毛四糸也
右ハ明治十年二月七日区内士民ヨリ借用ノ分、
一金四拾弐円五拾壱銭六厘九毛八糸也
右ハ同年二月十七日区内士民ヨリ同断、
一金三円八拾弐銭弐厘弐毛四糸也
右ハ同年四月廿八日鹿児島壱課ヨリ課出ノ達ニ付、士民ヨリ差出、
一金百三拾壱円五拾五銭五厘六毛弐糸也
右ハ同年四月三日頃ヨリ同廿七八日比迄、平民ヨリ借用ノ分、
一真米三拾石九斗壱升弐合也
但シ三盃入九拾弐俵
右ハ当蔵米ニ候処、横川本営附ヨリ郷次ヲ以テ、末吉郷迄可送届ノ指揮ニ依リ、同年五月三十一日花岡郷ヘ次越候、
一金弐円四拾壱銭六毛六糸也

右ハ同年四月四日区内平民ヨリ少々宛課出相成候、

一金八円也

右ハ同年五月下旬頃右同断、

一金壱円三拾六銭五毛三糸也

右ハ同年五月五日ヨリ同廿六日迄小根占・佐多・田代三郷士族人数及ヒ夫卒帰宅ニ付、賄方致候故、実代金村役所取替相成居候、

一白米七斗六升九合也

右ハ同前之儀ニ付、所在米ヲ得、賄方致候高、

第八拾五大区垂水郷ヨリ金穀差出方

記

一金千三百四拾二円三拾三銭九厘六毛　区内士民ヨリ志ヲ以テ貸上ケ其外借入

一金三千百五拾四円二拾壱銭四厘也　戸長役所積金ノ内

一玄米百七俵　官庫之内

但シ三盃入

右ハ暴挙ノ際賊徒ヘ払尽高、

一金三百九拾六円九拾五銭七厘也　士族家禄相当課出致サセ候金高

右ハ暴挙ノ際鹿児島県六課ヨリ指令ニ任セ差出ス、

一金百六拾四円也　私学校党ヨリ一ト先受取ラサル者申聞候得共、若シ不差出時ハ後難ヲ恐レ強出候分

右ハ鹿児島船橋差越候人員ヨリ私学校ヘ差出、

第八拾六大区牛根郷ヨリ金穀差出高

記

一金千百七拾八円八拾六銭也

内訳

金六百三拾壱円五拾五銭也　区内士民ヨリ差出候分

金三百六拾円也　夫卒十二人ヘ仝断ニテ渡ス

金弐拾三円三拾六銭也　賊徒兵隊通行ニ付賄費

金百六拾三円九拾五銭也　戸長役所積金ノ内ヨリ差出候分

一米五拾四石七斗弐升也

右ハ牛根組御蔵徴収米ノ内本行石数賊徒掠奪ノ分、其段県庁ヘモ届相成居候、

加治木　山川　出水　水引　鹿屋

賊徒ヘ用立米穀員数取調

逆徒之為メ用立金穀

鹿児島県下第五拾大区吉田郷

一金七拾壱円三拾壱銭九厘　東佐多浦村中ヨリ
一同三拾弐円九拾銭　本城村中ヨリ
一米四石九斗五合　同断
一金百三拾八円弐拾壱銭七厘六毛　宮之浦村中ヨリ
一同百九拾八円弐拾壱銭六厘　本名村中ヨリ
一米弐拾八石七斗三升五合余　同断

同県下第五拾壱大区重富郷

一金弐拾八円九拾四銭七厘
一米拾弐石
一金百円　平松村中ヨリ（春花）
一金拾五円　張毛村中ヨリ
一米七石五斗　同断
一金拾弐円　船津村中ヨリ

同県下第五拾弐大区帖佐郷

一金弐百九拾八円六拾三銭　松原浦中ヨリ
一同七拾弐円弐拾七銭　十日町中ヨリ
一同弐百九拾六円七拾三銭　西屋町中ヨリ
一同三千四百五拾六円七拾四銭　三十町村深水村豊留村三ケ村中ヨリ
一同四千六百六拾壱円弐拾五銭　中津野村増田村二ケ村中ヨリ
一同弐千五百三拾弐円　寺師村中ヨリ
一金弐千七百弐拾七円八拾六銭　住吉村永瀬村二ケ村中ヨリ
一同弐千弐百八拾円四拾九銭　西餅田村中ヨリ
一同弐千三百拾八円　東餅田村中ヨリ

同県下第五拾四大区山田郷

一金百円　下名村中ヨリ
一米弐拾九石五斗五升　同断
一焼酎ツブロ三ツ　同断
一蒲団弐枚　同断
一金八拾六円五十銭　大山村中ヨリ
一米弐拾五石五斗　同断
一焼酎ツブロ壱ツ　同断
一金六拾七円五拾銭　邊川村中ヨリ
一米弐拾石七斗五升　同断
一金弐百三拾円八拾五銭　木津志村中ヨリ
一米六拾弐石　同断
一金七拾壱円四拾銭　北山村中ヨリ
一米七拾石四斗六升　同断
一鉛五斤　同断
一焼酎ツブロ壱ツ　同
一金百拾七円　上名村中ヨリ

一米三拾五石六斗五升　同断

同県下第五拾三大区蒲生郷

蒲生町米屋渡世拾弐名ノ者ヨリ

一米拾九石余　蒲生町中ヨリ

一金弐百四円拾銭　上久徳村中ヨリ

一同四拾八円　同断

一米弐石弐斗八升　久末村中ヨリ

一金六拾七円　同（断脱カ）

一米壱石弐斗　下久徳村中ヨリ

一金百九拾三円拾五銭七厘　北村中ヨリ

一同八拾円　同断

一米壱石七斗五升　西浦村中ヨリ

一金五拾円　米丸村中ヨリ

一同百五拾五円　漆村中ヨリ

一同百三拾壱円　白男村中ヨリ

一同弐百四拾円　同断

一米壱石弐斗

同県下第五拾八大区溝邊郷

一金拾七円弐拾銭　竹子村中ヨリ

一踊鐘壱個　同断

一蒲団弐枚　同断

一金弐拾五円　三縄村中ヨリ

一同百八拾壱円八拾四銭四厘　麓村中ヨリ

一踊鐘三個　同断

一蒲団四枚　同断

一釜壱ツ　同断

一金七拾円　崎森村中ヨリ

一同三拾円五拾銭　有川村中ヨリ

一踊鐘弐個　同断

一蒲団二枚　同断

一焼酎ツブロ弐個　同断

一釜弐ツ　同断

一蒲団弐枚　同村井手喜之助

一金三百三拾円　同村所用金之内ヨリ

同県下第五拾九大区加治木郷

一金百弐拾円拾弐銭　反土村中百四拾名ヨリ

一同弐拾六円　福次休左衛門ヨリ

一同三拾円　川畑長太郎ヨリ

一同三拾五円　久保田金太郎ヨリ

一同三拾四円　堂屋敷仁助ヨリ

一同三拾円　吉元金太郎ヨリ

一同弐拾九円　金丸與助ヨリ
一同六拾円　日木山村常盤幸次郎外八拾三名ヨリ
一金弐拾五円　脇　金右衛門ヨリ
一同弐拾五円　脇　庄八ヨリ
一同三拾五円　松尾伊兵衛ヨリ
一同弐拾六円　吉村金助ヨリ
一同三拾弐円　坂元次郎ヨリ
一同百三拾円　西別府村中ヨリ
一同三拾四円　楠元休兵衛ヨリ
一同四拾円　東　仲次郎ヨリ
一同三拾五円　南　市郎ヨリ
一同三拾四円　榎谷太三次ヨリ
一同三拾五円　山下山助ヨリ
一同三拾七円　新門權兵衛ヨリ
一同百〇弐円六拾三銭壱厘六毛　小山田村中ヨリ
一同三拾四円　同村吉村休太郎ヨリ
一同三拾五円　同村宮ノ脇巳之助ヨリ
一同三拾円　同　地久野金太郎ヨリ
一同三拾八円　同　石野武右衛門ヨリ
一同拾三円拾五銭七厘九毛　同　山下仁助ヨリ
一同三拾九円四拾七銭三厘七毛　同内村仁助ヨリ
一同弐拾六円三拾壱銭五厘八毛　同内村諸左衛門ヨリ
一同弐拾五円　同上村孫左衛門ヨリ
一同百九拾七円八拾七銭　木田村中百四拾弐名ヨリ一名一円二十九銭三厘三毛ツヽ、
一同弐百拾四円八拾銭　同村高持七拾壱戸ヨリ一戸ニ付三円ツヽ、
一同百円　加治木島津又八郎ヨリ
一同弐百七拾四円七拾銭　同所佐藤平左衛門外七十名ヨリ
一同五百九拾六円八拾八銭九厘壱毛　加治木士族所用之内ヨリ
一米三斗入八俵　加治木市木敬太郎ヨリ
一酒四斗　同断
一米三斗入六俵　同村市木仁右衛門ヨリ
一金三拾円　同　木佐貫市兵衛ヨリ

総〆金弐万四千三百四拾六円五拾七銭八厘七毛

米三百弐拾弐石四斗八升
同三斗入拾四俵
鉛五斤
釜三ツ
蒲団拾弐枚

踊鐘六個
焼酎ツブロ七ツ
酒四斗
〃
右ハ昨十年賊徒出兵之節、各郷村中ヨリ夫卒賃銭等之為ニ差出候、

明治十一年四月

山川郷・指宿郷・今泉郷・喜入郷・頴娃郷
種子島ヲ除クヨリ十年中賊軍ヘ出金穀并借金穀調
一高金五千三百八拾五円弐拾五銭弐厘五毛
一米拾石〇六斗七升五合
一味噌弐百斤
一醤油三拾盃
此内訳
金五百七拾五円拾七銭三厘
右ハ明治十年五月十六日横川賊本営ヨリ達シ来リタル節、山川郷ヨリ差出候分賊ヨリ達シ、写左ニ記ス、

各区正副戸長

今般不容易国難之際ニ当リ、各自尽力不致候テハ不相済訳ハ論ヲ待タス、然ルニ其費用多数ニ付、右費用補ヒノ為メ強富ノ者共ヘ貸上金申付候条ノ趣意徹底致、人々其分ニ応シ無滞差出シ候様熟篤説諭可致、此旨相達候事、

明治十年五月十六日　横川本営

金五拾円
右ハ今和泉郷ヨリ横川賊本営ヘ差出候分、
金百八拾四円五拾三銭
右ハ明治十年五月中横川賊本営ヨリ有川恕一郎・平田純義ノ両人来リ、出金云々ニテ喜入郷ヨリ差出候分、
金四百七拾八円弐拾銭
内ニ壱分古銀拾弐両
右ハ明治十年五月中横川賊本営ヨリ両名来リ、出銀云々ニテ、頴娃郷ヨリ差出候分、
金弐千四百三拾八円〇九銭八厘
内ニ小判弐枚
壱分金弐拾枚
壱分銀八枚
右ハ指宿郷平民ヨリ為差出、或ハ借入出兵之者ヘ貸付

之分戸長或ハ出兵人員ヨリ請取書及借用証書弐百拾五通アリ、

金弐百弐拾弐円弐拾壱銭壱厘

右ハ山川郷平民持高ニ応シ取立候分、

金五百〇壱円

右ハ山川郷戸長ニ於テ平民ヨリ取立候分、

金百八拾四円拾八銭〇五毛

右ハ明治十年四月中大書記官田畑常秋ヨリ達シニ依リ喜入郷ヨリ差出候分、

金四百九拾壱円八拾六銭

右ハ十年中該県第六課ヨリ出張出金云々ニヨリ、頴娃郷ヨリ差出候分、

金百拾円

右ハ十年九月中賊再発之際、今和泉郷ヨリ差出候分、

〃

米九石四斗七升五合

右ハ指宿郷ヨリ差出候分、

米壱石弐斗

右ハ九月中賊再発之際、今和泉郷ヨリ差出候分、

味噌弐百斤

右ハ山田郷賊病院ヘ喜入郷ヨリ差出候分、

醤油三拾缶

右ハ同上

〃

一金千九百円九拾三銭

右ハ昨十年賊徒暴挙之際指宿郷戸長役場ヨリ士族積金之内前書之通差出置候趣、該郷戸長ヨリ届出候間、当着往第七拾三号ヲ以テ御回送ニ及置候、管内出金総調内ヘ前書之金円御差加算有之度、此段及御依頼候也、

山川警視署長

十一年四月八日　三等少警部高橋藤吾

鹿兒島警視出張所

御中

、昨十年騒擾之際出水郷ヨリ差出候分

一金七円七拾六銭八厘　平松士族ヨリ

一同三円六拾六銭六厘五毛　竹ノ山士族ヨリ

一同五円八拾弐銭八厘三毛　平良士族ヨリ

一同八円八拾七銭六厘六毛　庄・江内士族ヨリ

一同四円五拾壱銭六厘六毛　野添士族ヨリ

一金弐円五拾弐銭二厘四毛　福ノ江士族ヨリ
一同七円四拾七銭六厘九毛　庄村井古浜平民ヨリ
一同弐拾円拾壱銭四厘五毛　江内村百姓ヨリ
一同四円八拾四銭五厘七毛　庄村百姓ヨリ
一同四円弐拾四銭八厘　米ノ津士族ヨリ
一同弐円九拾九銭九厘　上屋士族ヨリ
一同五円九銭五厘　今釜町平民ヨリ
一同拾円弐拾銭　大川内士族ヨリ
一同三円四拾銭　西ノ江士族ヨリ
一同拾八円五拾銭　今釜士族ヨリ
一同四円五拾四銭四厘　軸谷士族ヨリ
一同四拾八円四銭五厘　米ノ津平民ヨリ
一同壱円九拾三銭四厘　下知識士族ヨリ
一同弐円弐銭壱厘　大田士族ヨリ
一同弐円三拾銭　井上士族ヨリ
一同弐円弐拾銭　松尾士族ヨリ
一同五拾八銭九厘　水ノ頭士族ヨリ
一同拾円三銭　市ノ住士族ヨリ
一同壱円弐拾七銭七厘四毛　丸塚士族ヨリ
一同五円拾銭壱厘　武本士族ヨリ

一金壱円三拾弐銭五厘六毛　平岩士族ヨリ
一同五円八銭九厘六毛　尾ノ島井ニ野口南浦平民ヨリ
一同六円六拾弐銭　蕨浦人ヨリ
一同八円九銭六厘六毛　古市士族ヨリ
一同拾九円六拾四銭九厘　脇本士族ヨリ
一同六円四拾四銭五厘　小原士族ヨリ
一同弐拾三円七拾八銭　大川内村百姓ヨリ
一同四拾六円四拾銭　下知識村百姓ヨリ
一同三円　福ノ濱人中ヨリ
一同拾四円九銭　下鯖淵村百姓ヨリ
一同拾三円五拾六銭八厘　武本村百姓ヨリ
一同拾壱円九拾壱銭弐厘　六月田村百姓ヨリ
一同四拾五円七拾三銭　麓町平民ヨリ
一同拾八円三拾銭三厘　上知識村百姓ヨリ
一同三拾六円八拾七銭　竪馬場井士族名子中ヨリ
一同六拾弐円四拾九銭三厘　諏訪馬場士族井名子中ヨリ
一同拾六円五拾銭四厘　山崎馬場士族井名子中ヨリ
一同五円　帆木上之小左衛門
一同拾円　楠元藤右衛門　同助右衛門
一同拾円　上知識村ノ宇右衛門

一金五円　折尾野ノ助右衛門　一金壱円　下田次郎右衛門
一同五円　鍋野ノ林助　一同八円　松元善右衛門
一同拾円　神田甚助　一同壱円　西　源吾
一同三拾四円　兒玉喜右衛門　一同四円　山門與平次
一同八拾円　大屋郷右衛門　一同壱円　兒玉市太郎
一同三拾五円　名子浦海老代　一同五円　宮崎直右衛門
一同八拾円　松原源五右衛門　一同弐拾円　梅木清四郎
一同五拾八円　武本村去々子秋粟代　一同四円　友田嘉兵衛
一同弐拾円　下鯖淵村右同断　一同三円　田嶋利右衛門
一同三拾円　上鯖淵村右同断　一同三円　田島半兵衛
一同弐拾円　六月田村右同断　一同四円　田島彌右衛門
一同三拾九円八拾銭　上知識村右同断　一同四円　梅木森右衛門
一同四拾円　下知識村右同断　一同三円　田中勘右衛門
一同三拾円拾銭　下鯖淵村右同断　一同弐拾九円弐拾銭　大久保柴引両在中ヨリ
一同四拾円　上知識村右同断　一同五円　平八重村中ヨリ
一同九円　大川内村右同断　一同五円　橋口善右衛門
惣計金千〇八拾八円九拾壱銭五厘　一同五円　國分勘右衛門
昨十年騒擾之際高尾野郷ヨリ差出候分　一同弐円　江口十助
一金壱円　鬼塚彌兵衛　一同壱円　山口四郎右衛門
一同壱円　前田八郎次

一金弐円　中原宗之進
一同三円　石原利助
一同拾円　小山伊助
一同壱円　淵上傳八
一同八円　上水流村在中ヨリ
一同拾三円　下水流村在中ヨリ
一同三円　石原利助
一同壱円　橋口七郎
一同壱円　片野坂市之進
一同弐円五拾銭　出水吉左衛門
一同壱円　松永仙右衛門
一同三円　橋本庄右衛門
一同壱円　波多野喜右衛門
一同壱円　大澤直二郎
一同壱円　小田原新太郎
一同壱円　山川武兵衛
一同弐円　先崎休藏
一同弐円　安藤源左
一同三円　福永藤次郎
一同壱円　遠矢仲之進

一金拾円　小山田伊助
一同拾六円　石原利助
一同八円六拾銭　下高尾村在中ヨリ
一同九円　唐笠木村在中ヨリ
一同五拾銭　田島次右衛門
一同五拾銭　田中勘太郎
一同五拾銭　田島利左衛門
一同壱円　友田嘉兵衛
一同弐円　梅木森右衛門
一同弐円　田島彌三右衛門
一同拾三円五拾銭　梅木清四郎
一同拾円　内ノ野村在中ヨリ
一同四円　松ケ野村在中ヨリ
一同弐拾六銭六厘　古川勇助
一同弐拾六銭六厘　西　源吾
一同弐円五拾銭　出水吉右衛門
〆金弐百五拾壱円三拾三銭弐厘

是ハ私学校一番組出兵之節差出候分、

一金六円　野添村士族中ヨリ
一同三円　上水流村士族中ヨリ

一金三円　柴引村士族中ヨリ　一金壱円　江口藏助
一同九円　本町柴山両村士族中ヨリ　一同弐円五拾銭　西　源吾
一同拾六円四拾壱銭三厘　下高尾野村士族中ヨリ　一同三円　江口喜右衛門
一同拾七円弐銭壱厘　松ケ野村士族中ヨリ　一同壱円　竹下伊助
一同四円拾三銭三厘　前原村士族中ヨリ　一同壱円　出水宇吉
一同五円　上ケ原村士族中ヨリ　一同弐円　鬼塚彌兵衛
一同四円九拾四銭　平八重村士族中ヨリ　一同弐円　坂元宇兵衛
一同弐円　川内村士族中ヨリ　一同弐円　福永藤次郎
〆金七拾円五拾銭七厘　一同弐円　森　仲左衛門
是私学校二番組出兵之節差出候分、　一同壱円　遠竹助右衛門
一金弐円　遠竹伊右衛門　一同壱円　遠竹伊左衛門
一同壱円　松元仙右衛門　一同三円　下田次郎左衛門
一同九拾弐銭五厘　遠矢嘉兵衛　一同壱円　石川半次郎
一同三円　馬場源藏　一同弐円　遠竹庄八
一同壱円　前田八郎次　一同弐円五拾銭　清原武助
一同弐円　兒玉市右衛門　一同壱円七拾六銭　桐野平次郎
一同弐円　松元孫右衛門　一同五円　梅木清四郎
一同壱円　兒玉武右衛門　一同壱円　中村八之進
一同壱円　兒玉仲左衛門　一同壱円　下田八郎次
一同壱円　清藤伊左衛門　一同壱円　山崎甚左衛門

一金壱円　伊地知新右衛門
一同壱円　片野坂市之進
一同弐円　小田原新太郎
一同弐円弐拾五銭六厘　出水吉右衛門
一同壱円　小田原庄左衛門
一同三円　安樂源左
一同壱円　土屋平次郎
一同七十六銭八厘　伊藤木兵衛
一同三円　江口權左衛門
一同三円　橋木仙兵衛
一同八拾弐銭壱厘　松ヶ野宗次郎
一同弐円　中原宗之進
一同三円　山門與平次
一同八拾銭　池添吉左衛門
一同六拾八銭弐厘　兒嶋庄助
一同五拾銭　兒嶋新兵衛
一同壱円　大磯武兵衛
一同九拾六銭　宮崎新左衛門
一同八拾九銭　白川嘉兵衛
一同弐円　橋口善右衛門

一金拾壱円五拾銭　梅木清四郎
一同五拾銭　湯田庄右衛門
一同三拾銭　本田周右衛門
〆金九拾四円六拾六銭弐厘

是ハ私学校三番組出兵之節差出候分、

一金三円五拾銭　柏木四郎右衛門
一同壱円　友田嘉兵衛
一同三円　村松勇七郎
一同壱円　岩塚長助
一同壱円　小藤利助
一同三円弐拾弐銭　清助
一同九拾九銭六厘　内野万五郎
一同壱円弐拾銭　藤畠八右衛門
一同壱円　上野直助
一同五拾銭　富元喜太郎
一同五拾銭　松川藏助
一同五拾銭　松下萬助
一同壱円弐拾銭　平岩助左衛門
〆金拾九円六拾三銭六厘

是ハ勇儀隊出立之節差出候分、

惣金高四百四拾四円拾三銭七厘

昨十年騒擾之際野田郷ヨリ差出候分

一金弐円　加治屋小次郎
一同弐円　徳富嘉之助
一同八円　一住連藤左衛門
内弐円拾銭五厘三毛入
一同拾円　若林若助
内弐円拾銭五厘三毛入
一同壱円五拾銭　古川藤次右衛門
一同弐円五拾銭　滿永次右衛門
一同弐円　山下郷兵衛
一同弐円　澤田休左衛門
一同壱円　徳屋萬左衛門
一同五円　徳富善助
内弐円拾銭五厘三毛入
一同壱円　九反十助
一同拾円　桑仙郷右衛門
一同拾円　今村休四郎
一同五円　上崎市之助
内弐円拾銭五厘三毛入
一金弐円　加治屋市兵衛
一同弐円　面前勘左衛門
一同弐円　若林千藏
一同四円　田上助市
内弐円拾銭五厘三毛入
一同四円　田淵喜兵衛
内弐円拾銭五厘三毛入
一同弐円　田多藤平右衛門
一同弐円　東　萬藏
一同弐円五拾銭　中村松之丞
一同六円　井町淺右衛門
内弐円拾銭五厘三毛入
一同弐円　奥藤平右衛門
一同壱円弐拾銭　桑原甚藏
一同五円　田淵平右衛門
内弐円拾銭五厘三毛入
一同三円　川上金左衛門
一同壱円　角　萬次郎
一同五円　六反田休左衛門

内弐円拾銭五厘三毛入
一金五円　徳田休右衛門
内弐円拾銭五厘三毛入
一同弐円　前田八藏
一同弐円　滿武平次郎
一同弐円五拾銭　山口平兵衛
一同壱円　東田七兵衛
一同弐円　山口太助
一同壱円五拾銭　中村武右衛門
一同壱円　森代市兵衛
一同壱円五拾銭　山上傳右衛門
一同壱円　餅井市左衛門
一同壱円　角　市左衛門
一同三円　桑仙藤左衛門
一同弐円　東田勘左衛門
一同壱円　澤田喜藏
一同五円　西田猪之助
内弐円拾銭五厘三毛入
一同弐円　福永傳左衛門
一同壱円　井上武次郎

一金壱円　西田藤左衛門
一同壱円五拾銭　東田孫市
一同壱円六拾弐銭　松延三次郎
内八拾壱銭入
一同壱円弐銭六厘　木下藤五郎
内四拾八銭六厘入
一同壱円弐銭六厘　木下次郎八
内四拾八銭六厘入
一同七拾七銭八厘　富山伊助
内三拾七銭八厘入
一同弐円五銭弐厘　松田八左衛門
内八拾六銭四厘入
一同三円七銭八厘　松田新左衛門
内壱円弐拾九銭六厘入
一同弐円五銭弐厘　久保筑左衛門
内九拾四銭五厘入
一同四拾八銭六厘　越地勘助
内弐拾七銭入
一同弐円五銭弐厘　松田種子右衛門
内九拾四銭五厘入

一金弐円五銭弐厘　岩淵藤右衛門
内八拾壱銭入
一同弐円五銭弐厘　柿野次郎
内八拾壱銭入
一同壱円五拾三銭九厘　柿野清八
内五拾四銭入
一同拾七円四拾四銭弐厘　野添源四郎
内八円三拾壱銭六厘入
一同五円五拾八銭弐厘　松邊市郎
内弐円五銭弐厘入
一同七円弐拾七銭九厘弐毛　福井□助
内三円拾八銭六厘入
一同拾七円三拾八銭八厘　松ヶ角太郎
内八円四拾弐銭四厘入
一同八円弐拾銭八厘　寶　次郎右衛門
内四円三拾弐銭入
一同五円拾三銭　末吉新助
内壱円三拾五銭入
一同四円拾銭四厘　橋口與平次
内壱円弐銭六毛入

一金四円拾銭四厘　田島幸次郎
内壱円三拾壱銭九厘入
一同弐円拾銭六厘　米田庄次郎
内八拾壱銭入
一同四円　大島仲兵衛
一同七円　大島仁藏
一同四円　中尾吉兵衛
一同弐拾五円　池田喜兵衛
内拾円入
惣高金弐百七拾三円八拾八銭四厘四毛
内七拾弐円六拾銭弐厘弐毛入
（朱）「但入ノ分ハ戸長役場ヨリ本人共ヘ返却済」

昨十年騒擾之際阿久根ヨリ差出候分
一金弐拾三円　阿久根郷町役年行司
但是ハ明治十年四月鹿兒島巡査ヘ差出候分、
一同五百円　阿久根郷
但是ハ私学校人員九拾五名出兵ニ付、軍用費トシテ
差出候分、
一同百六拾七円弐拾五銭五厘七毛九糸同

但是ハ私学校人員出兵ニ付、軍用費トシテ差出候分、

一金四百円　北國覺兵衛

但是ハ跡ヨリ四拾名出兵旅費トシテ差（出候分脱カ）

一同百拾四円　同

但是ハ中山甚五兵衛募兵ニテ、勇儀隊五拾七名出兵ニ付、軍用トシテ所積金ヲ差出候分、

一同百三拾八円三拾八銭　同

但是ハ警察方民費課出申付、有志之者ヨリ県庁ヘ差出候分、

一同五百拾円　同

但此内分左之通、

一同百円　河南源兵衛

一同七拾円　橋本吉助

一同七拾円　鬼塚金右衛門

一同四拾円　河南七左衛門

一同三拾五円　大塚直左衛門

一同拾五円　白石德右衛門

一同拾五円　中山太左衛門

一同拾円　濱崎休助

一同八円　中村八右衛門

一金六円　中村八十右衛門

〃金三百六拾九円　折田覺兵衛

但是ハ扱所有銭ヲ以テ一時立替差出候分ニシテ、未タ銘々ヨリ返金不相済町役ヨリ追々取立返金之賦之由、

一金四拾円　丹宗庄右衛門

一同弐拾円　中村武吉

一同拾五円　河南源藏

一同拾円　折口伊兵衛

一同拾円　丹宗藤左衛門

一同拾円　丹宗傳兵衛

一同六円　折田治左衛門

一同五円　丹宗林兵衛

一同五円　折田郷右衛門

一同五円　春田千代助

一同拾円

〃金百四拾壱円

但是ハ扱所ヨリ立替置、既ニ昨十年十二（月脱カ）返金相済候由、

一同弐百円　白濱藤輔

但私学校出兵之際餞別トシテ差出候趣、

惣金高弐千五百六拾弐円六拾銭五厘七毛九糸

昨十年騒擾之際長島郷ヨリ私学校ヘ差出候分

一金三円五拾四銭　藏之元方限
一同弐円七拾六銭六毛　平尾村在中ヨリ
一同六円七拾六銭　川床方限
一同九円四拾九銭　鷹巣方限
一同壱円七拾三銭七厘　伊島（唐カ）
一同壱円七拾二銭　塩追浦
一同壱円六拾三銭　片淵浦
一同七拾五銭　浦之塩屋
一同壱円四拾銭九厘　御所之浦
一同壱円八拾七銭八厘　三船浦
一同七拾五銭七厘　宮浦
一同壱円六拾七銭弐厘　葛輪浦
一同壱円三拾銭七厘　本浦
一同六拾七銭八厘　湯口浦
一同五拾六銭六厘　薄ケ浦
一金壱円壱銭九厘　平野浦
一同壱円拾壱銭弐厘　幣串浦
一同七拾八銭七厘　福浦
一同壱円拾四銭八厘　脇崎浦
一同七円五拾三銭　城川内方限
一同四円四拾七銭　山門野在中
一同弐円七拾銭六厘　山門野士族中
一同七円拾四銭六厘　指江村在中
一同拾五円弐拾壱銭　平尾士族中
〃金七拾七円七拾銭九厘

右ハ昨十年四月課出被申付差出候分、

丑三月十八日
一金六円　片側浦　林八
三月十九日
一同壱円　平尾村　伊藏
一同壱円　脇差浦之　金作
一同壱円　塩追浦人　傳助
一同壱円　平野浦ノ　助左衛門
一同弐円　葛輪浦ノ　喜早
三月廿三日
一同弐円　加世堂村ノ　淺右衛門
一同壱円　川床村ノ　野右衛門

三月九日
一金壱円　塩見村ノ　伊八
三月廿日
一同八円　葛輪浦人　武右衛門
三月廿五日
一同弐円　本浦ノ　五郎杉松
四月二日
一同七円　幣串浦ノ　早左衛門
四月九日
一同六円　片側浦ノ　松右衛門小平
三月十九日
一同壱円　三船浦ノ　庄吉
三月廿二日
一同三円　浦底村ノ赤崎村ノ　十兵衛松太郎
同
一同四円　伊唐島ノ　与右衛門次郎右衛門七太郎
三月廿三日
一同拾円　山下利平
三月廿日
一同弐円　山門野村ノ　野右衛門
三月廿三日
一同弐円　山門野村
四月九日
一同三円　片側浦ノ　壽桂
四月六日
一同弐拾弐円　飯尾新作
〃金八拾六円九拾七銭
二口〃金百六拾四円七拾銭四厘
合計金四千五百三拾四円弐拾四銭六厘壱毛九糸
内七拾弐円六拾銭弐厘弐毛入
「但入ノ分ハ戸長役場ヨリ本人共返却済」(朱)

記

一金五百五拾三円八銭
右ハ昨十年県下騒擾之際、人民ヨリ賊徒ヘ用立候金穀員数詳細取調候処、本行金額ニ候間、此段申上候也、

第三拾三大区
水引郷戸長
明治十一年三月三十一日　木元宗一

記

一金四百拾九円七拾六銭三厘　隈之城郷
右ハ昨十年県下騒擾之際、人民ヨリ賊徒ヘ差出候金額取調可申上旨御達ニ付、区内取調候処、右之通御座候間、此段御届申上候也、

第二十八大区隈之城郷
戸長
十一年三月三十日　高木政一

騒擾之際人民ヨリ賊徒ヘ用立候金穀員数之御届
一金弐百九拾円六拾四銭壱厘九毛
第弐拾九大区壱小区平佐郷
天辰村四百弐拾九番地士族

竹下平左衛門
外ニ百六拾名

一金拾八円六拾九銭三厘四毛
右同大区二小区同郷中村三百五拾弐番地士族
成松直右衛門
外ニ四百名

一金六百八拾八円八拾九銭五厘
第廿九大区壱小区平佐郷白和村
弐百七拾四番地平民
小牧吉右衛門
外ニ弐百三名

一金弐拾五円弐拾壱銭九厘三毛六糸八忽物品代価
右同大区壱小区白和町
三百九拾七番地平民
小牧太郎八
外ニ拾四名

右之四行所出軍方

一金七円五拾六銭
右同大区同小区平佐郷平佐村
拾五番地士族

北郷吉左衛門
外ニ拾八名

一金拾九円六拾銭
右同大区同小区同郷白和村
二百弐拾八番地平民
奥　藤五郎
外五拾弐名

一金弐百弐拾四円三拾四銭七厘七毛八糸三忽物品代価
右同大区同郷同町
二百九拾七番地平民
小牧太郎八
外ニ拾八名

一真米壱石四斗九升五合
第廿九大区壱小区平佐郷
拾番地士族
財部平右衛門
外ニ六拾弐名

右四行賊之本営方

合金千弐百七拾四円九拾五銭七厘四毛五糸壱忽

此訳

千弐拾五円三拾九銭三毛　現金

弐百四拾九円五拾六銭七厘壱毛五糸壱忽　物品代価

合米壱石四斗九升五合

右ハ県下騒擾之際、人民ヨリ賊徒ヘ用立候金穀之員数取調候処、右之通御座候間、此段御届申上候也、

第廿九大区平佐郷

三級戸長

明治十一年三月卅日　野渥阿波岐

御届

東郷郷

一金拾六円弐拾五銭八厘

右壱行賊徒暴挙之際、賊本営ヨリ志金為差出候様申来、爰許郷士族・平民ヨリ志金差出候付、明治十年五月廿二日賊横川本営ヘ差出申候、

一真米拾八石三斗四升壱合五勺

右壱行同断、志米為差出候様申来、爰許郷士族・平民ヨリ志米差出候ニ付、明治十年六月八日鹿児島賊本営ヘ差出申候、

一金七百弐拾六円四拾八銭七厘五毛

右壱行明治十年賊徒暴挙之際、爰許士族・平民・富家之者共ヘ賊旅費トシテ一時取替申付為差出召仕候株ニテ御座候、

右ハ昨十年県下騒擾之際、人民ヨリ賊徒ヘ用立候金穀之詳細取調、御届可申上旨御達ニ付取調申候処、右之通御座候間、此段御届申上候也、

第三拾弐大区東郷

三級副戸長

明治十一年三月三十一日　相良齊之丞

右同

二級戸長　木脇正之助

第壱方面

水引警視署

御中

客年騒擾ニ付人民ヨリ賊徒ヘ用立金御届　樋脇郷

一金拾壱円八銭五厘

是ハ昨十年五月十八日当県内横川郷賊ノ本営ヨリ阿多慶二・有川勘助巡回、郷内人民ヘ金課出ヲ以取立方達セラレ、本行取揃、水引郷滞在右弐人方ヘ相渡置申候、

一金八拾九円四拾銭

是ハ客年春以来、当郷内ヨリ賊出兵ニ付、士族中ヨリ本行合力ヲ以差出シ、出兵人員共分配致申候、

右ハ昨十年県下騒擾之際、人民ヨリ賊徒ヘ用立候金穀詳細取調、御届申上候様承仕、当郷内細々取調申候処、前書之通御座候間、此段御届申上候也、

副戸長

十一年四月五日　河崎良彦

戸長代理

副戸長　萩　正家

御届　高江郷

一金弐拾壱円七拾銭

一銅銭拾弐貫六百文

但金ニシテ拾壱円九拾三銭七厘

一米七石六斗

一味噌弐百七拾七斤

一鞋九百弐拾足

一半鐘一口

一丸鉄九ツ

一山鍬五拾挺

一鍋鉈金拾五貫三百六拾目

一薪百拾把

右ハ昨十年県下騒擾之際、人民ヨリ賊徒ヘ差送候金穀之員数取調、御届申上候也、

第廿六大区高江郷

副戸長

十一年四月一日　内田靜介

戸長　菱刈彌左衛門

騒擾之際人民ヨリ賊徒ヘ取替金御届

一金三百三拾六円四拾銭

右ハ明治十年県下騒擾之際、人民ヨリ賊徒ヘ用立候金穀

之員数詳細取調申出候様承知仕取調申候処、右之通御座候間、此段御届申上候也、

但取替米無御座候、

第三拾四大区高城郷

三級戸長

十一年四月五日　中村治平

一金拾弐円	手打濱之	一金弐円	川畑宇助
一金拾弐円	右同所	一同弐円	右同所
一同拾五円	川畑龍右衛門	一同拾五円	濱田藤右衛門
一同拾五円	右同所	一同拾五円	右同所
一同三円	中村津太郎	一同拾五円	濱田喜右衛門
一同三円	右同所	一同拾三円	青瀬村
一同弐円	戸塚鐵藏	一同拾三円	久保傳助
一同弐円	右同所	一同拾三円	右同所
一同弐円	江口惣兵衛	一同拾三円	早川早左衛門
一同弐円	右同所	一同拾三円	右同所
一同弐円	竹中庄右衛門	一同拾三円	春田林七
一同弐円	右同所	一同拾三円	右同所
一同弐円	中村長七	一同拾三円	濱崎傳次右衛門
一同弐円	右同所	一同拾三円	右同所

一金九円　楠元精吉　一金壱円　青田林之助
一同九円　青瀬村　山門伊三右衛門　一同壱円　青瀬村　南　德市
一同八円九拾銭　右同所　西森藤太郎　一同六拾銭　右同所　楠元精左衛門
一同八円　右同所　早川早兵衛　一同五拾銭　長濱村　早川早七
一同四円　右同所　西　儀右衛門　一同壱円　右同所　宮　早之進
一同四円　右同所　西　儀三次　一同壱円　右同所　南　增太郎
一同四円　右同所　西　重之助　一金壱円　右同所　町　三助
一同四円　右同所　久保庄助　一同壱円　右同所　南　六右衛門
一同壱円　右同所　下江伊平次　一同壱円　右同所　東　源兵衛
一同壱円　右同所　中原藤右衛門　一同壱円　右同所　下野宇左衛門

一金壱円　宮　十助　一金弐円　中野源八
一同壱円　長濱村　下野三左衛門　一同弐円　右同所　濱田喜之助
一同壱円　右同所　東　十次郎　一同壱円　右同所　橋野喜左衛門
一同壱円　右同所　中川宇兵衛　一同壱円　右同所　中野市太郎
一同七円　薗牟田村　梶原五八　一同壱円　右同所　橋野喜七
一同七円　右同所　中村源右衛門　一同壱円　右同所　橋野伊郎作
一同七円　右同所　橋野喜兵衛　一同弐円　片野浦村　窪　傳兵衛
一同七円　右同所　中野彌八　一同弐円　右同所　山下甚兵衛
一同七円　右同所　中野源左衛門　一同弐円　瀬之野浦村　中川休作
一金弐円　右同所　橋野宇市　一同弐円　右同所　中川甚作

合金弐百三拾八円

右ハ昨十年県下騒擾之際、横川軍務所詰有川宗八・野村四郎代理トシテ柏田六右衛門・吉野市郎二ト申者上甑ヘ渡海相成、当所ハ右六右衛門并上甑里士族原田貫二両名参リ、人民ヘ金配協議ニ及候処、前書之者共ヨリ如此金円用立候ニ付、百三円丈ハ右六右衛門ヘ六月廿七日相渡、百三拾五円ハ右貫二ヘ相渡申候、右之通御座候、此段申上候也、

下甑島
副戸長

十一年四月三十日　江口喜兵衛
右同
戸長　橋口孝左衛門

本年二月廿五日修史館監事三浦安ヨリ鹿児島県令岩村通俊ヘ依頼、同令ヨリ同県下警視出張所ヘ尚依頼ニ因テ、昨年県下逆意蜂起之際、人民ヨリ用立候金穀大数何程ト申儀探偵上ニ聞知ノ分編修参考ノタメ認差出可申御達ノ処、何分公然ト取調不申候テハ隠匿ノ情姿有之、確拠ト難申出候得共、大凡聞知ノ処、右之通ニ御座候、

鹿屋　小根占　大根占　高山
志布志　内浦　串良　松山
大姶良　市成　百引　高隈
姶良　田代　佐多　大崎

右郷々ヨリ出金

金六千円位　大家壱戸百五十円、中家一戸二十円、小家一戸十銭位、大家ハ壱品弐品赤銅類差出候家モ有之候得共、穀類ニ至テハ且テ不知、

穀類不詳

銅器類同

右之通探知上ニテ公然難申出、予メ其儀ニ付、此段申上候也、

四月十七日

第四拾九大区二小区淵邊村

白米　壱俵　平民　永富長次郎
仝　壱俵　仝　永富長右衛門
仝　壱俵　仝　今村傳四郎
〃白米三俵　但シ各二斗入

同大区同小区平出水村

白米　壱俵　士族　川原權右衛門
仝　一俵　仝　帖佐喜左衛門

白米　一俵　士族　池田宇右衛門
仝　一俵　仝　濱川孫右衛門
仝　一俵　平民　部都伊八
仝　一俵　仝　屋部正右衛門
仝　一俵　仝　南苗仁助
仝　一俵　仝　栗木與助
仝　一俵　仝　熊田眞次郎
仝　一俵　仝　平泉嘉右衛門
仝　一俵　仝　新留源次郎
仝　一俵　仝　中村五郎
〃白米拾二俵　但シ各二斗入

第四拾七大区四小区針持村

金四円　士族　阿萬助右衛門
金七円　仝　若松休助
金四円　仝　平原猪之助
金四円　仝　本内藤内
金四円　仝　兒玉孝内
仝四円　下田平助
仝四円　川野武記
仝四円　村岡重記
金四円　丸目仁七郎
〃金三拾九円
右ハ戦争中賊徒脅迫ニ付、勢不止得シテ差出員数候也、

第四拾七大区六小区

太良郷下手村

金七円九拾壱銭五厘　平民　田中善之丞
金四円　仝　藏元仲五郎
真米弐斗四升
金五円　仝　池田甚作
真米弐石四斗
真米弐石四斗　仝　廣橋源四郎
金拾八円三拾弐銭　仝　宮下七郎
真米九斗六升
真米弐石四斗　仝　山下甚之助
金拾円三拾銭弐厘　田中清太郎
金拾八円三拾弐銭　平民　繁田仙之助
〃金六拾三円八拾五銭七厘
真米八石四斗

第四拾七大区壱小区

太良郷南浦村平民

金三拾円　吉永五次右衛門
金五拾六銭　有村善四郎
金八円五拾銭　福吉勘助
真米壱石四斗四升　小門添喜之助
真米九斗六升　祝田十兵衛
〃金三拾九円六銭
真米弐石四斗
同村麓士族
金五拾銭
金弐円
金五拾銭
金五拾銭
金壱円五拾銭
金壱円
金七拾八銭九厘
金五拾銭
金五拾銭
〃金七円七拾八銭五厘
第四拾七大区一小区
太良郷重留村

金七円九拾七銭　平民　栫　善之丞
真米壱石三斗弐升
金拾壱円廿銭七厘　仝　宮園伊左衛門
真米六石壱斗六升
金弐円四拾六銭四厘　仝　宮園十太郎
金四円五拾七銭九厘　仝　任園甚太郎
金六円三銭二厘　仝　迫田甚之助
金二円五拾七銭八厘　仝　寺尾辰次郎
真米三石八斗五升六合仝　任園三太郎
金五円弐拾八銭九厘
金三円七銭八厘　仝　竹下新兵衛
金拾円五拾七銭八厘　仝　南　市次郎
金三円十八銭四厘　仝　宮園福太郎
金四円四拾弐銭弐厘　仝　馬場　市郎
〃金六拾壱円三拾八銭
真米拾壱石三斗三升六合

総計
金百七拾弐円八銭四厘
真米弐拾弐石壱斗三升六合

右ハ昨十年賊徒騒乱ノ際、賊本営ヘ米金差出候様脅迫ニ寄リ、頭書之通リ差出候由、

第四拾七大区六小区

太良郷下手村

金八円　内野七太郎

真米拾石八斗

金弐円五拾銭　米蒲喜之助

真米五石四斗五升

金三円　富吉勘助

真米五石弐斗八升

金六円　大田金太郎

真米四石三斗弐升

金拾円　盛満與助

真米拾七石弐斗八升

金九円　永吉太左衛門

真米四石三斗弐升

〃金三拾八円五拾銭

真米四拾七石四斗五升

第四拾七大区一小区

太良郷南浦村

金七円　吉永新五郎

真米五石五斗弐升

金七円　末吉權右衛門

〃金拾四円

真米五石五斗弐升

総計　金五拾弐円五拾銭

真米五拾弐石九斗六升

右ハ昨十年暴徒之節、夫卒被申付代人差出候際、手宛(当)トシテ米金頭書之通リ差出候由、

第四拾九大区六小区

牛山郷市山村

百拾弐番地平民　末吉源之進

白米五升五合　百拾三番地同　田畑小市

仝五升五合　百拾四番地同　前田藤右衛門

仝五升五合

白米五升五合　百十五番地平民　森田金四郎
全五升五合　百十七番地同　森田仲太
全五升五合　百十八番地同　千貫森右衛門
全五升五合　百十九番地同　千貫善左衛門
全五升五合　百二十一番地同　丸岡直助
全五升五合　百二十二番地同　滿田善太郎
全五升五合　百十壱番地同　滿田七太郎
全五升五合　百二十六番地同　前田源太郎
全五升五合　百二十八番地同　大森甚太郎
全五升五合　百二十九番地同　延岡休右衛門

白米五升五合　百廿五番地平民　田畑源治郎
全五升五合　百三十五番地同　泉　金助
全五升五合　百卅二番地同　森田休治郎
全五升五合　百四拾二番地同　森田與七
全五升五合　百七十九番地同　鶴田仙治郎
全五升五合　百八拾番地同　政元喜之助
全五升五合　百八拾壱番地同　久保西右衛門
全五升五合　百七拾六番地同　永吉利左衛門
全五升五合　百七拾四番地同　假屋小八
全五升五合　百八拾六番地同　政元龍助

白米五升五合　百六拾七番地平民　高松利兵衛
　　百七拾番地同
仝五升五合　久保早太郎
　　百八十八番地同
仝五升五合　田島作右衛門
　　百六十六番地同
仝五升五合　假屋吉左衛門
　　百六十二番地同
仝五升五合　政元仲太郎
　　百六十番地同
仝五升五合　岡元有助
　　百六十一番地同
仝五升五合　馬場仁助
　　百五十二番地同
仝五升五合　下城岩助
　　百五十番地同
仝五升五合　假屋良助
　　百九十九番地同
仝五升五合　池田萬四郎

〆壱石八斗壱升五合
第四拾九大区六小区青木村
　　七番地平民
白米弐斗　西屋敷市之助
　　十二番地平民
仝弐斗　西屋敷松之助
　　二十三番地平民
仝弐斗　片牧與治郎
　　四十番地平民
仝弐斗　北渡瀬有右衛門
　　四十三番地平民
仝弐斗　瀬ノ口權四郎
　　四十八番地平民
仝弐斗　飯塚良助
　　五十一番地平民
仝弐斗　飯塚郷右衛門
　　五十二番地平民
仝弐斗　富田金之助
〆壱石六斗
第四拾九大区七小区山野村

真米九斗八升五合
金拾九銭九厘九毛
平民
川津原休兵衛

真米壱斗四升二合
金拾銭
平民
堀ノ内善太郎

真米壱斗四升弐合
金四銭
平民
前原源六

真米壱斗四升二合
金拾銭
平民
上松市之進

真米二斗八升五合
金拾銭
平民
古川數右衛門

金拾九銭九厘九毛
平民
古川吉平

米壱斗四升弐合
金三銭壱厘六毛
平民
下松休左衛門

真米壱斗四升二合
金四銭
平民
東用善太郎

真米弐斗八升五合
金七銭八厘九毛
平民
中名良右衛門

真米弐斗八升五合
金拾銭
平民
山口喜納治

真米弐斗八升五合
金四銭
平民
池田仁太郎

真米壱斗四升弐合
金弐拾銭
平民
今薗藤兵衛

真米壱斗四升二合
金六銭五厘八毛
平民
東用新五郎

真米壱斗四升二合
平民
南薗仁四郎

金四銭

真米弐斗八升五合
金拾銭　平民　東薗半助

真米壱斗四升弐合
金四銭　平民　川平益太郎

真米二斗八升五合
金七銭八厘九毛　平民　宮薗正之助

真米二斗八升五合
金拾銭　平民　堀ノ内平右衛門

真米壱斗四升弐合
金三銭壱厘六毛　平民　平　伊三次

真米弐斗八升五合
金六銭五厘八毛　平民　新薗萬右衛門

真米弐斗八升五合
金四銭　平民　平　四郎右衛門

真米壱斗四升二合
金四銭　平民　内薗平次郎

真米壱斗四升二合
金六銭五厘八毛　平民　外平勘助

真米七斗五升
白米壱斗五升
金四銭　平民　門田小左衛門

白米五升
金三銭壱厘六毛　平民　宮下庄次郎

真米七斗弐升
白米壱斗弐升
金四銭　平民　奄屋敷太郎

真米五斗三升　西薗小八　真米六斗三升
白米五升　金弐銭三厘七毛　平民　宮下重右衛門
金三銭壱厘六毛　平民　下山野八右衛門
真米八斗　下山野利兵衛　金弐銭三厘七毛　平民　井手口熊太郎
白米八升　金二銭三厘七毛　平民　下山野杢太郎
金三銭壱厘六毛　平民　西薗甚六
白米壱斗　越替仙右衛門　金四銭　平民　細籾金右衛門
金三銭壱厘六毛　平民　金弐銭三厘七毛　平民　細籾藤右衛門
真米壱石弐斗　北薗勘之丞　金三銭壱厘六毛　平民　大籾小右衛門
金四銭　平民　井手口六右衛門　金二銭三厘七毛　平民　大籾喜治郎
白米五升　梶野木源治　金二銭三厘七毛　平民　瀬戸口喜太郎
金三銭壱厘六毛　平民　金弐銭三厘七毛　平民

金三銭壱厘六毛　平民　宮下三右衛門　金壱銭五厘八毛　平民　向野徳平

金二銭三厘七毛　平民　奄屋敷喜右衛門　白米六升　上志尾清八

金弐銭三厘七毛　平民　井内喜兵衛　金弐円

金二銭三厘七毛　平民　細籾和市　白米六升　平民　下小薗金兵衛

金弐銭三厘七毛　平民　梶野木仁助　白米三升　平民　狩所庄次郎

金弐銭三厘七毛　平民　下山野松右衛門　白米三升　平民　下小薗傳吉

金壱銭五厘八毛　平民　向野五郎兵衛　白米四升　平民　下小薗吉五郎

金壱銭五厘八毛　平民　向野松右衛門　白米弐升　平民　上小薗伊右衛門

金壱銭五厘八毛　平民　向野助右衛門　白米弐升　平民　平川與吉

金壱銭五厘八毛　平民　向野久右衛門　白米四升　平民　平川岩五郎

白米壱升　平川善太郎

白米六升　平民　平川仁之助　白米六升　平民　中薗金十
白米壱升　平民　梅木野仁四郎　白米弐升　平民　下志尾市右衛門
白米五升　平民　梅木野政右衛門　白米四升　平民　下志尾吉次郎
白米壱升　平民　梅木野甚右衛門　白米弐升　平民　竹下太左衛門
白米三升　平民　井樋原八右衛門　白米弐升　平民　上ノ村平次郎
白米四升　平民　榎木田與右衛門　白米七升　平民　上ノ村半助
白米五升　平民　川平徳左衛門　白米五升　平民　榎田喜太郎
白米壱升　平民　田村市之助　白米四升　平民　小出流三右衛門
白米四升　平民　上志野市八　白米壱升　平民　高野權助
白米五升　平民　下志尾清左衛門　白米壱升　平民　高野七兵衛

白米壱斗弐升　金弐円　平民　下長尾伊左衛門　白米八升　平民　中村權右衛門

白米壱升　平民　荒平清兵衛　白米壱斗　平民　中村太郎右衛門

白米五升　平民　尾ノ上庄右衛門　白米四斗　平民　芝越休左衛門

白米三升　平民　上長野太郎　白米七升　平民　下長野太郎

白米四升　平民　上長野新太郎　白米五升　平民　岩下傳次郎

白米壱斗　平民　上長野權九郎　白米三升　　岩下幸左衛門

白米壱斗　平民　尾ノ上庄次郎　白米壱升　平民　神杉喜太郎

白米八斗　平民　尾ノ上清右衛門　白米三升　平民　井立田庄次郎

白米壱斗九升　平民　久保長市　白米四升　平民　井立田源太郎

白米五升　平民　小屋敷孫右衛門　白米五升　平民　井手原矢三右衛門

白米三升	平民	井立田伊右衛門	白米二升	平民	本田源藏
白米壱升	平民	山下善藏	白米弐升	平民	黒田平六
白米五升	平民	井立田七左衛門	白米三升	平民	猪方松右衛門
白米二升	平民	井立田袈裟太郎	白米四升	平民	西牟田權藏
白米八升	平民	正城與助	白米五升	平民	赤池宗八
白米三升	平民	正城仁四右衛門	白米五升	平民	山下市左衛門
白米五升	平民	正城矢右衛門	白米三石五斗弐升		
白米三升	平民	正城袈裟太郎	真米九石壱斗八升四合		
白米三升	平民	正城新兵衛	金六円六拾七銭四厘四毛		
白米三升	平民	正城利兵衛	真米九石壱斗八升四合		

合計

金六円六拾七銭四厘四毛

白米六石九斗三升五合

真米九石壱斗八升四合

右ハ昨十年旧三月頃旧戸長共ヨリ暴徒ノ際、差出スヘク様被申付銘々頭書之通り差出候由、

第四拾九大区壱小区

牛山郷里村

真米弐俵	士族	山下市蔵	真米六升 士族 松ケ廻平次郎
真米弐俵	仝	新納善兵衛	仝弐升 仝 池田八郎太
真米五俵	仝		仝弐升 仝 山下歳次郎
〃九俵但シ二斗入			仝四升 仝 川添休右衛門
			仝弐升 仝 前原十次郎
			仝六斗四升 仝 永田四郎左衛門
			仝弐斗九升 仝 岩切才右衛門
			仝弐斗九升 仝 阿蘇谷休八
			仝六升 仝 橋口助太夫

同大区八小区牛山郷大島村

真米弐升	士族	吉井善左衛門	仝三斗五升 仝 田口友市
仝六斗四升	仝	鮫島彦左衛門	仝弐升 仝 赤池宗右衛門
仝三斗三升	仝	向山友右衛門	仝六斗九升 仝 田口八郎右衛門
仝六斗九升	仝	阿蘇谷源六	仝六斗四升 仝 久米田次左衛門
仝弐升	仝	松元吉左衛門	仝八斗四升 仝 永田慶左衛門
仝三升	仝	茂原鯉（ママ）右衛門	仝五斗六升 仝 鮫島正助
仝弐斗九升	仝	長谷川左中	仝六斗九升 仝 長野松熊
仝六升	仝	茂原藤八	仝三斗四升 仝 坂元萬角
仝弐斗三升	仝	長崎源助	仝六斗四升 仝 山元市助
仝四升	仝	松田半右衛門	仝三斗三升 仝 益崎礒之助
			仝六斗四升 仝 大迫嘉左衛門

真米五升　士族　岩崎袈裟
仝五升　仝　筑地雄倉
仝六斗弐升　仝　長野祐業
仝三升　仝　長野朝熊
仝弐升　仝　原田十右衛門
仝弐斗弐升　仝　永田源七郎
仝三斗弐升　仝　大迫作左衛門
仝弐升　仝　梅本吉次郎
仝三斗壱升　仝　本村松左衛門
仝六升　仝　山下傳右衛門
仝弐斗三升　仝　山下宗太
仝八升　仝　赤池伊之助
仝二斗三升　仝　上野新太郎
仝五斗八升　仝　是枝正藏
仝五升　仝　吉村伊太郎
仝六斗二升　仝　大迫喜左衛門
仝六斗二升　仝　大迫孝右衛門
仝三升　仝　春田八藏
仝三升　仝　松ヶ迫彦右衛門
仝壱石三斗九升　仝　伊尻休右衛門

真米四斗弐升五合　士族　内村角右衛門
仝四斗五升　仝　福留市兵衛
仝九斗壱升　仝　北原兼盛
〆拾六石四斗弐升五合

同大区八小区牛山郷金波田村

真米弐斗　平民　溝口藤兵衛
仝弐斗　仝　田畑太藏
仝弐斗　仝　新　市右衛門
仝二斗　仝　新　次郎
仝二斗　仝　柿本與助
仝二斗　仝　田畑善兵衛
仝二斗　仝　田畑太四郎
仝二斗　仝　西　太郎
仝二斗　仝　神領新助
仝二斗　仝　竹ノ尻長次郎
仝二斗　仝　庵跡彌助
仝二斗　仝　柳田彌兵衛
〆弐石四斗

同大区九小区牛山郷田代村

白米壱斗　士族　柳田仲八

白米壱斗　士族　手塚吉郎次
仝壱斗　仝　川口才之助
仝壱斗　仝　池松元之助
仝二斗二升　真米壱斗八升　仝　坂元七左衛門
仝三斗　真米壱斗　升　仝　前原藤助
仝三斗　真米壱斗二升　仝　柏木彦右衛門
仝壱斗　真米六升　仝　宮永正太郎
仝六斗　真米四升　仝　久木永權之助
仝一斗　真米六升　仝　川口亀易
〆白米壱石四斗八升　真米五斗八升

総計真米弐拾壱石弐斗五合　白米壱石四斗八升

右ハ昨十年賊徒騒擾之際、私学校等且旧戸長共ヨリ米金可差出旨被申付、一時脅迫ニ依リ前書之通リ差出候由、

鹿兒島県下第四拾九大区
三小区牛山郷小木原村

一白米壱斗　平民　内田勘兵衛
一仝壱斗　仝　八反丸十助
一仝五升　仝　永吉次郎助
一白米五升　平民　陣之内善左衛門
一仝壱斗　仝　瀬之口半左衛門
一仝五升　仝　熊ケ迫萬助
一仝五升　仝　熊ケ迫與次郎
一仝五升　仝　八反丸喜藏
一仝八升　仝　中村與左衛門
一仝三升　仝　中村休次郎
一仝五升　士族　内之浦源右衛門
一仝壱斗弐升　仝　後藤市郎次
一仝五升　仝　廣瀬吉左衛門
一仝壱斗五升　仝　丸山喜兵衛
一仝七升　仝　滿留平左衛門
合白米壱石壱斗

第四拾七大区四小区太良郷針持村

一白米弐斗　士族　内田文藏
一仝弐斗　仝　坂元藤助
一仝四斗　仝　下田平助
一仝弐斗　仝　下田八郎
一仝二斗　仝　下田半藏
一仝六斗　仝　本田藤内

一白米六斗　士族　兒玉孝内
一仝弐斗　平民　下田代助右衛門
一仝四斗　士族　中野喜左衛門
一仝弐斗　仝　佐土原與次右衛門
一仝弐斗　仝　丸目市郎
一仝六斗　仝　村岡重記
一仝弐斗　仝　川野武記
一仝四斗　仝　緒方傳八
一仝弐斗　平民　三角田市右衛門
一仝弐斗　士族　妹尾八之進
一仝弐斗　仝　佐土原才助
一仝四斗　平民　上田代源藏
合白米五石五斗
一金三円　士族　内田文藏
一金四円　仝　本田藤内
一金四円　仝　川野武記
一金四円　仝　阿万助右衛門
一金七円　仝　若松林助
一仝四円　仝　兒玉孝内
一仝壱円　仝　末原伊兵衛

一金壱円　士族　緒方傳八
一仝四円七銭八厘　仝　村岡重記
一仝四円　仝　下田平助
一仝壱円　仝　池田嘉左衛門
一仝壱円　仝　神田十助
一仝四円　仝　若松猪太夫
一仝壱円　仝　平原猪之助
一仝四円　仝　安藤與次郎
一仝五円　仝　墨木半兵衛
一仝四円　仝　櫻木六郎
一仝壱円　仝　丸目市郎
一仝弐円　仝　西村才二
一仝弐円　平民　針持喜左衛門
一仝壱円　士族　伊地知平助
一仝四円　仝　中村武兵衛
一仝弐円　仝　安藤源兵衛
一仝弐円　仝　成松伊右衛門
金七拾壱円七銭八厘

右ハ昨十年旧三月頃賊徒脅迫ニ付、勢不得止シテ差出之

員数ニ候也、

第四拾七大区三小区太良郷

永野村士族　市來新兵衛

第四拾七大区五小区太良郷

里村士族　竹下五右衛門

右之者共私学校党出発之節、志シヲ以テ差出之員数ニ候也、

第四拾七大区弐小区荒田村

一金弐円五拾銭　時吉嘉助
一同五拾九銭　米壱斗八升　坂之上長助
一同五拾九銭　同壱斗九升六合地頭萬丞
一同壱円　同四斗四升六合平水流半右衛門
一同弐拾銭　同四斗弐升　池之上彌兵衛
一同八拾銭　同弐斗弐升　坂上有助
一同壱円　同弐斗五升　瀬口仙之助
一同弐円四拾五銭九厘　徳卯田庄次郎
一金八拾銭　米壱斗八升　迫　善四郎
一同壱円弐拾銭　同九升　松下力右衛門
一同弐円拾銭　同七斗三升弐合馬ノ段與右衛門
一同七拾八銭　高原市之進
一同壱円四拾銭　溝口傳四郎
一同壱円拾銭　小屋傳四郎
一同四拾銭　橋口彦右衛門
一同三円　畑中市郎
一同壱円　鳥越金四郎
一同壱円　永田與助
一同拾壱円五拾銭　永吉小八
一同八円五拾銭　岩下喜左衛門
一米四斗六合　池之上萬助
〆金四拾三円九拾壱銭九厘
米弐拾弐石壱斗七升八合

第四拾八大区壱小区

菱刈郷川北村

一金壱円　出口善之丞
一同壱円　宮原嘉助

一金三円八拾五銭　堀ノ内伊右衛門
一同弐円　野間口甚右衛門
一同拾円　川畑長右衛門
一同弐円　吉留甚太郎
一同壱円　四元善五郎
一同壱円〇五銭四厘　今村十右衛門
一同三円四拾銭　宮脇甚藏
一同弐円四拾銭　橋口七太郎
一同弐円　福口甚太郎
合金弐拾九円七拾銭四厘

第四拾八大区弐小区
菱刈郷川南村

一金拾九円　倉野市藏
一同三円　川畑太平次
一同弐円　倉野庄次郎
一同弐円　山口袈裟市
一同弐円六拾三銭　久保八太郎
一同拾円
合金三拾六円六拾三銭

第四拾八大区二小区湯尾町

一金拾七円　山元勇吉
一金五円　湯ノ尾町中
合金弐拾弐円

第四拾九大区八小区
牛山郷旧羽月鳥巣村

一白米五升　田麥藤助
一同　同　坂ノ上長四郎
一同　同　北薗礒右衛門
一同　同　北薗助八
一同　同　上原正太郎
一同　同　下田麥佐太郎
一同　同　下田麥喜八
一同　同　木村與助
一同　同　島野袈裟太郎
一同　同　島門袈裟次郎
一同　同　中村勘左衛門
一同　同　今村有右衛門
一同　同　中須休右衛門

一白米五升　堂面清太
一同　同　一ノ宮正次郎
一同　同　堀内彌兵衛
一同　同　一ノ宮伊助
合米八斗五升

第四拾九大区八小区
牛山郷旧羽月鳥巣村之内薗田

一白米五升　大丸太郎
一同　同　堂前四郎
一同　同　岩坪新右衛門
一同　同　堂薗長次郎
一同　同　大丸仁四郎
一同　同　志滿喜兵衛
一同　同　井上袈裟助
一同　同　井上仁助
一同　同　瀬戸助右衛門
一同　同　松廻喜八
一同　同　松廻安右衛門
一同三升　小野福右衛門

一白米三升　上薗長右衛門
一同　同　中間三右衛門
一同　同　薗田喜助
一同　同　薗田千次郎
一同　同　岩坪八藏
一同　同　井上勘右衛門
合米七斗六升

第四拾九大区十小区
牛山郷旧羽月大島村

一白米五升　島田甚太郎
一同　同　今村半右衛門
一同　同　久保薗太助
一同　同　西　正太郎
一同　同　今村嘉右衛門
一同　同　久保田武右衛門
一同　同　中間喜八
一同　同　中間吉右衛門
一同　同　谷川善兵衛
一同　同　辻　藤左衛門

一白米五升　島田利右衛門
一同　同　大島平助
一同　同　鍛冶屋袈裟市
一同　同　鍛冶屋休八
一同　同　捧ヶ島熊助
一同　同　捧ヶ島清四郎
一同　同　田鞠與助
一同　弐升五合　北薗太郎
一同　同　鶴屋敷仲助
一同　同　西田次郎助
一同　同　御正薗長次郎
一同　同　御正薗榮右衛門
一同　同　小薗袈裟八
一同　同　西薗森右衛門
一同　同　坂元仲右衛門
一同　同　大島萬右衛門
一同　同　岡野佐太郎
一同　同　火ノ島傳吉
一同　同　中西勘右衛門
合米壱石壱斗五升

第四拾九大区拾小区羽月大島村
一金六円　支配中

第四拾九大区八小区
牛山郷堂崎村

一白米弐斗　今村伊右衛門
一同　同　今村與助
一同　同　内門有助
一同　同　内門長次郎
一同　同　外薗留次郎
一同　五升　外薗龜太郎
一同　同　内門藤兵衛
一同　同　西　市兵衛
一同　同　奥薗甚太郎
合米壱石弐斗

第四拾九大区拾小区
牛山郷下殿村

一白米弐斗　迫田直次
一同　壱斗八升　山口龜次郎

一白米壱斗弐升　外田正次郎
一同　同　外田又三郎
一同　六升　外苗袈裟市
一同　四升　野村仁助
一同　弐升　萩原小平
一同　同　島　清吉
一同　同　竹下小市
一同　同　岡野福右衛門
一同　同　種子田種次
一同　四升　萩山喜丞
一同　弐升　松山太市
一同　八升　柏木次郎吉
一同　六升　柳瀬十八
一同　壱斗八升　柳瀬彦四郎
一同　壱斗弐升　高津原仁助
一同　壱斗八升　高津原仙太郎
一同　弐斗　高津原正次郎
一同　壱斗弐升　西　森右衛門
一同　八升　西　太右衛門
一同　弐斗四升　前田金太郎

一白米弐斗四升　前田正次郎
一同　壱斗四升　前原袈裟助
一同　壱斗四升　前原藤右衛門
一同　弐斗六升　山下袈裟次郎
一同　弐升　前原惣五郎
一同　壱斗八升　瀬戸山仁右衛門
一同　弐升　鵜木仁右衛門
一同　七升　小森亀次郎
一同　弐升　小森有助
一同　同　鵜木萬次郎
一同　壱斗　堂薗甚右衛門
一同　同　山下三之丞
一同　弐升　今村太郎
一同　六升　前田袈裟助
一同　弐升　川口庄之助
一同　六升　是枝仁右衛門
一同　弐升　上原善左衛門
一同　同　寺師太四郎
一同　同　坂元善助
一同　三升　木原喜藏

一白米弐升　長石八太郎
一同　同　石島傳左衛門
一同　同　鵜木喜右衛門
合米三石七斗六升
右之通候也、

一金三千百拾六円六拾四銭
一米弐百廿石
右ハ昨明治十年騒擾之際、鹿兒島県下第百七大区二小区小林郷ニ於テ賊徒ヨリ脅迫サレ差出シタル分、

一金七百四拾九円四拾四銭
一米百石八斗五升六合
右前同断、同県下第百九大区四小区吉田郷、同三小区馬關郷ニ於テ脅迫サレ差出シタル金或賄ヒタル米穀、

一米三石五斗
右ハ前同断、同県下第百九大区二小区加久藤郷ヨリ賊徒ヘ賄ヒタル分、

一米百八拾三石四斗四升八合
一金六百七拾壱円九拾九銭
右前同様、同県下第百九大区二小区飯野郷ヨリ差出シタル分、

（中表紙）

客歳郷村人民ヨリ賊徒ヘ寄附
米金合計取調　都城郷

都城郷

一金百弐拾七円拾八銭七厘四毛　郡代所
一米拾三俵三斗五升　仝
一金千六百六拾弐円三拾一銭六厘一毛　上町
一酒三百盃　仝
一金三百八拾四円六拾銭　西町
一米四俵　仝
一金千三百九拾九円　中町
一酒六拾盃　仝
一金拾四円八拾七銭五厘　五十町村
一金六円七拾八銭　川東村